

尾道市立大学

Onomichi City University

表-2 目次
表-2 (裏) キャンパスマップ

P-001~007

P-001 大学理念
P-002 学長挨拶
P-003 副学長挨拶
P-004 目標、アドミッション・ポリシー、組織図
P-005 入試データ
P-006-007 カリキュラム

尾道市立大学概要

Campus Life

P-008~015

P-009 バックアップ体制
P-010-012 キャンパスライフ
P-013 学生食堂、コンビニ、画材店
P-014-015 クラブ、サークル活動

キャンパスライフ

Economics, Management & Information Science

P-016~043

P-018 学部長挨拶
P-019 アドミッション・ポリシー
P-020-021 学科紹介
P-022-027 経済コース
P-028-033 経営コース
P-034-038 情報コース
P-039 高度資格取得者インタビュー
P-040-041 卒業論文
P-042-043 経済情報学科の特色

経済情報学部・経済情報学科

Japanese Literature

P-044~071

P-046 学部長挨拶
P-047 アドミッション・ポリシー
P-048-049 授業の現場から
P-050-051 日本文学科を考えているあなたへ
P-052-053 文芸創作
P-054-063 研究分野紹介
P-064-065 おのみち文化スタディ、フィールドワーク
P-066 尾道文学談話会
P-067 研究会活動
P-068-069 おのみち文学三昧、日本文学会
P-070 卒業論文完成までの道のり
P-071 卒業論文・卒業制作題目一覧

芸術文化学部・日本文学科

Art & Design

P-072~109

P-074 学部長挨拶
P-075 アドミッション・ポリシー
P-076-077 工房、設備
P-078-083 日本画コース
P-084-089 油画コース
P-090-095 デザインコース
P-096-105 美術学科教員一覧
P-106-107 卒業制作
P-108-109 卒業生の声

芸術文化学部・美術学科

University Museum

Community Collaboration & Outreach Office

University Library

Information Technology Services

Teacher Education Center

International Office

Health Support Room & Student Counseling Room

Career & Employability Services

P-110~132

P-112-113 尾道市立大学美術館
P-114-115 地域総合センター
P-116-117 尾道市立大学附属図書館
P-118 情報処理研究センター
P-119 教職支援センター
P-120-123 国際交流センター
P-124-125 医務室、学生相談室
P-126-129 キャリアサポートセンター
P-130-131 就職活動体験記
P-132 大学院 研究科

各種施設

表-3 (裏) 尾道市立大学周辺マップ
表-3 尾道市立大学の沿革

尾道市立大学 Campus Map

工房・クラブ棟

金工・木工・塗装・彫刻・陶芸・写真・版画・CGなど、さまざまな専門の工房があります。
また、体育館やグラウンド、クラブ棟などサークル活動で利用できる場所も豊富にあり、のびのびと活動ができます。

E棟・D棟・C棟

学生の学びの場。
E棟は教室のほかに事務室や医務室、C棟はキャリアサポートセンターや情報処理研究センターがあり、学生生活をサポート！
D棟では日々美術学科の制作が行われています。

オヤマノカフェ (学生会館内)

栄養バランスの整った定食から、おしゃれなカフェメニューまで！スイーツもあるので休憩にもぴったり。安くておいしい学生の味方です。

翠明館

尾大生憩いの場所。1階はコンビニや画材屋さん、ラウンジが入っています。シャワー室もあるので、サークルで運動した後も安心です。
2階にはPCと印刷機完備の自習室があります。
学生証があれば夜10時まで出入りできます。

ニューヤマザキデイリーストア

お昼ご飯やおやつ、文房具やギフトカードまで幅広く揃っています。

ウエダ画房

美術学科は必ずお世話になる画材屋さん。油絵・日本画・デザインの制作に必要な画材等が揃っています。



尾道市立大学の理念

「知と美」の探究と創造

尾道市は、古くから瀬戸内の要衝として経済的な発展を遂げるなかで、美しい風光を背にすぐれた芸術文化を生み出し継承してきました。このような尾道の地の特性を生かして設立された尾道市立大学は、経済情報学部と芸術文化学部の2学部をもち、芸術文化学部には日本文学科と美術学科の2学科をおく公立大学です。

尾道市立大学は、このような学部・学科構成の特徴を生かしつつ、人と情報が集まって「知と美」を探究する場、そのなかで新たな「知と美」を創造しその成果を社会に発信する場、そして学問と人間的触れ合いを通じて有為な人材を育成する場となることによって、学術・文化の向上と社会の発展に貢献します。



学長
荒井 貴史

尾道市立大学は、瀬戸内の十字路として交通の要衝である尾道市に立地して、これまで地域と共に発展して、特長・特色ある教育を实践して参りました。それは、先人達が努力して築いてきた尾道という地域での高等教育機関としての歴史と伝統を基盤としております。本学は、最高学府として社会からの負託に応えつつ、本学の理念である「知と美」の探究と創造によりさらに学問領域を発展させるとともに、その成果を学生教育に展開して次世代に伝達しております。また、公開講座等により地域社会にも還元しております。

本学は、経済情報学部経済情報学科、芸術文化学部日本文学科、芸術文化学部美術学科の2学部3学科と大学院の経済情報研究科、日本文学研究科、美術研究科の3研究科からなる規模としては小さな公立大学ですが、中国・四国地域を中心としながら、全国各地から本学で学びたい(尾道で学びたい)学生が集まっております。そうした意欲ある学生たちは、各教育課程で学修者本位の教育を通して専門分野の所定単位数を修得することで、学問の研鑽を積んでいきます。そして、本学のディプロマ・ポリシー(DP)で示している以下の3つの学修成果を達成して、企業や地域から求められる有為な人材として社会に羽ばたいていっています。

(知識・技能)

DP1: 幅広い教養と専門的知識・技能を修得し、それらを総合的に活用することができる。

(思考力・判断力・表現力)

DP2: 専門的知識・技能を活用した思考を通して、課題の発見や解決、表現の探究に取り組むことができる。

(主体性)

DP3: 豊かな人間性と幅広い視野をもち、主体的に問題解決や社会における実践に取り組むことができる。

優秀な学生を社会に多く送り出すことは、公立大学である本学のミッションであることは言うまでもありません。さらに、尾道の地域で学んだ卒業生・修了生が、それを国際社会や地域での活動で「強み」に出来るように、すなわち「尾道での学びを誇れる大学」となるように努力しております。そして、地域の皆様、関係諸機関の皆様のご協力とご支援を賜りながら、公立大学として本来のミッションを遂行するとともに、「地域と共に育つ大学」でありたいと思います。



副学長
前田 謙二

高校までの勉強ではすでに答えのある問題を如何に早く正解するのが重視され、暗記中心の反復練習でした。しかし、皆さんが大学を卒業して社会に出れば、未解決の問題が山積みです。たとえば、会社に入社したとして新製品の開発を担当したとしましょう。どのような商品を開発すれば売れるのかという問題に正解があるわけではありません。会社は何十年も新製品を開発していても、実際に売れる新製品をなかなか作ることはできません。このように社会では、正解のない課題を何年も考え抜き、いろいろと試してみても、工夫することが求められます。特に、インターネットやAIの進歩などを考慮すれば、単なる知識の暗記では、今後必要とされる人材にはなれないでしょう。

では、学生は大学で何を学ぶ必要があるのでしょうか。高校までのような正解のある問題を早く解く練習ではなく、社会で必要とされる正解のない問題へ対処できる練習を行うことが必要になります。つまり、自分で長く考え続け、人の意見を聞き、何らかの解決策などを見つけ出す練習が必要になります。そのためには、常に「なぜ」と疑問を持つことがスタートになると思います。

本学では学生が演習などで卒業論文や卒業制作等を完成させることとなります。この演習などは教員と学生との距離も近く、特に社会に出て必要な力を養うことができる場になっています。是非、社会で使える力を本学で身につけて下さい。



副学長
桜田 知文

尾道は中世の開港以来、「北前船」の寄港する瀬戸内随一の良港として繁栄しました。また、その繁栄により尾道には多くの豪商が現れ、お寺の建立や茶園と呼ばれる別荘・庭園を競うように整備し、箱庭的都市が生み出されました。

明治時代には山陽鉄道が開通し、1999年には瀬戸内しまなみ海道、2015年には中国横断自動車道が全線開通し「瀬戸内の十字路」が完成しました。

しまなみ海道は、温暖な気候を利用した柑橘の栽培が盛んで、また世界有数のサイクリングコースでもあります。

また、尾道は「坂のまち」「文学のまち」「映画のまち」としても知られ、最近ではアニメやゲームの聖地としてや、「猫のまち」としても有名になりました。

尾道はコンパクトな街です。街がとても身近です。昔から続く祭りや、近年始まったイベントも多く、それらに参加する学生も沢山います。またコンパクトな尾道だからこそ出来る事は沢山あります。地元企業とのコラボレーションや商品開発など、尾道には大学での授業だけで終わらせるのではなく、学んだことを実践する場が、たくさん用意されています。

尾道にはドキドキワクワクが詰まっています。受動的な大学生活でなく、能動的に大学や街を活用することが肝要で、有意義な4年間になることと思います。

<教育：培う尾道市立大学>

尾道市立大学は、専門分野における確かな知識と能力、そして豊かな教養と広い視野をもち、地域社会および国際社会に貢献し得る人材を育成します。このため、本学の特色である少人数教育の利点を生かしつつ、「教学半」(教うるは学ぶの半ば)の精神のもと、教員と学生が人間の触れ合いのなかで共に学び、「知と美」に対する強い好奇心と探究心、しっかりした基礎学力と高い専門能力、そして豊かな人間性を培う教育を実践します。

<研究：拓く尾道市立大学>

尾道市立大学は、実り豊かな教育には不断の研究とそれによって培われた基盤が必要であるとの考え方にもとづいて、新しい「知と美」の地平を切り拓く独創的な研究を目指します。

このため、すべての構成員が対等の立場で相互に協調し啓発し合い、異分野間の協働および外部組織との連携を積極的に進めながら、「知と美」の創造へ向けた学術研究を実践します。

<社会貢献：活かす尾道市立大学>

尾道市立大学は、教育と研究を通して培い拓いた「知と美」の成果を絶えず外部に発信することによって、それらが社会に活かされることを目指し、社会からの信頼と期待に応えていきます。

このため、地域社会との連携を図りつつ、世界的視野をもって教育研究に取り組み、有為な人材を社会に送り出すとともに独創的な研究成果を国内外に向けて発信します。また、国際交流や留学生教育などにより、大学の国際化を積極的に推進します。

入学者の受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)

教育の理念・目的と求める学生像

尾道市立大学の教育は、専門の学芸と幅広い教養を身につけ、知的能力および豊かな人間性を発揮できる人材を育成すること、また、地域社会との連携・交流を重視し、広く地域に開かれた大学として芸術文化の向上と産業の活性化に貢献できる人材を養成することを目的としています。

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けることのできる者として、次のような人の入学を受け入れます。

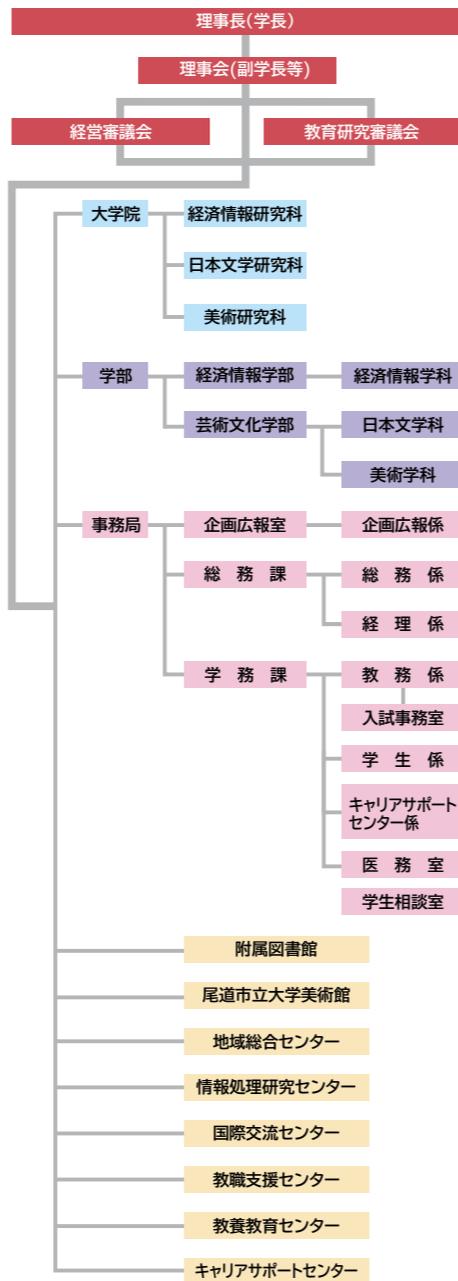
[知識・技能] [思考力・判断力・表現力]

- ・学問や芸術を学ぶことを通じて、豊かな心と幅広い視野を持ちたいと願う人
- ・知と美に対する探究心と創造意欲のある人
- ・専門的知識・技能を身につけ、地域社会や国際社会に貢献したい人

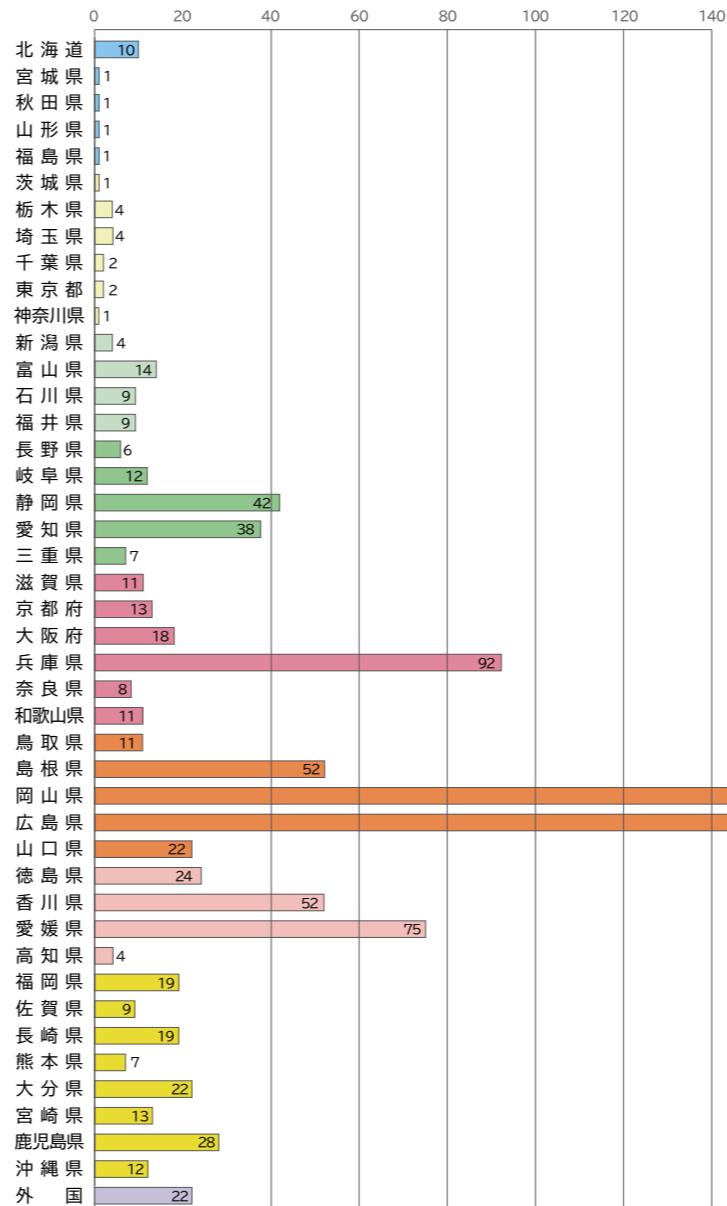
[主体性・多様性・協働性]

- ・何事にも好奇心をもって積極的に挑戦し、自己の目標に向かって不断の努力をする人
- ・主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ人

各学部・学科では、これらに関連する入学前の能力や適性について、それぞれのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーをふまえ、多面的・総合的に評価し、入学者の選抜を行います。



出身地別在籍者数(学部生) 在籍者数 学部生 1,375人



2025年度尾道市立大学入学試験結果

学部				
●学校推薦型選抜				
学部・学科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
経済情報学部 経済情報学科	70	124	124	70
芸術文化学部 日本文学科	15	48	48	15
芸術文化学部 美術学科	12	54	54	13
計	97	226	226	98

●一般選抜 前期日程

学部・学科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
経済情報学部 経済情報学科	100	208	189	136
芸術文化学部 日本文学科	30	112	108	39
芸術文化学部 美術学科	23	65	65	25
計	153	385	362	200

●一般選抜 後期日程

学部・学科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	
経済情報学部	経済情報学科 Aコース	15	282	73	56
	経済情報学科 Bコース	15	201	58	40
	合計	30	483	131	96
芸術文化学部	日本文学科	5	161	54	10
	美術学科	15	122	75	20
計	50	766	260	126	

●私費外国人留学生選抜

学部・学科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	
経済情報学部 経済情報学科	若干名	10	9	6	
芸術文化学部	日本文学科	若干名	4	2	0
	美術学科	若干名	0	0	0

●第3年次編入学試験

学部・学科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
経済情報学部 経済情報学科	若干名	0	0	0
芸術文化学部 美術学科	若干名	4	4	2

大学院				
研究科・専攻	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
経済情報研究科	8	1	1	1
日本文学研究科	6	0	0	0
美術研究科	12	16	16	10
計	26	17	17	11

教養教育科目

教養教育科目は、多彩な講師陣、様々なジャンルの講義により幅広い視野と知識が得られるように構成されています。

地域・キャリア系科目

尾道学入門/地域の伝統文化(囲碁) / キャリア形成入門/キャリア形成演習/ビジネスキャリア入門

人文科学科目

人生の哲学/生命倫理/論理学/東洋思想/心理学入門/日本の文学/文章表現法(学術的文章)/文章表現法(実用的文章)/美術表現入門/美術の歴史と鑑賞/演劇の歴史と鑑賞/文化財学/思考とデザイン/
Topics in Language, Culture, and Society/日本文化史(経済情報)/瀬戸内文化論(経済情報)/
民俗学I(美術)/民俗学II(美術)/メディアグラフィックス概論(日本文学)/編集とデザイン(日本文学)

社会科学科目

現代社会と人間行動/法学概論/日本国憲法/世界歴史の流れ/日本歴史の流れ/政治学入門/社会思想史/現代の経済学/
社会保障入門/社会学入門/メディア論/文化社会学/民法入門/簿記入門(芸術文化)/
ファイナンシャル・プランニング(芸術文化)

自然科学科目

教養数学/物理学入門/地球と宇宙/物質の世界/生物学入門/科学技術の進歩/情報科学入門/建築環境論/
数学の基礎と歴史/情報と倫理(芸術文化)/統計学I(芸術文化)/人間工学概論(経済情報・日本文学)/
数理・データサイエンス・AI入門

健康スポーツ科目

健康スポーツ学/健康スポーツ実習I/健康スポーツ実習II/野外スポーツ実習

外国語科目

総合英語I/総合英語II/TOEIC I/TOEIC II/応用英語I/応用英語II/上級英語I/上級英語II/ドイツ語I/
ドイツ語II/フランス語I/フランス語II/中国語I/中国語II/日本語I/日本語II/海外語学実践I/海外語学実践II

経済情報学部

主要専門科目

専門基礎科目	経済学入門I(ミクロ)	経済学入門II(マクロ)	経営学入門	簿記入門	商業簿記	工業簿記	情報とコンピュータ				
	情報活用基礎I	情報活用基礎II	ファイナンシャル・プランニング	統計学I	統計学II	基礎数学I	基礎数学II				
共通専門科目	財政学I	財政学II	金融論I	金融論II	経済政策I	経済政策II	経営学総論	経営情報論	情報と倫理		
	経済経営情報実習	多変量解析	民法	企業法	商法	行政法	外国書講読I	外国書講読II	ビジネス英語		
演習	基礎演習I	基礎演習II	専門演習Ia	専門演習Ib	専門演習IIa(卒業研究)	専門演習IIb(卒業研究)	特別演習I	特別演習II	特別演習III	特別演習IV	
	特別演習V	特別演習VI									
経済系	ミクロ経済学I	ミクロ経済学II	マクロ経済学I	マクロ経済学II	環境経済学	計量経済学	経済学史	経済史	日本経済史	地域経済史	
	産業組織論	日本経済論	社会政策	社会保障	国際経済学	国際金融論	公共経済学	地方財政論	アジア経済事情		
経営系	経営組織論	マーケティング論	経営戦略論	経営管理論	企業論	国際経営論	経営史	租税論I	租税論II	会計学概論	
	経営分析論	財務管理論	税務会計論	管理会計論	財務会計論	監査論	原価計算論	製品開発論	国際法	消費者行動論	
情報系	プログラミングI	プログラミング実習	プログラミングII	プログラミングII実習	機械学習と人工知能	情報基礎理論	マルチメディア論	ネットワーク科学	情報ネットワーク		
	情報システム設計論	情報システム設計実習	データベース	ビッグデータ活用	CGと画像解析	ビジネスとデータサイエンス	情報セキュリティ	システム監査とITマネジメント	情報と職業		
職業指導系	職業指導										

日本文学系

芸術文化学部

美術学系

学部共通科目	芸術文化論	日本文化史	比較芸術論	瀬戸内文化論							
日本文学系	日本文学概論	日本文学史I(上代)	日本文学史II(中古)	日本文学史III(中世)	日本文学史IV(近世)	日本文学史V(近代)	日本文学講読I(上代)	日本文学講読II(中古)	日本文学講読III(中世)	日本文学講読IV(近世)	
	日本文学講読V(近現代)	日本文学講読VI(近現代)	日本文学講読I(上代~中世)	日本文学講読II(近世)	日本文学講読III(近現代)	日本文学講読IV(近現代)	日本文学特別講義				
日本語学系	日本語学概論	日本語表現法	日本語史	日本語学講読I(古典語)	日本語学講読II(現代語)	日本語学講読III(古典語)	日本語学講読IV(現代語)				
中国欧米文学	中国文学概論	中国文学講読	中国文学講義	欧米文学概論	欧米文学講義	比較文学					
関連科目	日本歴史概説I	日本歴史概説II	美学	日本美術史I	日本美術史II	東洋美術史I	東洋美術史II	西洋美術史I	西洋美術史II	書道I	書道II
	民話研究	民俗学I	民俗学II	古文書学	文芸創作入門	文芸創作特別演習	情報処理演習	フィールドワーク	日本文学のための英語	言語学講義	日本文学と現代思想
演習・卒論	古典文学基礎演習	近現代文学基礎演習	日本語学基礎演習	中古文学専門演習a	中古文学専門演習b	中世文学専門演習a	中世文学専門演習b	近世文学専門演習a	近世文学専門演習b	近現代文学専門演習Ia	近現代文学専門演習Ib
	近現代文学専門演習IIa	近現代文学専門演習IIb	現代語学専門演習a	現代語学専門演習b	古典語学専門演習a	古典語学専門演習b	言語学専門演習a	言語学専門演習b	中国文学専門演習a	中国文学専門演習b	
	欧米文学専門演習b	欧米文学専門演習b	文芸創作専門演習a	文芸創作専門演習b	国語教育学専門演習a	国語教育学専門演習b	伝承文学専門演習a	伝承文学専門演習b	卒業論文(構想・準備)	卒業論文(制作)	
学部共通科目	芸術文化論	日本文化史	比較芸術論	瀬戸内文化論							
専門基幹科目	美学	日本美術史I	日本美術史II	東洋美術史I	東洋美術史II	西洋美術史I	西洋美術史II	デザインI	デザインII	デザイン論	
	美術解剖学	空間造形論	図法及び製図	金工演習	写真(映像)演習	木工演習	塗装法演習	壁画技法演習	テンペラ画技法演習	版画制作演習	
基礎造形科目	デッサン基礎実習	構成実習	彫刻	総合基礎実習							
専攻実習科目	日本画	日本画実習I	日本画実習II	日本画実習III	古美術研究(演習)	卒業制作					
	油画	油画実習I	油画実習II	油画実習III	古美術研究(演習)	卒業制作					
	デザイン	デザイン実習I	デザイン実習II	デザイン実習III	古美術研究(演習)	卒業制作					
関連科目	文化財保存学概論	人間工学概論	情報機能論	書道	古文書学	メディアグラフィックス概論	編集とデザイン	情報処理演習	言語学講義		

Campus Life



キャンパスライフ

有意義な学生生活のための
さまざまな支援制度を備えています。

奨学金制度

日本学生支援機構および尾道市立大学奨学会等の奨学金制度を設けています。また、民間企業や地方公共団体等による奨学金の案内についても、随時お知らせしています。

●日本学生支援機構奨学金

- ・給付奨学金
- ・第一種奨学金(無利子) ・第二種奨学金(有利子)

●尾道市立大学奨学会奨学金

無利子貸与 月額30,000円(若干名)

●尾道市立大学成績優秀学生奨学金

本学における学業成績が特に優秀であると認められた学部生に対して、学修意欲の更なる向上を目的として、年額100,000円を給付する奨学金制度を設けています。

授業料減免制度

経済的理由や風水害等の災害を受けたことなどにより、授業料の納付が困難な学業成績が良好な学生に対する経済的支援として、授業料減免制度があります。また、国の「高等教育の修学支援新制度」も対象です。

チューター制度

指導教員(チューター)を中心に経済情報学科では10人程度、日本文学科・美術学科では5人程度のグループをつくり、同級生や先輩・後輩との絆を深めていく制度です。チューターはグループの学生の相談相手になり、またグループの学生と一緒にレクリエーションを楽しむこともあります。

資格取得支援講座及び資格取得者に対する奨励金給付制度

公務員受験対策講座、情報技術資格対策講座等の課外講座を開講し、学生の進路支援、就職活動に向けた実力を養成しています。また、独力で資格等を取った学生に対し、奨励金を給付する制度もあります。

オフィスアワー

学業その他の相談を受けるため、全教員がそれぞれ日時を決めて、研究室で待機しています。

学生相談(カウンセリング)・健康相談

自宅から離れた新しい暮らしや通学環境の変化など日常生活上の悩み、大学での人間関係の悩み、精神面や身体面での心配事などについて、保健師・看護師が常駐する医務室にお気軽に相談に来てください。また、公認心理師/臨床心理士によるカウンセリングを受けることもできます(予約制)。

下宿等について

尾道市内には学生向けのワンルームマンション、アパートや寮があります。また、本学の周辺には食事付きの学生寮もあります。これらはすべて民間経営です。希望者には、アパート等の資料をお渡ししています。

その他

学生または学生で構成する団体が、スポーツ・文化・社会貢献等の各分野の活動において、特にすぐれた成果を挙げた場合、学長からの表彰があります。

経済情報学科3年

古川 智晴

私は相対的に数学が得意だったため、理系出身です。将来の進路を考える中で、私が高校生だった頃は、COVID-19の影響でリモートワークが進んだり、観光業の不振で経済が停滞したり、その結果倒産した会社の話がニュースで流れたり、とそれまでとは大きく変わってしまうかのような世の中でした。そこで、社会に出た後に携わる企業・会社のこと、お金の絡んだ経済のこと、情報のことなど、何か役に立ちそうなことを学べそうだなと思ったことが、本学を受験したきっかけの一つです。

尾道市立大学は小さな大学です。少人数で受講する授業も充実していて、中でも特別演習という授業では、専門性の高い内容を学んでいます。私は産業連関分析や企業のM&Aなどを学びましたが、他にも人工知能と古文書を結び付けたり、観光に関するDXといった研究もしているそうです。これらの授業は少人数なので、先生に質問しやすい環境があるのも勉強に最適だと思います。

大学に入ってからできた友人は、出身が岡山、香川、広島、宮崎などバラバラですし、高校までの勉強内容も違ってきます。私は簿記は苦手なので、商業科出身の同級生に助けてもらっています。反対に私は彼女に数学を教えています。お互いに足りないところを補足しあえるのは、文系や理系、普通科や商業科出身の様々な学生が揃う本学のいいところだと思います。勉強も頑張りますが、息抜きでパーティをやったり、温泉やライブに行ったりして仲良く過ごしています。

一週間のスケジュール					
時間割	月	火	水	木	金
1限	商業簿記				
2限	文章表現法 (学術的文章)	経済政策 I	財務会計論	生物科学入門	マクロ経済学 I
3限	特別演習Ⅲ		財政学 I	経済情報論	金融論 I
4限	工業簿記	生産管理論			ミクロ経済学 I
5限					

この授業では、世の中の様々な商品が作られる際の生産過程を学びました。例えば、自動車産業が大量生産システムを起用している話や、グローバル化が進む中でのお話等を学びます。生産拠点をいろんな国に置くことで、円高とか円安とかの為替変動の影響を考慮できるそうです。

香川県立坂出高等学校 出身



●大学の授業以外では、週に4回ほど、ホテルと塾でアルバイトをしています。ホテルでは受付をはじめとした全般的な業務に携わっていて、観光地でもある尾道では、週末には出身地や年齢も異なる様々な方々との出会いもあります。

経済の動向について基本的なことから学びます。例えば、最近モノの値段が上がってきていることを実感しますが、この現象をインフレーションと呼びます。働いてもらうお給料が増えるためにも必要なことだったりしますが、短期的には家計に厳しいですね。。。

※2年次(2024年度)前期の時間割です。

日本文学科3年生

尾崎 美雨

長崎県立大村高等学校 出身

私が本学の日本文学科を志望した理由は、古典が好きで中でも平安文学が好き、学びたいという漠然としたものでした。長崎県の高校に通っていたため、進学先は九州・山口県内を考えていましたが、当時頼りにしていた先生に「古典が好きなら」と本学を教えてくださいました。入学後、専門的な日本文学の学びが始まりました。大学生としての細かな読み方、これまでに発表された研究成果を基に新たに考えられる問題点、全く知らなかった作家・作品の存在など全てが新鮮で信じられないほど面白く、入学できて本当に良かったと思いました。平安文学を学べたら良いなと考えていましたが、他の時代の文学作品も広く学べ、さすが決して浅くなく、面白い!と感じる深い学びを得られます。もちろん、文学だけでなく、文法や方言、音声など日本語学の勉強も!

大学入学前から中古文学(平安文学)が好き!勉強したい!と考えていたため、思いを変えずに中古文学ゼミに進みました。ですが、どの分野も本当に面白過ぎて、時間があれば全てのゼミに入りたいです!(笑)。様々なことを知ることができるため国語が好きな私にはとてもぴったりの学科でした。

また、本学の良いところとして勉強のしやすさを挙げます。周囲が山に囲まれた静かな環境であることもありますが、先生の親しみやすさが一番大きいです。この点が最も勉強のしやすさに繋がっていると感じています。授業後に講義内容についてお話を伺いにくくと、どの先生も笑顔で接してくださいました。他の学科の先生も優しく、丁寧に接してくださいます。

一週間のスケジュール					
時間割	月	火	水	木	金
1限	法学概論		博物館展示論		
2限		演劇の歴史と鑑賞	応用英語 I	博物館情報・メディア論	
3限				書道 I	
4限	日本語史	日本文学講義Ⅲ(中世)	中古文学専門演習a		
5限			日本文学史Ⅱ(中古)		

「演習」と講義名に付く科目では、学生による発表形式の授業がよく行われます。この授業では先生が選んだ中古(平安時代)の文学作品から自分の興味ある箇所について研究し発表します。今年は「古今和歌集」が選ばれ、気になる和歌や好きな歌人について沢山研究を行うことができ、とても楽しかったです。

※2年次(2024年度)前期の時間割です。



●私は1週間を大学の授業とアルバイトをして過ごします。大学の近くに住んでいるため、時間を気にせず図書館で勉強したり、調べ物をしたりすることができ、平日のうちほとんどの時間を大学で過ごします。学生が自由に利用できる「翠明館」には自習室があり、遅い時間まで利用できるため、家では課題に集中できないかも……という時にはその自習室に向かいます。休日は喫茶店でアルバイトをしています。自宅から少し離れた場所ですが、尾道の観光スポットを巡り、散歩しながら向かうのはとても楽しいです!何もない日には向島まで足を伸ばしたり、自宅で読書をしたりしています。

学芸員の資格取得を目指している学生が受講する授業です。日本文学科では、教員免許資格と学芸員資格の取得を目指すことができ、それぞれに単位修得が必須の授業があります。この授業では博物館・美術館で活用できる情報システムやメディアについて学修したり、国内外の博物館・美術館で行われている情報メディアを使用した取り組みについて学んだりすることができます。資格取得に関する授業の多くで、学芸員になったら……と将来働いている姿を考えます。

美術学科4年

村上 桃花

私は、1年次に油画、日本画、デザインのすべてを学べるカリキュラムに魅力を感じ、本学に入学しました。それぞれの課題に取り組む中で、これまで経験のなかった技法を用いた作品制作を行い、その技法ならではの魅力を実感しました。また、異なる専攻の学生たちと共同で作品を制作することで、お互いの創作活動に良い影響を与え合うことができました。

2年次からはデザインコースを選択し、その中でもグラフィック・アドバタイジング専攻に進みました。本学のデザインコースで特に大きな課題の一つが「地域プレゼンテーション」です。この課題では、地域活性化を目的に、自身の出身地や尾道をテーマとした制作を行います。地域の魅力をどのように引き出せるかを考え、同じコースの学生や先生と試行錯誤を重ねながら作品を仕上げていきます。さらに、実際に尾道で活躍するデザイナーの方々に作品を見ていただく機会もあり、課題の枠を超えた実践的な学びが得られます。私はこの課題を通じて、デザインが地域の課題を解決できることや、商品の魅力を引き出し目に留めてもらえるデザインの力を改めて実感しました。

尾道には美術館やギャラリーが多く、市の美術館からアーティストの個展まで幅広い展示が行われており、芸術に触れる機会が豊富にあります。また、展覧会やグループ展・個展を企画し、地域の方々や観光客に自身の作品を見てもらうことも可能です。こうした環境の中で、自由に芸術活動を続けられることを嬉しく思います。

広島県立尾道東高等学校 出身



オヤマノカフェ(学生食堂)



オヤサイ定食 各種カフェドリンク ハンバーグ定食
オムライス チキン南蛮定食

演習系の授業では設備が整った工房で作品制作を行います。外部の講師の方から、より専門的な技術を学べる機会もあります。

一週間のスケジュール

時間割	月	火	水	木	金
1限	版画演習	塗装法演習			
2限	版画演習	塗装法演習			瀬戸内文化論
3限					
4限			実習		
5限					

制作締め切り間際は月曜やその他の曜日の空きコマを利用して実習を行うこともしばしばあります。

● サークル活動

サークル活動ではアカベラ部に所属しています。学内での定期公演から、外部でのアカベライベントに参加したりと活発に活動しています。今まで音楽をやったことがない人でも簡単に始められます。曲決めから本番まで部員全員で協力して、楽しく練習しています。

● 休日

休日は各地で開催される展覧会を見に行ったり、古着屋を巡ったりしています。また尾道ではイベントやお祭りごとが多いので、訪れてみると尾道ならではの魅力を知れるかもしれません。

※3年次(2024年度)前期の時間割です。



ニューヤマザキデイリーストア



ウエダ画房

尾道市立大学にはさまざまなクラブ、サークルや同好会があり、文化系からスポーツ系まで幅広いジャンルが存在します。



クラブ・サークル、同好会一覧表

●部活動

アウトドア部
硬式テニス部
硬式野球部
サイクリング部
サッカー部

セパタクロー部
ソフトテニス部
卓球部
ダンス部
軟式野球部

バスケットボール部 (男子)
バレーボール部 (女子)
バレーボール部 (男子)
バドミントン部
ハンドボール部

フットサル部 (女子)
フットサル部 (男子)
モルック部

●文化系

学生会執行委員会
翠郷祭実行委員会

アカペラ部
裏千家茶道部

速水流茶道部
演劇部

軽音楽部
ゴミ部



写真部
吹奏楽部
推理小説研究部

陶芸部
ひかりアート研究部
美術史研究会

漫画研究部
文芸部
ラテン部

●同好会

朝活同好会
映画同好会
おのだい教室
おの 100 同好会
尾道書道会

OTT 総合格闘技同好会
考えるカラス団 333 同好会
芸術文化研究会
シーズンスポーツ同好会
シグマソサエティ同好会

将棋同好会
スイム同好会
天体観測同好会
ドローン同好会
ねこ同好会

平成文藝談話会
放送同好会
ボクシング同好会
eスポーツ同好会

Economics, Management & Information Science

経済・経営・情報をマルチに学び、
自分の可能性を目覚めさせる。

経済情報学科





経済情報学部長
有吉 勇介

～自分の問いを立て、答えを創る力を育てる～

私たち経済情報学部では、変化の激しい現代社会で真に活躍できる人材の育成を目指しています。今の世の中にはさまざまな選択肢がありますが、そのすべてに「正解」があるわけではありません。むしろ、現代社会は「正解のない問い」にあふれています。地球温暖化や感染症、人口減少、経済格差、AIによる急速な社会変化など、世界中で私たちが直面している課題には、簡単に答えが出せるものはほとんどありません。企業活動においても、どのような商品が市場に受け入れられるかは、誰にも確実に分かりません。これからの社会では、こうした「答えのない問い」に対して、自ら考え、他者と協力しながら、創造的に取り組んでいく力が求められます。

高校までは、すでに答えのある問題を「正確に」「速く」解く力が重視されてきました。しかし、大学はまったく異なる学びの場です。大学では、「なぜそうなるのか」「他の考え方はできないか」といった問いを自ら立て、考え、議論し、試行錯誤を重ねながら、自分なりの答えを見つけていく姿勢が大切になります。この過程こそが、社会に出てから必要となる「正解のない問題」への対応力を育てるのです。

経済情報学部では、経済・経営・情報の3つの分野からなる多様な学びを提供しています。これら3分野、つまりマーケット・ビジネス・ITについての広範な知識と理解を深め、基礎から応用までの幅広い視点を育てます。

カリキュラムは、段階的な成長を重視しています。1・2年次では、それぞれの分野の基礎をしっかりと身につけ、3年次からは専門分野を深めながら、ゼミでの主体的な学びが始まります。ゼミでは、自分の関心に基づいてテーマを設定し、資料を集め、分析し、論理的に文章としてまとめて卒業論文を完成させます。このプロセスを通じて、「正解のない問い」に向き合う力を鍛えます。

また、本学部の大きな特徴は、経済・経営・情報という異なる専門をもつ教員から直接学べることです。ゼミや授業では、受け身ではなく、自ら学びに向かう姿勢が求められており、質問や議論が日常的に行われています。

大学での学びは、知識を詰め込むことではなく、「深く考える力」を育てることにあります。これからの時代を生きるために必要なのは、自分で問いを立て、他者と協力しながら、その問いに自分なりの答えを見出せる力です。本学部での学びを通して、皆さんが未来を切り拓く力を身につけ、複雑で変化の激しい社会において、自信をもって歩んでいけるようになることを心より願っています。皆さんの情熱と意欲が、新しい知識と成長の基礎となることを楽しみにしています。



学科紹介動画はこちら

経済情報学科の入学者の受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

教育の理念・目的と求める学生像

経済情報学科は、経済、経営、そして情報の3分野を併せて学ぶことを特長としています。基礎的理論と実践的・応用的知識を兼ね備え、主体性をもって自ら問題を設定し解決することで、現代社会のニーズに応えられる人材、社会貢献や地域貢献ができる人材の育成を目指しています。

このような教育理念・目的に基づき、経済情報学科は次のような人を求めています。

- ・日常生活の経済現象に関する基礎的な考え方や理論を理解し、各種資料や経済統計を活用して実際の経済を分析し、経済問題を世界的観点から考えて責任ある選択・意思決定ができるようになりたい人
- ・経済社会を支える企業活動の現実を直視し、企業経営に関する理論や分析手法を幅広く学んだうえで、その成果を組織の仕組みの改善に活かしたい人
- ・現代社会の基盤となっている情報システムやネットワークの基本原則を学び、社会問題の解決や日常生活の利便性の向上に意欲のある人

入学後の学びに必要な能力や適性等

経済情報学科の教育課程に適応するために必要な入学時の能力や適性等は、以下の通りです。

（知識・技能）

- ①人間・社会・自然に対する深い理解、経済・経営・情報3分野の基礎的な知識の修得につながる「高等学校等で学ぶ基礎的な知識・技能」

（思考力・判断力・表現力）

- ②問題分析力・解決力・情報収集力やコミュニケーション力につながる
 - ②-a.「高等学校等で学ぶ基礎的な知識・技能をふまえた思考力・判断力」
 - ②-b.「数学的思考力」または「英語の読解力と表現力」
 - ②-c.「専門分野（経済・経営・情報）に関する文章の読解力と自らの考えを論理的にまとめる表現力」

（主体性・多様性・協働性）

- ③実社会における実践や問題解決力につながる「責任ある選択・意思決定、組織の仕組みの改善、社会問題の解決や日常生活の利便性の向上に向けて行動しようとする意欲」

中心的な活躍ができるジェネラリストに



経済

地域の文化、経済、
社会保障や財政、産業など



経営

企業や組織の運営、働き方、
コストや収支の管理など



情報

人工知能の仕組みや理解、
効率的な情報収集や省力化の技術など

現代社会では、文理複眼的な思考ができる人材
が求められており、文系学生にも理系の素養が
理系学生にも文系の素養が必要です。

例えば、
ビジネスとして成功する上での社会情勢の分析力、
資産管理の力、実務上必要な情報技術力などを
修めた人材を求められています。3分野を横断
的に学修できるのは、本学科の大きな魅力です。



本学は、文部科学省による「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定(リテラシーレベル)」を受けています。

経済情報学科の雰囲気の一部を紹介します。

学生主体の学修環境、
少人数を強みにしたユニークなゼミ、
勉学の成果を凝縮した研究発表。
4年間を通してゆたかな時間が
流れていきます。



3年次以降のゼミでは、卒業論文の執筆に向けて、
専門的な内容を学修したり、討論したり、
あるいは現場見学に行ったりもします。

経済学では、財、サービス、労働、資本、貨幣などが市場を通じて社会の中を循環する様子（経済循環）を、理論とデータの両面から説明する技術を学びます。経済学には、家計や企業などの行動を分析するミクロ的視点と、経済全体での出来事を分析するマクロ的視点のふたつがあります。

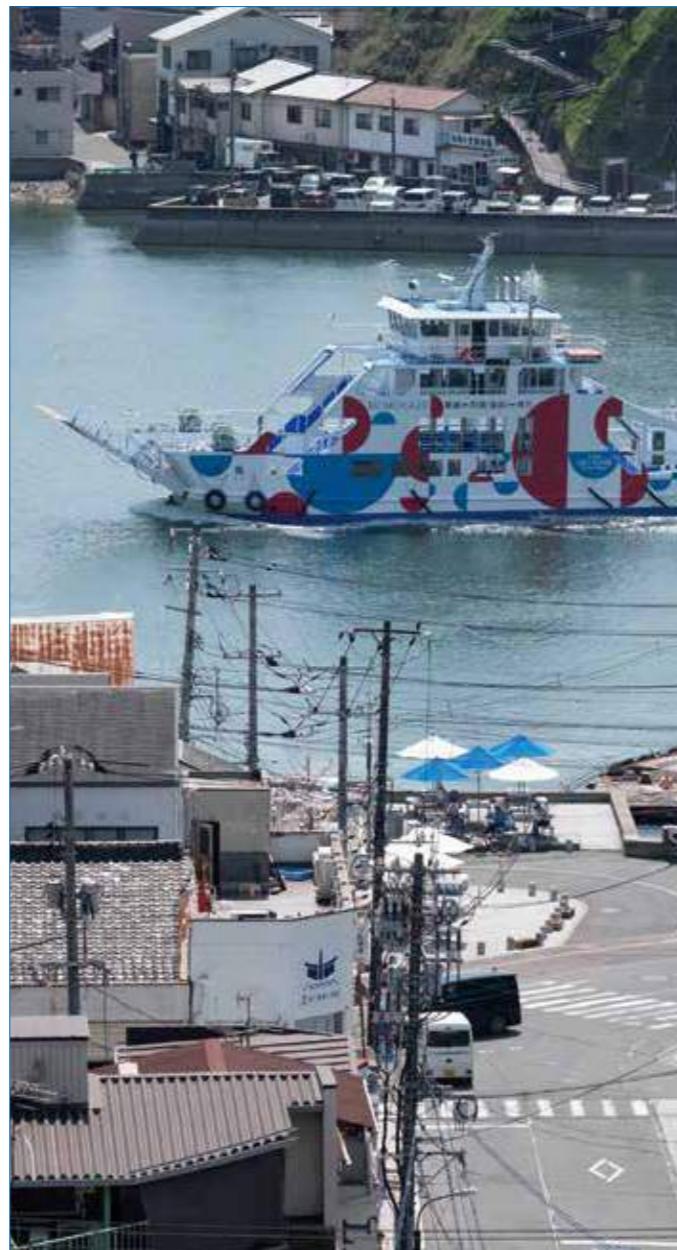
このような視点を軸として金融論、財政学、国際経済学などを履修することによって、私たちの生活にかかわる諸問題を把握・分析するための問題発見能力と企画分析能力を磨くことが出来ます。これらは、ビジネスパーソン・公務員を含めたどのキャリアにおいても、重要性が近年特に増しています。

大学生も、数年後には自分たちが経済社会を運営する立場になります。そのために経済コースでは、規制緩和や年金といった制度・政策、日本と世界の経済史、国際貿易などの世界情勢などについての理解を深めることを目指します。さらに、経済問題を客観的に検証するためには経済データを統計的に分析することが必要であるため、情報処理に関するトレーニングも行います。

経済の論理と技術のみならず、倫理を身に付け、世界や国といった全体を見渡すと同時に、経済主体として家計や会社を運営する能力を身に付けたグローバルな人材を育成します。

想定される進路

1. 行政機関におけるICTを活用した企画、政策の立案、実行
2. 企業、行政機関における情報活用システムの企画、事務、営業
3. 金融機関における業務



社会思想史、経済学史

経済コース長・教授

林 直樹

思想史と格闘し続けてきました。人同士の繋がりを辿る中で過去の思想＝アイデアの相関を探り当て、アイデア自体をより深く理解することを目指しています。例えば、確率論的統計学で著名なベイズが約3百年前に活躍した人で、経済学の祖ヒュームやアダム・スミス、あるいはベンジャミン・フランクリンと非常に近い人間関係の中にいたと知れば、ワクワクしてきませんか。思想をつかむことは同時に著作＝テキストを解析することです。テキストマイニングという、将来性に満ちてはいても取り扱い注意な技術に活を入れることも、最近の関心事です。



公共経済学

経済コース・教授

荒井 貴史

政府による消費者や生産者に対する課税や補助金が、資源配分にどのような影響を与えるのか。価格や取引に対する規制が、社会厚生にどのような影響を与えるのか。政府の市場経済での役割はどのようなもので、その役割の理論的根拠は何か。公共財、外部性、不完全競争、情報の非対称性など、厚生経済学の第1基本定理（完全競争市場における均衡配分はパレート効率的である）の前提が損なわれている「市場の失敗」のケースを公共経済学は理論的に分析します。





マクロ経済学

経済コース・教授

井本 伸

マクロ経済学とは、国や地域全体の経済を分析対象とする研究分野です。経済学では全体(マクロ)と個人(ミクロ)を分けて考えます。なぜなら経済問題には「個人ではどうしようもない問題」や「個人としては正しくても、全体としては良くない行動」があるからです。例えば、不景気という経済問題は個人ではどうしようもありません。そして、不景気に節約するという行動は個人としては正しいのですが、経済全体としては物が売れなくなってしまうため良くありません。したがって、個人がどのように行動すべきかだけを考えているだけでは経済全体の問題を解決することはできません。そこでマクロ経済学では、政府が経済全体に対してどのように行動すれば良いのかを考えます。



金融マクロ理論

経済コース・教授

河野 洋

金融システムの在り方について理論的に研究しています。特に、金融仲介機関と市場のどちらが金融システムをより効率的かつ安定的に機能させるかに関心を持っています。又、情報、金融ネットワーク、政府規制等がマクロ経済に及ぼす影響についても興味を持っています。ゼミでは、日本の金融制度や金融政策について基礎知識を確立し、日本の中長期的経済問題に対してどのような対策が必要であるかを議論しています。



応用ミクロ計量経済学

経済コース・教授

堀江 進也

被災者の生活再建、災害の復興資源の配分について研究しています。被災人口が莫大であったとき、被災地域が非常に広範囲にわたる場合、誰から・どこから優先的に支援すべき・復興すべきでしょうか。人の人生を左右する問題ですので、経済学の理解と応用には正確さを求められます。また、「現場」を知ることも重要です。このバランスを持ちつつ、自分が社会で重要なひとりであることを認識した人材を育成したいです。

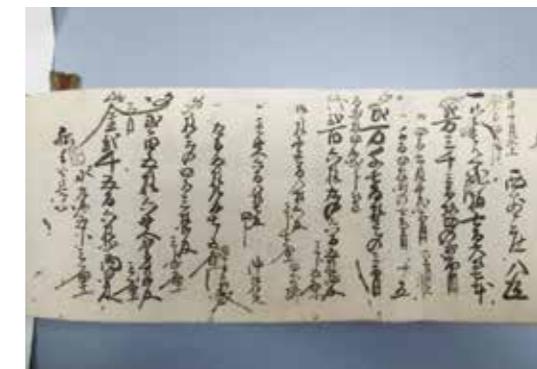


日本近世・近代の流通経済史

経済コース・教授

森本 幾子

研究室では、地域経済の歴史について学ぶことを主軸に据えています。毎年、尾道・宮島・鞆浦など身近な瀬戸内の港へ実際に足を運び、フィールドワークを行うことによって、その歴史的経緯や特徴について理解を深めています。また、手習い本をはじめ当時の仕切状や帳簿などの古文書の解読を通して、日本近世・近代の商取引の特質を学び、現代と比較しながら考察しています。



「明治二年肥物仕切帳」(徳島大学附属図書館所蔵山西家文書)より



環境経済学

経済コース・准教授
岡本 隼輔

岡本研究室では環境経済学を軸に研究に取り組んでいます。この分野では廃棄物問題や地球温暖化問題について、経済学の視点を交えて定量的に捉えています。例えば、製品を作る際に素材の採掘や加工、流通などあらゆる段階で環境負荷が発生しますが、それら全てを考慮して計測していくライフサイクルアセスメントの概念もその1つです。また、ワークショップや工場・現場見学なども実施することで、机上の学修と現実社会とを結びつけながら問題解決能力を養っていきます。



地域木材を使った木質ペレット製造会社の見学



社会保障、社会政策

経済コース・准教授
佐藤 沙織

人々の生活を支える手段は様々にありますが、戦後日本ではとりわけ医療がその中核を担ってきました。そこで「なぜ日本では医療に偏重して支える仕組みが発展したのか」という課題の究明から、医療だけに偏らないこれからの社会の支え合いの仕組みを展望することを目指しています。

ゼミナールでは、毎年、医療や福祉の現場で調査合宿を実施しています。わからないことを良く知っている人に「聞く」ことで、社会を「知る」楽しさを実感できる機会を提供しています。



吉和地区の住民との交流



卒論報告会



金融論

経済コース・准教授
神崎 稔章

金融の世界は、多くの進歩と制約を経て、現在に至っています。証券化やデリバティブ等の金融革新がもたらす資金の集中や規制のバランスは重要です。ゼミナールでは、自らが主体的に議論できるスタートにたてるにはどうすればよいのかを、経済学と関連付けて進めます。1冊のテキストのみを鵜呑みにせず、社会の在りように疑問を持った方が出てくることを期待します。従って、ディベート大会や学外での経験もゼミナールの特徴です。



尾道市による企業活性化の取り組みと企業価値に関する会議



財政学

経済コース・講師
栗田 広暁

財政学とは、政府や公共部門の経済活動である財政を分析対象とする学問です。分析のツールとして経済学を用います。政府は、公共サービスの提供、補助金や課税などを通じて、民間(私たち)の経済活動に介入する存在です。しかし、そもそも、政府はいつ、どのように民間(私たち)の経済活動に介入すべきなのでしょう。また、政府の介入は、経済にどのような影響を与えるのでしょうか。現実社会での政府の介入は、なぜ現状のようになっているのでしょうか。財政学はこういった問いに答えをもたらしてくれます。財政学を学びながら、一緒に考えていきましょう。



経営学は、人、もの、マネー、情報などの経営資源を活用し、市場ニーズに応じて良質な製品とサービスを消費者へ経済的に提供するための企業組織経営の学問領域です。この専門領域を内容とする当経営コースは、経営学の基本とする経営戦略、経営組織、マーケティングの理論と方法論及び経営分析、財務・税務管理、現場管理の実務、そして経営学の史的展開を体系的に学修し、将来には企業組織の事業あるいは行政組織のプロジェクトの推進を担うことができる人材育成を目指します。

上述の目標を達成するために、経営コース中心の専門分野教育を特化し、必修科目及び選択必修科目を再編成しています。このコース所属の学生は、マーケティング戦略と経営組織の理論を主とする諸経営科目を縦断的に、経済学や情報科学などの科目を横断的に学修することによって、経営の基本的な知識と技法を的確に理解できる能力を持ち、仕事を効率的に進めるための幅広い知識とスキルを身につけて、経営の視点からビジネス上の諸問題を整理・分析・解決できる人材となることが期待されています。

想定される進路

1. 企業マネジメント全般への参画
2. 企業における経営情報を活用した経営組織の在り方や経営戦略の立案、実行
3. 企業における経営情報システムの立案、実行



会計史、簿記、財務会計

経営コース長・教授
津村 怜花

複式簿記は13～14世紀のイタリアで誕生し、世界各国に伝播しました。日本にも明治初期に「輸入」されます。なぜ複式簿記は各国に伝播し得たのでしょうか?このような疑問を探究することで、会計史は現在や未来の会計の問題等を考えるうえでの視点を提供するとともに、歴史を解き明かす、魅力ある研究分野です。

右の書籍・論文から、会計史の知識や会計史研究の魅力を知っていただくと幸いです。



ドイツと日本の経営学説、企業倫理の理論と実践ほか

経営コース・教授
西村 剛

ゼミのテーマは「ワーク・ライフ・バランス (Work Life Balance) の理論的・実践的研究」です。「仕事と生活の調和」について学んでいきます。現在「働き方改革」が注目されるなかで、日本的雇用慣行は徐々に変化しつつも依然として労働者に過酷な労働条件を突きつけています。例えば長時間労働、過労死・過労自殺、正規-非正規労働者の処遇格差など。こうした過酷な労働条件のもとで労働者はどのように企業と関わり、どう対応していくべきかを探っていきます。





健康とスポーツの科学

経営コース・教授
藤岩 秀樹

教養教育の健康スポーツ科目を担当しています。健康スポーツ科目は、「健康スポーツ学」(講義)、「健康スポーツ実習Ⅰ」、「健康スポーツ実習Ⅱ」、「野外スポーツ実習」からなっています。身体運動やスポーツを媒介に、生活の基本である健康・体力に関する正しい知識と、健康づくりの具体的方法に関する知識や実践能力の獲得をめざしています。



会社法

経営コース・准教授
王 佳子

企業の中で最も多いのが「会社」ですが、アメリカのシカゴ学派は、会社を、「契約の束」と定義しています。この考え方は、会社が無数の契約を通して、組織を形成し、さまざまな取引活動を展開しているという実態をよく捉えています。それでは、会社は、契約を結ぶことでどのような権利を有し義務を負うことになり、その権利を実現するためにはどのような手段を採ることができ、義務を履行しない際に誰がどのような責任を負うことになるのでしょうか。

本研究室は、具体的な事例をもとに、こういった問題について検討をしています。



租税法

経営コース・教授
前田 謙二

税金は公共サービスを提供するためなどに必要であり、国会で決められた法律(税法)に基づいて納められます。人間は生きていくために日々様々な取引を行っています。すべての取引が税法と関わっています。税法を知らないために損をすることもあります。では、税法にはどのようなルール(概念・条文・判例)があり、どのような問題があるのでしょうか? 租税法の研究とはそれらの問題解決や経済の変化に応じ税法はどのようにあるべきかを考えるものです。



経営戦略論、経営組織論

経営コース・准教授
横澤 幸宏

皆さんは、日々の生活や仕事のなかで常に意思決定を行っています。本研究室では、経営学という学問を通じて、企業経営や組織運営における人や組織の意思決定について学びます。特に、経営学のなかでも、経営戦略論、経営組織論、イノベーション論などの分野を中心に学び、企業が業績を高めるためにはどうしたらよいか、また個人や組織が目標を達成するためにはどうしたらよいかについて考えていきます。経営学で学ぶ経営理論は、企業経営だけでなく、日常生活においても幅広く応用することができます。経営学の研究を通じて、知識を学ぶとともに、自分の頭で考える習慣を身につけていただければと思っています。





国際法、安全保障論

経営コース・講師

吉良 悟

武力行使の規律、自衛権を研究しています。今日、自衛権は、国家が単独で武力を行使する際のほぼ唯一の法的根拠になっています。2022年のロシアによるウクライナ侵攻も、ロシアは自衛権を根拠としました。残念ながら、国際社会から武力紛争をなくすことは、いまだ現実的ではありません。しかし、武力行使を規律する試みは意味を持ち続けます。自衛権を考えるということは、武力紛争の機会を減らすことに繋がります。ゼミナールでは、国際法、日本国憲法を基軸に、国際紛争に関する法的問題や日本の安全をいかに確保するのかを議論します。



マーケティング、消費者行動

経営コース・講師

渡邊 久晃

専門はマーケティングで、なかでも消費者の購買・消費・処分まつわる意思決定について研究する消費者行動と呼ばれる領域に関心があります。私たち消費者は普段、製品やサービスを購買するとき、常に経済合理性を意識しているわけではなく、何気なく購買することのほうが多いと思います。そうした意思決定では認知や感情、感覚といった様々な心理的要因が影響しています。本研究室では、消費者行動の背後にある心理的メカニズムについて研究することで、マーケティング的な諸課題に対して示唆や含意を提供することを目指します。



管理会計の実質的な利用と見せかけの利用 管理会計の普及：ネットワーク分析

経営コース・講師

田中 政旭

管理会計は、主に2つの役割があります。1つは、企業の目的や戦略の実行をしていくために、組織構成員がバラバラにならないように取りまとめていく役割です。もう1つは、マネジャーが意思決定する際に役立つ情報を提供する役割です。どちらの役割も、企業が自分たちの目的や目標を実現する上で、重要なものです。

本研究室では、上記の役割を果たす管理会計をどのように設計をすれば、期待した効果が得られるか、また逆に負の効果がもたらされるのかについて研究しています。そして、そうした研究によって、学術的含意と実践的含意の両方を提供することを目指しています。



主要専門科目 講義風景
経済学入門I (ミクロ)
(最適な資源配分や消費者行動に触れる「小さい」経済学の基盤)

情報コースでは、現代社会の基盤となっている情報技術の基本原理を中心に学び、学修事項をデータサイエンスの基礎、経済学、経営学と関連づけてより深めます。情報技術に裏付けられたデータ分析能力や課題解決能力を身につけ、情報システムの設計から運用までを担当できる社会で広く活躍できる人材を育成します。

日本の社会では、マーケット(経済)とビジネス(経営)が分かり、データサイエンスの基礎を身につけたICT技術者やコンサルタントが不足しています。例えば、ユーザ企業の置かれている市場や経営の特徴を数理的に分析し、ユーザ企業の弱みを補強し強みをさらに強化するICTソリューションを提案し、自社の経営戦略に基づいてICT戦略を立案し、それを実現する情報システムを設計したりする人材です。このようなことは工学系の情報学科を出たICT技術者には難しく、情報科学に加えて経済学や経営学も学ぶ本学科の情報コース卒業生が活躍できる場だと思えます。

将来このような仕事に就く人材の育成を目指して、情報コースのカリキュラムは設計されています。情報関連科目は大きく3種類に分けられます。1つ目はコンピュータを用いて情報を適切に処理する能力を養う科目です。レポートや卒業研究など大学での学修・研究活動や、卒業後に社会における様々な活動において必要となる知識とスキルを修得するための科目です。「情報活用基礎」「情報とコンピュータ」「統計学」などの科目があります。2つ目は情報分野のより専門的な科目です。プログラミング言語によるソフトウェア開発、ネットワークの仕組みや特徴、情報システムの設計方法など、情報科学の様々な分野を学修します。データサイエンスに関連して、ビッグデータの活用や人工知能の応用なども学修します。「プログラミング」「ネットワーク科学」「情報システム設計」「機械学習と人工知能」などの科目があります。3つ目は経済分野、経営分野と情報分野が重なる領域の科目です。異なる学問分野が交差することで生まれた新しい学問を学びます。「ビジネスとデータサイエンス」「経済経営情報実習」「経営情報論」などの科目があります。

想定される進路

1. 情報関連の企業・組織における次世代のシステム・サービス・技術の研究開発
2. 企業・組織の経営戦略に基づいた、最新技術を活用したICT戦略の提案・策定とその実現の推進
3. 企業・組織におけるICT戦略実現のための最適な情報システムの企画・設計・開発・運用の指揮

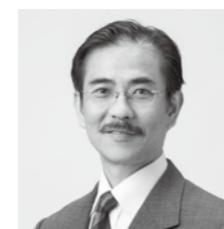


情報ネットワーク、機械学習

情報コース長・教授

本田 治

ゼミでは情報ネットワークを主なテーマとしていますが、学生の研究テーマとしては加えて機械学習もテーマとしています。情報ネットワークの研究では、ネットワーク上で効率良く通信をしたい、通信の品質を制御したい、などの要求をどのようにすれば実現できるのかについて扱っています。機械学習の研究では、機械学習を利用して様々なデータを分析したり、機械学習の出力の多様性などを扱っています。



情報システム設計ほか

情報コース・教授

有吉 勇介

情報システム設計とは、ユーザの「こんな情報システムが欲しい」という要望を分析整理して、仕様書と呼ばれるソフトウェアの設計図にまとめ上げるまでの一連の作業のことです。最近の日本では、仕様書は日本人が作り、プログラミングはインドやベトナムなどで行う国際分業が多くなってきています。その結果、日本のIT系企業ではプログラマよりも、仕様書づくりに関わる人が増えてきています。そのため情報系の大学ではプログラミングと同じぐらいに情報システム設計の勉強が重要になってきています。





観光の支援に役立つ データベース連携型 Webシステムの開発

情報コース・教授
高山 毅

Covid-19は、観光業界にも膨大な被害をもたらしました。本ゼミでは、ITや観光情報学の立場から、観光の復興およびそこに留まらずに更なる振興を、観光者側または観光事業者側で支援し得るシステムの開発を行います。また、世界の潮流を見据え、「SDGs(持続可能な開発目標)を考慮した観光支援システム」「観光DX(デジタル・トランスフォーメーション)」にも取り組みます。

基盤技術としては、「Webアプリの開発手法」、および「データベースと連携できるシステムを開発するノウハウ」を習得します。IT関連の進路を選択肢にできるように、授業やゼミで力を貯め、社会で実際に役立ち得るシステムを開発します。



数学教育、情報教育

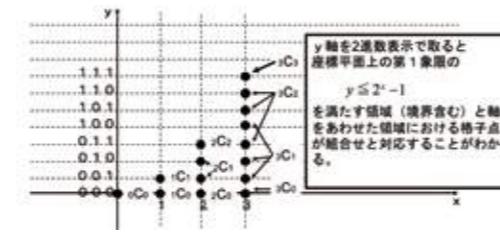
情報コース・教授
南郷 毅

私の研究室では、学習指導要領や教育に関する社会的背景を理解した上で、教育に関する諸問題を様々な角度から検討します。例えば、「教科間の関連を図る指導が重要である」という命題に対して、「数学と情報の学習事項を関連させた教材」を開発したりします。図で示しているのは、情報で学ぶ「情報のデジタル表現」を活用し、数学で学ぶ「組合せ」を解釈した教材の一部です。2進数を活用し、組合せを座標平面上で表現しています。

最近、IT企業でも教育関連の案件で教育への理解が求められるようです。教育のわかるIT技術者になってみませんか？

2進数表示を活用した組合せの解釈

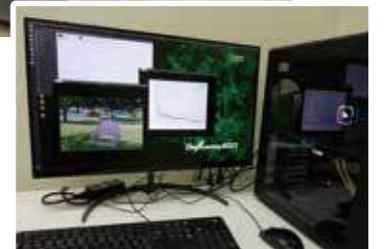
■ 座標平面上に表現された組合せ



ビッグデータ、人工知能

情報コース・准教授
木村 文則

文章(テキスト)を中心とした「ビッグデータ」の分析が主な研究テーマです。最近注目されている「人工知能」にも取り組んでおり、テキストだけでなく画像も対象にしています。また、通常のゼミとは別に「人工知能勉強会」を開催し、関心のある学生がゼミの垣根を超えて集まり、協力しながら学んでいます。新しい技術についても積極的に学び、社会で活躍できる力を蓄えてもらいたいと思っています。



解析的整数論

情報コース・准教授
宮川 貴史

解析的整数論という分野の多重ゼータ関数について研究しています。ゼータ関数とは、素数の背景にある関数で

$$\zeta(s) = \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^s} = 1 + \frac{1}{2^s} + \frac{1}{3^s} + \dots \quad (\text{Re}(s) > 1)$$

という形をしています。1と自身でしか割り切れない自然数を素数と呼んでいますが、素数の列 2,3,5,7,11,13,17,19,... は未だ規則性が解明されず、関連としてリーマン予想という最大の未解決問題が残されています。

リーマン予想 (懸賞金 100 万ドル)

$$\zeta(s) = 0 \quad (0 < \text{Re}(s) < 1) \text{ ならば } \text{Re}(s) = \frac{1}{2} \text{ である (?)}$$

この予想解決に向けた試みによりゼータ関数の理論は大きく発展し、そこで新たに生まれた多重ゼータ関数の理論が注目されています。

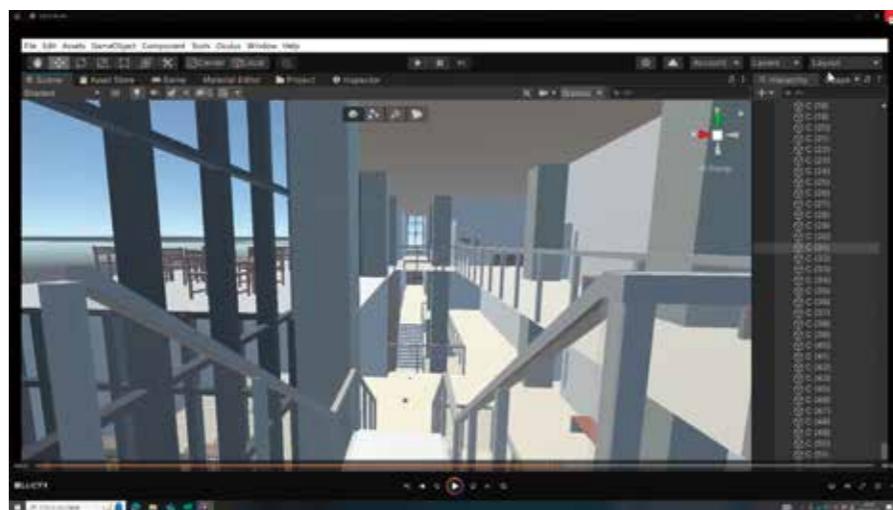
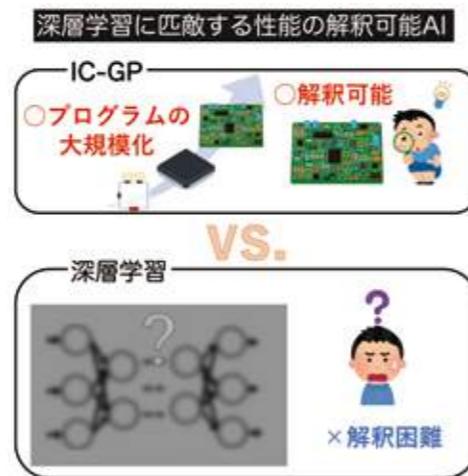




遺伝的プログラミングを用いた解釈可能 AI の開発

情報コース・講師
秋川 元宏

本ゼミでは深層学習を含む、人工知能全般についての研究を展開しています。人工知能技術は現在様々なサービスと組み合わせられており、すでに我々の日常に溶け込んでいます。如何に人工技術を経済活動へ組み込んでいけるかを基礎から応用まで幅広く取り扱います。また、これは人工知能技術の安全性はこれから重要な研究分野となります。そのため、近年は複雑化している人工知能技術を安全に用いるための研究を特に推し進めています。



情報コース 講義風景
専門演習Ⅱb (本田ゼミ)
(仮想空間における尾道市立大学施設の構築)

高難度の国家資格である「公認会計士試験」に挑戦する学生もいます。

高難度資格のための勉強は、長期間に渡る持続的な学習が不可欠です。

翠明館などの施設をはじめ、集中して勉強に打ち込める環境が十分に整っている本学の体制は、学生の夢の実現に向けた一助を担っています。

令和6年公認会計士試験
論文式試験

願書出願者数：21,573人 合格率：7.4%

令和7年公認会計士試験
第1回短答式試験

願書出願者数：15,990人
合格率：8.6%

合格率：最終合格者数ないし短答式試験合格者数を願書出願者数で除して算出



短答式、論文式に合格

経済情報学科
経営コース 卒業生

川崎 歩夢

岡山県立玉島高等学校出身



どうして公認会計士を目指したの？

高校までの学習内容とは一味違う簿記やITパスポートなどのビジネス関連資格に興味を持ち、さらに専門的な知識や経験を身に付けたいと思ったからです。



短答式に合格

経済情報学科
経営コース 卒業生

大森 輝

岡山県立西大寺高等学校出身



どうして公認会計士を目指したの？

大学で何かをやり遂げたいと考えたときに、特に難しいとされる公認会計士が目にとまりました。「公認会計士」という名前に憧れたこともあってチャレンジすることにしました。

大学の授業や施設はどう役に立つの？

会計系の講義科目が豊富で、試験対策だけではなく深い内容を学ぶことができました。経済系や情報系の講義も卒業後のキャリアには必要なので、充実していました。

また、大学にある自習室が利用しやすく、集中して勉強ができる環境なので、とてもおすすめです。

未来の後輩にメッセージをお願いします！

公認会計士は決して簡単な資格ではないので、諦めずに勉強を継続する精神力や覚悟が大切です。

また、合格したという経験はこれから先の人生で困難に直面した場合でも揺るがない自信になるので、興味がある方や何かやりたいと考えている人は、勇気をもって挑戦してほしいと思います。

大学の授業や施設はどう役に立つの？

試験対策をしていると結論だけを暗記するケースが多いのですが、大学の講義では考え方のプロセスや裏側を知ることができて、予備校などでの授業とはまた違った楽しみがありました。大学の施設では、夜間や休日でも利用できる自習室を大いに活用していました。

未来の後輩にメッセージをお願いします！

受験しないで挑戦をやめてしまう方もいるので、まずは短答式試験を受験することを目標にして頑張ってください。

一定期間の勉強を続ける、試験を申し込む、実際に試験を受ける、結果を自己採点するといった形でステップアップを目指してください。

2024年度卒業論文(各ゼミナールの代表論文)

- ライブエンターテインメント市場の経済波及効果と動向
- NFT画像マーケットプレイスの設計と試作
- 趣味によるソーシャルメディアの選択
- 特許権の消尽が認められなかった事例・最判平成19年11月8日民集第61巻8号2989頁
- 木質ペレットが高知県梶原町にもたらす地域循環についての分析
- 交差サンプリングによるDCGAN少数データ学習の改善
- 鳥根県出雲市の中山間地域維持・存続のための若者向けアプローチ方法の考察
- 産業遺産を含むインフラ観光における観光資源の価値向上を支援するシステム〜ダム、鉱山、橋梁の、標準的情報提供方式の提案
- ソーシャルビジネスにおける課題解決アプローチと事業展開後のさらなる可能性―「尾道帆布」を事例として

- 宇宙ビジネスの発展と宇宙のSDGs―日本企業の現状と取組―
- 理解の仕組みに根差したアルゴリズム教材の開発
- 社会事業家の生成に関する一考察―大原孫三郎の足跡を辿る―
- 久布白落実と廃娯運動―現代まで続く身売り問題―
- 市街化調整区域を発展させるには
- 地方公共団体の自主財源の必要性とあり方―法定外税に着目して―
- チケットの不正転売と対策
- 尾道山波伝統行事の継承と課題―フィールドワークからの提言―
- 奨学金返還支援制度を導入する企業の特徴



すべての
卒業論文タイトルは
こちら



経済コース卒論発表

「尾道山波伝統行事の課題と継承―フィールドワークからの提言―」

森本ゼミ 大久保 緋菜

本研究では、広島県尾道市山波町に伝わる山波伝統行事のうち、広島県尾道市の民俗文化財に登録されている良神社の餅搗神事に焦点を当てました。歴史的伝統のある良神社の餅搗神事が、コロナ禍や継承問題を経て、どのような変化を遂げたのか、また、今後どのような展望が見られるのか、関係者への聞き取り調査や地元小学校でのアンケート調査といったフィールドワークを通して考察しました。

良神社の餅搗神事は、現代化や少子高齢化に伴い、頭屋制度や潮垢離といった神事の文化が廃止される一方で、初の女性参加が認められるなど、新たな神事の形式を選択することで、柔軟かつ迅速に継承問題の解決に取り組んでいます。時代に伴う変化が見られるとき、神事の歴史だけでなく、神事が直面している現状と次世代を担う人々の意識を調査し、記録に残すことの重要性が明確になりました。



経営コース卒論発表

「ソーシャルビジネスにおける課題解決アプローチと事業展開後の更なる可能性―「尾道帆布」を事例として―」

趙ゼミ 山元 海鈴

本研究の目的は、尾道帆布を一事例として、ソーシャルビジネスにおける課題解決アプローチを明らかにすることです。インタビュー結果をもとに、グラウンデッド・セオリー・アプローチという分析手法を用いて、研究結果及び考察を導き出しました。

分析結果より、尾道帆布は(1)資金不足、(2)認知度の低さ、(3)外部機関との連携・協働が進んでいない、以上3つの課題を乗り越えていることが明らかになりました。さらに、資金を通じて消費者と社会課題解決を繋ぐアプローチ、事業主体が抱える強い思い、地の利を活かした繋がり構築、等がソーシャルビジネスにおける課題解決の重要な要素として挙げられるといった、新たな示唆も与えました。



情報コース卒論発表

「有益な活用の基盤となる、観光のライフログ管理システム」

高山ゼミ 目次 彩恵

近年、ライフログを観光の振り返りに活用する「観光ライフログ」への注目が高まっています。しかし、観光ライフログの作成や活用に関する検討は、充分とは言えません。

そこで本研究では、観光のライフログに基づき、網羅/達成状況を可視化することで、未訪問の観光地や観光スポットへの訪問意欲を高めることを支援するシステムを開発・提案しました。具体的には、①活用する機能を踏まえた、観光ライフログ記録メニュー、②観光ライフログに基づく、地図表示での網羅/達成状況の閲覧機能、③観光ライフログに基づく、地方別/日本三大〇〇別での網羅/達成状況の閲覧機能、④観光ライフログ作成支援メニュー、⑤重要な写真のコメント作成を支援するメニュー、の5つの機能です。

さらに、提案システムを用いて評価実験を行った結果、提案システムは有効との結果を得られました。



地域貢献



AI処理の現地での実験風景

経済情報学部では、経済・経営・情報のそれぞれの分野で、地域に寄り添う教育研究活動に取り組んでいます。

例年、商店街との連携企画や市民講座等、多彩な活動が見られます。本学科の特徴を生かしつつ、データと想像力と現場への関心力を駆使して町の振興を考えることもできます。

木村・本田研究室受託研究
「AIを用いた水産塩干物製造における異物選別」尾道の歴史をテーマにした森本ゼミ公開講座
(尾道市商業会議所記念館)尾道市主催のプログラミング体験教室のサポート風景
(尾道市役所)

少人数教育・ゼミ活動

尾道市立大学の特色として「少人数教育」を挙げることができます。経済情報学科は他の2学科に比べて多人数ですが、教育の場を複数かつ多層に分けて提供することで、多様なニーズに応えつつ、きめ細やかな指導ができるように工夫しています。1年次の基礎演習は全員が履修する必修科目で、大学での学びのイントロとなります。3年次から4年次にかけて履修する専門演習(ゼミ)も必修科目です。指導教員のもと、全員が卒業論文を仕上げなければなりません。これは教員が一人ひとりの学生とそれだけ真剣に向き合うということです。他にも、より専門性の高い内容を少数精鋭で実践する特別演習も用意しています。教わるだけでなく教員とともに研究に励み、かつ楽しむ場として、この演習を活用できます。学生の「やる気」という最大のニーズに応えて、経済情報学科は学びの場を惜しみなく創出していきます。



専門演習Iのフィールドワーク(森本ゼミ)



早明浦ダムの見学風景(岡本ゼミ)



国会議事堂への見学道中(前田ゼミ)



芸術文化学部

日本文学科

研究創作

Japanese
Literature





芸術文化学部長
灰谷 謙二

知と美の探究と創造を理念とする本学は、美術学科と日本文学科を併せ持つ芸術文化学部を設置しました。カリキュラムの考え方や学問領域としての特性の違いも大きく、一般的にはこれらを一つの学部にすることはありません。大学が発展する、母体になった尾道という都市の地勢的条件、経済的發展、文化的背景、そしてそこから生まれた人々の志が形になった稀有な学部だといえます。

日本文学は、日本語という言語的枠組み、社会的ルールの制約のなかで行われる文化現象を広く扱うという点で美術と異なりますが、どちらも、人の営む創造、価値・表現を扱い、真理を追究するという点では共通します。さまざまな場面での交流が、縁遠い世界だと思っていたものを重なり合わせ刺激しあい、新しい創造の機会に富んだ場になっています。

世に文学の街といわれる場所には松山や金沢がありますが、尾道もそう認識される場の一つです。これらに共通する点を二つあげてみましょう。一つは、経済的發展が背景になり、多様な人々が集まる場、その交流のなかで新しいものが生まれるロケーションで、異なるものを積極的に受け入れ、創造の機運を高める素地がある点ではないかと思います。もう一つは人を育てる気風でしょうか。経済的な發展は地域の文化活動を大事にする精神的余裕を生みます。その意味と重要性を知った街は、それが短期的な実益や利害と結びつかなくても、人を育て人材として世に送ることを誇りとする伝統をつくり守っていきます。

このようなロケーションと志に支えられた街の芸術文化学部で学ぶことは、必ずユニークな意味を生むでしょう。芸術文化、ことばとことばで紡がれる知と美の世界を、ここでもに探究していきましょう。



日本文学科の入学者の受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

日本文学科では、豊かな人間性と幅広い視野、高度な言語運用能力をもとに諸共同体のリーダー・教育者・創作者等として主体的に社会に貢献できる人の育成を目指しています。自らの力でテキストの精読や実地調査に基づく分析を行い、他者との議論や対話を通して言語文化の探究と創造に取り組む活動に重点をおいた教育を展開します。

このような教育理念・目的に基づき、日本文学科は次のような人を求めています。

- ・高等学校等までの教育課程において確かな国語の力を身につけた人
- ・問いをもって対象に向き合い、論理的に思考し判断する力を鍛えてきた人
- ・知的探究心をもって日本語・日本文学を深く研究していく意欲がある人
- ・文学作品のもつ多様な価値観を柔軟に受け止められる人
- ・読解力・表現力・対話力を活用して協働的に社会に参画する意欲がある人

詳細はこちら



日本文学科の授業

日本語学・日本文学・中国文学・欧米文学と、周辺領域である、民俗学・伝承文学・文芸創作・国語教育学等を専門教育科目とし、専門教育科目に発展的に関連・連携する、学部特性を活かした学部共通科目、教養教育科目を配置しています。

自らの力で文学や言語についての資料を調査し、読み解き、それをもとに論理的に思考し、言語文化の探究と創造に取り組むために、議論や対話を重視した専門演習を配置します。これら言語文化の探究と創造の成果として、卒業論文・卒業制作を課しています。

豊かな人間性と幅広い視野をもって、高度な言語運用能力を発揮し、他者と議論や対話をおこなうための、少人数双方向教育を実施します。

学科紹介動画はこちら



授業紹介1

日本語学基礎演習
レポーター

川上 正悟
(日本文学科2年)



この日本語学基礎演習の講義では、古典語の文献資料を扱い、古典語への知識を深めるとともに、発表のための資料作りや質疑応答などによって、論理的な思考を身に付けるための演習を行います。昨年は、ポルトガル語で書かれた現存最古の日本語学書『ロドリゲス日本大文典』の訳本を用いて演習発表を行いました。私は、本書において形容動詞の連用形を副詞として用いる用法が現代と同様かを、活用と文法的意味から考察しました。

ここまでの説明で、難しそうな講義だなと思う方もいらっしゃると思いますが、ご想像通り、かなり大変な講義です。内容が難しく作業もたくさんあるため、「1年生で受ける講義の中で最も大変な講義ランキング」があるとすれば、余裕でトップ3にランクインです。発表資料の準備に始まり、資料集めや補足資料の作成、最終レポートの作成など、忙しすぎていつそのこと図書館に住んでしまおうかと思うほどです。

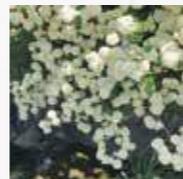
そんなに大変な講義なのか!という感じですが、内容が盛りだくさんだけに、きちんと取り組めば、今後の演習に必要な力を十分に身に付けることができます。この点が、演習科目の1番の目的と言えるでしょう。

何事も楽しんで取り組むことが大切ですから、皆さんもこの試練を乗り越えてくださいね。

授業紹介2

近世・近現代文学専門演習
レポーター

岡 来瞳
(日本文学科4年)



日本文学科の専門演習講義では、日本文学やその周辺領域の専門知識を深め、文学研究の方法を学びます。

近世文学専門演習では江戸時代の作品を読み、くずし字の判別をする「翻字」、本文内の語句の意味や用法を分析する「注釈」、本文の「現代語訳」の発表を行います。近世と現代では、同じ言葉を用いても意味や用法が異なっている、ということがあります。そのわずかな差異を検討し、自分なりの分析や考察を行っていくことで既存の枠組みにとらわれない多角的な視点を養っていきます。また、発表と質疑応答という講義形式は他の履修者との討論を通して自身の考えを深めることができます。

さらに、私は専攻する近世文学のほかに近現代文学専門演習も受講しています。近世と近現代は歴史的に地続きであるだけでなく、文学作品もそれ以前の時代の作品に影響を受けながら生み出されています。そのような文学史の流れを広い目で捉え、自身の興味関心がある領域を学んでいくことで、異なる時代同士の繋がりを実感しています。



『浮世親仁形氣』(名古屋大学附属図書館所蔵)
出典: 国書データベース, <https://doi.org/10.20730/100272715>

授業紹介3

中国文学講義
レポーター

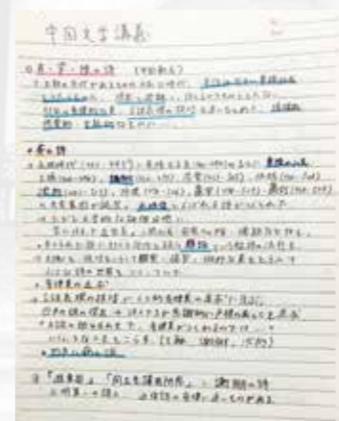
福澤 綾
(日本文学科4年)



中国文学講義では漢詩について学びました。漢詩というと杜甫や李白といった唐代の詩人やその詩を思い浮かべる人が多いと思います。この授業ではそうした唐代の詩をゴールに、その少し前の六朝時代のものから順に詩を取り上げ、その内容や解釈について考えます。授業で扱う詩の中には自然の素朴な風景や友人との別れの悲しみ、あでやかな妻の姿など様々なことが詠まれていました。何かに感じ入ったり別れを悲しんだりする気持ちは国や時代が違っても通じるものがあるなと感じました。

内容に加えて、漢詩の種類や韻などのきまりについても学びました。一句の字数や句数が決まっていたり韻を踏んだりするのはもちろん、漢字ひとつひとつの韻によって使える字が決められていたり、発音や声調によってリズムを生み出すなど、意外にも決まりごとが多いことや音楽っぽい部分があったことに驚きました。このような決まりごとについても唐の時代に近づくにつれて整えられ、完成していったことが分かりました。

詩の解釈や韻などの決まりごとについて理解するのが難しいと思うこともありましたが、普段はあまり触れることのなかった漢詩を味わえる授業です。



授業紹介4

中古文学ゼミ
レポーター

田中 美麗
(2024年度卒業生)



本格的に卒業論文を執筆するのは4年次ですが、2年次には自分の入るゼミを決定し、3年次には自分のテーマを決めて研究が始まります。中古文学ゼミの場合、まずは自分の研究したい作品を決定します。私の場合、3年次の4月には『源氏物語』を研究作品に決定し、気になる部分を研究していく中で、同年11月に行われる中間発表会までに、本格的に研究テーマを決定しました。

毎回のゼミでは、各週それぞれの発表担当者が自身の研究内容を発表し、それに対して質疑応答を行うなどして全員で検討し合います。人数によっては、3年生と4年生が一緒に行くこともあり、先生や同級生からだけでなく、先輩や後輩からも意見をいただくことができるため、自分の研究を様々な視点から再検討する良い機会となっています。

大学に通う4年間は、自分の興味・関心のある分野を専門的に学ぶことができる貴重な時間です。ゼミでは、その半分の2年間を使って、卒業論文執筆に向けての研究を行うことができます。限られた時間の中で、私は、自分の「知りたい」を追求し、新たな視点で作品を再解釈することの楽しさと大変さの両方を学ぶことができました。



広島県立歴史博物館「源氏物語の世界展」にて
牛車体験乗車中

里帰りの「源氏物語貼交屏風」を見学した浄土寺(尾道)にて

私と尾道市立大学の出会いは、今皆さんが手に取っているこの大学案内でした。進路指導室に並ぶ大量の赤い過去問や白を基調とした学校案内の中で、一際異彩を放っていたこと、それに導かれるようにページを捲っていたこと、今でも鮮明に覚えています。

私は日本文学科でしたが、隣を見れば経済情報学科と美術学科があり、カリキュラム次第で他分野を学ぶことができました。3学科だからこそその結びつきの強さが尾道市立大学にはあります。それが自分の専門分野以外と繋がる練習として、とても有難いものでした。

例えば、美術学科の方に絵やデザインを依頼して創作物を一緒に作り上げたり、経済情報学部の方にマーケティングを依頼して需要と供給について考えたり。自分の得意を超えた経験は学科同士の繋がりが深い尾道市立大学だからこそ得られたものでした。そこで得たものは経験だけでなく、そこで得た人との縁は今でも続いています。

インターネットを使えばどんな国のどんな人とも簡単に繋がることのできる時代です。そんな時代だからこそ、他分野の方と直接関わり、それぞれの得意分野で自分の力を活かすことができる、そんな経験を大学生として積むことができたのは今の私を支える武器となっています。

人との対話の中には必ず「ことば」があります。古典から現代文学、言語学や民俗学、外国語に創作まで、幅広い「ことば」に触れることができる日本文学科での学び



は、仕事に限らず私の人生における基礎となっています。

私は現在、市役所職員として税金や保険料を管理する仕事をしています。市役所の仕事は様々な専門知識が必要となり、他分野、他業務との連携が重要となります。その中で、尾道市立大学で学んだ他分野と繋がる経験や「ことば」は、力強く私の背中を押してくれています。

文学の街である尾道市立大学だからこそ学べる「ことば」があります。ここでしかできない経験もあります。それは職業に関わらず人生において皆さんの力になります。尾道市立大学であなただけの「ことば」や経験を見つけてみてください。

市役所勤務

戸出 莉央

(2018年度卒業生)

私は現在、メガネや補聴器などを取り扱う眼鏡屋のスタッフとして働いています。お客様の求める商品を販売する商業としての一面もある一方、視力や聴力などのライフラインを支える医療的な側面もあるため半医半商の職業と言われています。商品知識や眼・耳に関する知識、様々な検査の手法など日々学ぶことが多く、大変ながらもやりがいのある仕事だと感じています。



私が眼鏡業界に興味を持ち始めたのは、本格的に就職活動を始めた大学3年の冬頃でした。それまでは、この業界で働く未来があるとは想像もしていませんでした。可能性を狭めず様々な業界に興味を持ち、あれこれと行動してみたことで今の自分と出会えたと思っています。今、大学生活で得られた様々な学びや挑戦に助けられる場面が多々あります。

例えば、日本語を学ぶことで得られた読解力は職場でも活かされています。この業界で重要なのは、お客様の主訴を明確に読み取ることです。難解な論文を読解したり、要点をレジюмеに纏めたりしてきた経験から要点把握力や対応力が身に付いたと考えます。また、お客様と会話しながら商品の魅力を紹介することも大切です。大学のゼミでキャッチコピーの研究をしたことや、プレゼン大会に出場したことが表現力を鍛える助けになったと感じています。お

客様へ情報や見解を分かりやすく伝える説明能力も、ゼミや発表会で発言してきた経験が繋がっていると実感しています。

大学で得られる知識や経験は、確実に未来の自分も成長させてくれます。その価値を自分のものにするため、これから是非色々なことに挑戦して可能性を広げてほしいと思います。また、尾道にはラーメンや海鮮など美味しいご飯が盛りだくさんで、国宝・文化財が集まる寺院や映画のロケ地など素敵な場所で溢れています。是非、尾道での生活も楽しみながら様々な出会いを経て、かけがえのない大学生生活を過ごしてほしいと思います。

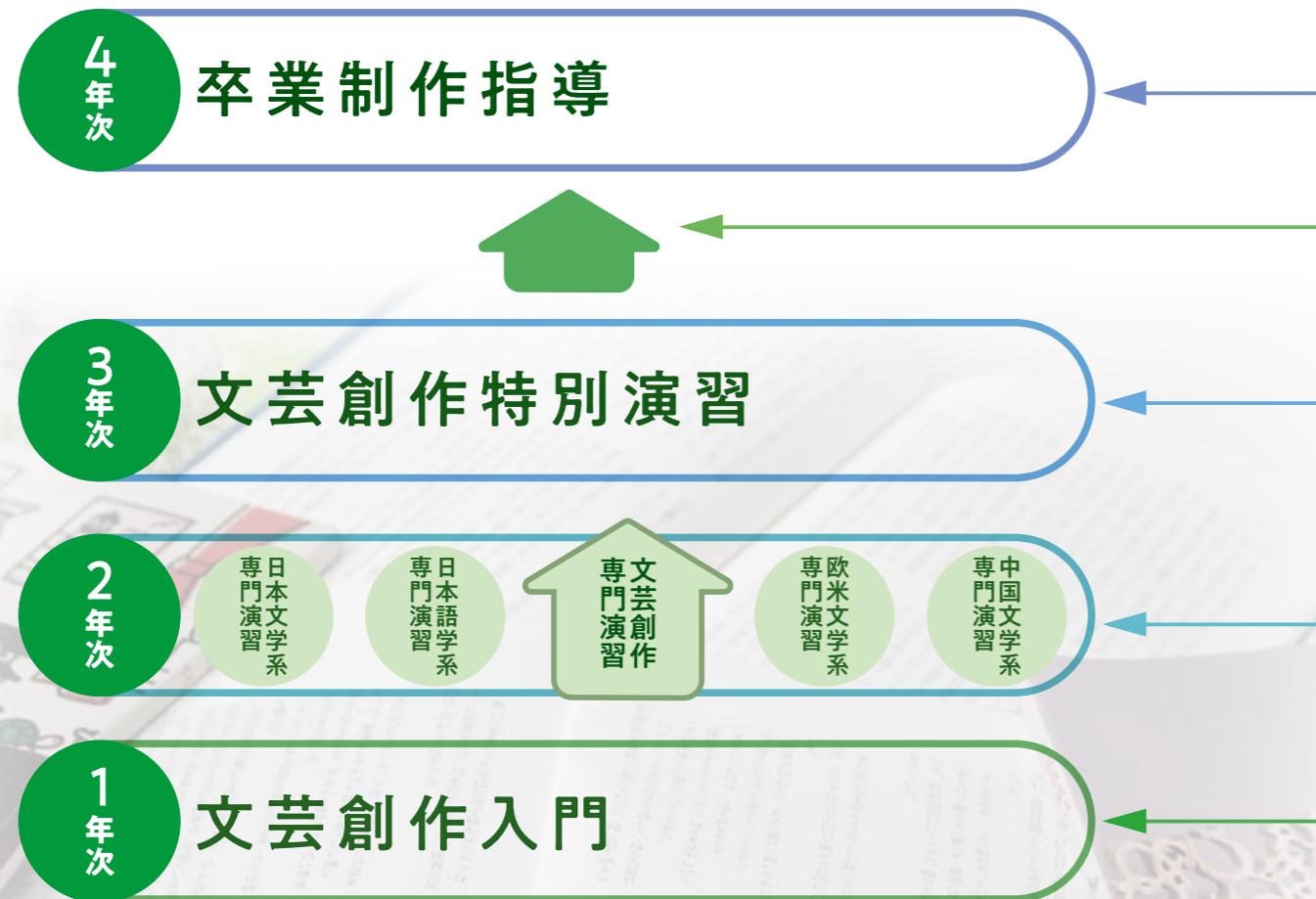
株式会社メガネトップ(眼鏡市場)勤務

西澤 真悠香

(2023年度卒業生)



尾道市立大学日本文学科には、学生自らが新たな文学作品を創作し卒業制作として提出する〈文芸創作プログラム〉があります。



卒業制作のジャンル等

卒業制作では、主に小説の執筆に取り組む人が多いですが、戯曲を書いて上演したり、オーディオドラマの脚本を書いて制作したり、詩作と批評を組み合わせるなど、形式も様々です。ジャンルもミステリー、SF、ファンタジー、歴史小説、時代小説など多岐にわたり、複数のジャンルを横断するような形でライトノベル要素の強い小説を書き上げる人もいれば、いずれかのジャンルに単純には分類することのできない複雑なモチーフ・テーマを取り上げる人もいます。

文芸創作を志望する人たちの取り組み

4年次 文芸創作ゼミの開講

3年次に取り組んだ研究の成果を活かしつつ、卒業制作に取り組めます。卒業制作は韻文／散文、ジャンルを問わず、自身の立てたテーマに沿った形式を選ぶことができます。私は「表現面で韻文の要素をいかに散文に活かせるか」をテーマの1つとして掲げ、3年次に研究した詩の連続性や区切れを小説の表現に活かしていきたいと考えています。

選考について

3年次終了後、創作ゼミに入るための選考が行われます。選考は、希望者が定員の10名を下回る場合でも行われます。3年次までの成績(GPA)、ポートフォリオの学修記録と読書記録、外部の文学賞・コンクールへの応募が主な選考基準となります。1年次からこまめにポートフォリオを記録し、文芸創作に取り組んでおくことが大切です。選考を通らなかった場合は、3年次に所属していたゼミで4年次も引き続き研究を行います。

3年次 研究ゼミに所属

ゼミに所属し、そこで研究を行います。この1年間の研究成果が4年次の創作の基礎となるため、しっかりと取り組む必要があります。私は近現代文学のゼミに入り、山村暮鳥作品である「雲」、「おなじく」、「ある時」という3篇の詩を取り上げて、その連続性や区切れについて研究を行いました。視点人物の視線と意識の段階的な変化やタイトルの違いから、3篇に通底する連続性と区切れを見出し、その表現的な効果について考察しました。

2年次 専門演習を履修

2年次には他の専門演習(日本文学・日本語学・欧米文学・中国文学系)とともに、文芸創作専門演習が開講されます。文芸創作専門演習では、創作のあるべき姿や実践的な創作の技術を学ぶことができます。グループディスカッションの時間もあり、私は他の受講生との意見交換を通して、創作に対する自身の考えを深めることができました。文芸創作ゼミを志望する場合、3年次には研究を行い、その成果を4年次の創作に活かします。そのため、文芸創作ゼミの志望者は文芸創作専門演習とは別に、3年次に所属したい研究ゼミの専門演習も履修します。3年次、研究ゼミに所属しながら履修することも可能です。また、選考に向けて、3年次にどのような研究に取り組む、それを4年次の創作にどのように活かしていくのか、2年次のうちに大まかな見通しを立てておく必要があります。

1年次 文芸創作入門を履修

文体や修辞学、メディアに関する講義を通じて、創作という行為に対する知識を深めます。また、事後学修として、各回のテーマに沿って文体模写などの創作課題に取り組めます。提出した課題は全体に公表され、合評会という形で他の受講生との相互評価も行われます。最終課題では、他の受講生と協力して雑誌の作成に取り組み、視覚メディアの効果や特徴について学ぶことができました。



日本文学科4年
津島 衣葉

日本語学



日本語学(現代語) 教授 灰谷 謙二

〇〇方言とか〇〇語とか、いろんな概念で区切られ語られるものを「～ことば」ということがあります。わたしたちが人とまじわり人と生きていく、その切実な生活実感をとまなうとき「ことば」と呼びたくなります。現代語を扱いますが、「今を生きる、生活の中の話しことばと書きことば」の表現であることを置き去りにしないよう心がけています。



日本語学(古典語) 教授 藤本 真理子

今、私たちが話したり書いたりしていることばと、昔の人のことばとは、どこかでつながっているはずなのに、どんなふうになってきたのか、分からないことがまだたくさんあります。古い資料の全てが残っているわけではなく、資料の点と点をつないで、歴史や変化の図を描いていくのは、私たちに任されています。他言語や日本の方言など、さまざまなことばの変化をヒントに、皆さんもストーリーと一緒に描いていきませんか。



日本語学(言語学) 講師 高島 彬

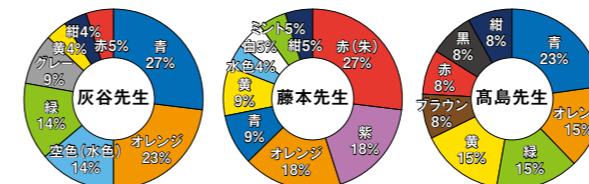
なぜ世界には多くの言語があるのか。なぜ「ことば」は世界に1つではいけないのか... その答えは、それぞれの「ことば」にその「ことば」を話す人たちの思考や世界の捉え方が色濃く反映されているからです。「ことば」の研究を通して人間について深く考える。この面白さを多くの学生と共有し、共に探求していきたいと思っています。

日本語学系の授業って?どう?? 日本文学科の学生に日本語学系の授業のイメージを聞いてみました。

イメージを「数値化」してみよう!!

イメージを「可視化」してみよう!!

Q1:日本語学の先生の授業を「色」で表すなら何色?



灰谷先生 オレンジ:授業で学生が発表しているときいつもニコニコ聞いてくれるから
空色:灰谷先生の中にある膨大な量の専門的知識を感じられ、日本語学の無限の可能性を感じられるから

藤本先生 赤:語学に対する愛情が感じられ、少し厳しいイメージもあるため情熱の炎が感じられるから
紫:端的に物事をハッキリと伝えるため、冷ややかなイメージがあるが、隠しきれない温厚さと優しさが滲み出ているため、赤と青の混色

高島先生 緑:文章を書く上での基礎の内容が多いイメージで、優しい緑が思い浮かんだから

Q2:日本語学の授業を「オノマトペ」で表してください!



灰谷先生 ほわほわ:ほんわかした雰囲気授業で落ち着く
キラキラ:方言の話をされている先生の表情がキラキラ輝いているから

藤本先生 すーっ:説明に使われている例がわかりやすく、すっと頭に入ってくるから
びよんびよん:ロドリゲス日本大文庫の調査は大変だったけど、深く知ることができて楽しかったから

高島先生 サクサク:日本語の様々な表現について要点をおさえてサクサク進む授業だから

Q3:日本語学の先生の授業を「動詞1語」で表すなら?

灰谷先生

✓ 語る
方言が好きなんだらうなあということが伝わってきて、授業というよりは、推しに対しての語りを聞いているような気持ちになって、面白いから。
✓ はにかむ
本当に楽しそうに授業をなさるので、こちらまで自然と笑顔になってしまう。また、発音の実践を通して表情筋が鍛えられるから。

藤本先生

✓ 積もる
新たな辞書や画像資料が多く登場する講義で、その説明文もかなり詳細にレジュメに描かれているのですが、その量から新たなものが登場する度にドンッと分厚い本が目の前に積まれていくイメージ
✓ 掘る
一つの言葉に対して深掘りしていく授業だと思うから

高島先生

✓ 考える
普段当たり前に使っている言葉について改めて考えることが多いから
✓ 広がる
今まで見えなかった、しなかった解釈を広げて見つけ直すから

中古文学

教授
宮谷 聡美



私は『伊勢物語』とその周辺の文学に興味を持っています。「歌物語」の時代の後に『源氏物語』のような長編物語が創作されるようになって、物語に和歌は不可欠なものであり続けました。

講義では『伊勢物語』『源氏物語』や文学史、演習では『古今和歌集』『枕草子』などを取り上げ、古典の中に見える人々の思いや**価値観**に触れることが、現代に生きる私たちにとってどのような意味を持つのか考えたいと思います。



中古文学ゼミ風景

中世文学

教授
藤川 功和



『源氏物語』と同じぐらい書名を知られているであろう『百人一首』は中世文学の範疇ですが、実に様々な形で読者に享受されました。**絵**入り本もその一つで一首ずつ和歌の内容を絵で表した歌意絵(かいえ)が付いた書籍が江戸時代に多く出版されていて、それらを読み比べると和歌への理解のあり方の**変容**をしばしば目にします。例えば右頁は…

古典文学



日本近世文学とは江戸時代の文学のことで、私は近世中期(1700年代頃)の文学や本屋の出版活動などを中心に研究しています。

近世文学の世界には、漢詩や和歌といった伝統的な文芸から、浄瑠璃や歌舞伎、読本や草双紙といった新興的な文芸まで、**多様**で魅力的なものが多くあります。これらを読み解き、学ぶことの楽しさを一緒に味わいましょう。

今日の絵本に相当する「草双紙」というジャンルのうち、とくに「合巻」と呼ばれるもの。本書は曲亭馬琴が著した読本『南総里見八犬伝』を抄録して合巻に仕立てたもの。表紙に描かれた絵は上下2冊を横に並べることで1つの図柄を完成させる。



笠亭仙果 作・一陽斎豊国 画
『犬の草紙』二十一編(上下冊)の表紙
(吉田架蔵本)





教授
柴 市郎

私の専門領域は日本近代文学です。明治時代から昭和期までの文学を主要な研究対象としています。作家で言えば、夏目漱石や小林秀雄といった文学者たちが対象です。さらに現在は、映画など活字メディア以外の分野についても考察しています。

近年、文学研究の世界は多様化し、学会の研究誌にも、アニメーションなどのサブ・カルチャーや映画に関する研究論文が掲載される時代になりました。

こうした新たな文学研究の動向にも配慮し、多様なジャンルの表現にも視野を広げてもらえるよう、講義・演習をおこなっています。



近 現
明 大
治 正

代 文 学
昭 平 令
和 成 和



教授
原 卓史

【ゼミ風景】 人数：10名

卒業論文のテーマ：江戸川乱歩、太宰治、夢野久作など

【授業】 前期：「日本の文学」、「日本文学史」、
「近現代文学専門演習」、「卒業論文（構想・準備）」など
後期：「日本文学講読」、「日本文学講義」、
「近現代文学専門演習」、「卒業論文（制作）」など



【著書&編集協力】 『坂口安吾 歴史を探偵すること』（双文社出版 二〇一三年）

【研究対象】 坂口安吾・太宰治など／歴史時代小説／カストリ雑誌



【コラム】〈文学の街〉の中世

尾道は、2015年に「尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市」として、日本遺産に登録されました。そんな尾道の来訪者の一人、今川了俊（1326～1414頃）は、室町幕府の武将にして和歌などを良くする優れた文人でもありました。彼は九州遠征の途次に尾道を訪れていて、紀行文『道ゆきぶり』には「北に並びて浅茅深く、岩ほ凝りしける山あり。麓に添ひて、家々所せく並びつつ、網干すほどの庭だに少なし…」と、今に通じる景色が活写されています。

一方で、了俊は、「さても備後は、鏡にすべき文も少なく…」(それにしても、備後には、手本にできる書物も少なくで…)とも記しています。志賀直哉や林芙美子ら文豪に愛され、今では〈文学の街〉とも称される尾道の中世における意外な一面が、『道ゆきぶり』から垣間見えます。



今川了俊(俗名貞世)像
(尾道市立大学附属図書館蔵「武家百人一首」に拠る)

近現代文学専門演習Iを履修して

私がこの授業を履修したのは、近現代文学研究の基本的な進め方を学び、作品の読解や研究に必要な姿勢を身につけるためでした。私は、夢野久作をはじめ近現代期の日本文学作品に興味があり、研究していきたいと考えています。その基礎になると考えて履修しました。

専門演習を通して、先行研究の論文・図書の探し方や、作品を読み解くための様々な観点など、まずは基礎基盤を固めることができました。同じく原先生の担当される「日本文学史V」「日本文学講読V」でも、研究の進め方や様々な文学理論を学んでいたのですが、専門演習ではそれらを自分の中により取り入れることができたように感じます。作品と深く向き合う中で考察の手掛かりを得たり、先生や他の受講生との質疑応答から自分が見えていなかった盲点に気付いたりできます。これがめちゃくちゃ面白いんです！

近現代文学は、作品そのものの解釈を深める楽しさや、その後ろにいる作者の息遣いを感じられるのが魅力的だと思います。テキストから広がる「読み」の可能性の大きさをたびたび実感しています。



日本文学科3年
宮元 望



教授
鷹橋 明久

中国文学



日本文化は長い歴史の中で多彩な地域の影響を受けて形成されてきましたが、中でも中国文化は漢字や思想、芸術様式などを通じて、日本の文化や文学に深遠な影響を与えてきました。私は特に、魏晉南北朝の詩文に専門的関心を寄せ、この時代に生まれた文学的革新や美意識が、どのように日本の和歌や物語文学に創造的影響を及ぼしたかを探究してまいりました。

私が注目しているのは、魏晉南北朝文学における「言志」の伝統や「玄学の世界観」、さらには「山水文学」の萌芽が、日本で独自に咀嚼され、文化的アイデンティティの核として根付いていく過程です。例えば、建安文学の情感表現や竹林七賢の清談思想、陶淵明の田園詩に見られる隠逸の美学などが、日本の貴族文化や隠棲文学に与えた示唆は計り知れず、そこから日本文学が独自の美学を育てていくダイナミズムには、文化交流の創造的可能性が凝縮されています。

現代社会では、世界中の文化や情報が瞬時に触れられる一方で、魏晉南北朝という中国文学の変革期が培った知的冒険精神や美意識に親しむ機会が減少しがちです。しかし、この時代の書法や文人思想を継承した芸術実践を通じて古典の精神を受け継ぎ、現代的感性で新たな表現を模索する人々も着実に増加しています。私の授業や研究においても、魏晉南北朝の詩文の精読にとどまらず、政治的分裂と文化的統合の時代背景、儒教・道教・仏教の思想的交錯、東アジア諸国への文化伝播など、重層的な視座から文学を読み解くことを重視しています。

このような多面的視点から魏晉南北朝文学に向き合うと、「文」と「質」の相克、個性的表現の勃興、士人意識の変容など、激動期ならではの文学的営みが浮かび上がってきます。この理解は、多様な価値観が交錯するグローバル社会において、異文化への深い洞察力和柔軟な思考を育む貴重な基盤となるでしょう。

皆さんと共に、阮籍や陸機、陶淵明、鮑照や謝靈運といった文人たちが魂を込めて紡いだ作品の魅力や、そこに宿る普遍的思想を共有し、新たな気づきと創造の源泉としたいと願っています。魏晉南北朝の詩文が今日に伝える言葉の深み、表現の妙、そして士人たちの精神世界を、授業を通して一緒に探求していきましょう。そこに見出される美意識や思想は、現代を生きる私たちに新たな発見と示唆をもたらしてくれるはずです。



教授
藤井 佐美

民俗学・伝承文学

隣接領域である文学と民俗学に注目しながら、日本の伝承・文化を研究しています。個人的には、学侶が唱導に用いた昔話や伝説などの口伝の世界を研究対象とし、地域の文化調査も進めています。まったく別世界に思われる分野が自然に結びついたとき、日本文化の奥深さを実感すると同時に伝承の世界が少しずつ身近になります。ゼミには好奇心旺盛な学生たちが集まり、バラエティに富む調査・研究を楽しんでいます。



准教授
山田 和久

国語教育学



「国語教育学」と聞いて、高校生までに授業を受けてきた経験から、なんとなく読み書きの力を高める方法を考える学問というイメージがあるかもしれません。確かにそれは間違いではありません。しかし、「国語教育学」の射程はもっと広く、国語科における教育の方法、読む・書く・話す・聞くという行為のメカニズムの解明、そもそも「国語」とは何かということを考える、など、扱う対象が多岐にわたります。つまり、子供たちの「言葉の力」を高めることに関することであれば、なんでも扱う学問であるということが出来ます。多様な領域を扱うがゆえに他の学問領域を意識しながら＝多様な人々と関わりながら、研究を進めていくことになります。

私自身は、「国語教育学」のうち、文学研究と子供たちの「言葉の力」の成長とをつなぐ側面に重点を置いて研究しています。多様な人と関わりながら、子供たちの「言葉の力」を高めていくことのできる人材を育てていきたいと思っています。



講師
島田 喜行

哲学・倫理学



「哲学・倫理学?」「興味はあるけど難しそう。」このようなイメージを抱くのも仕方がないのかもしれませんが。というのも、「哲学」とは何か、という問いにたいして、ピシッと明快に答えることはとても難しいからです。そもそも哲学は学問なのか。倫理(学)や道徳と違うのか。もし違うのなら、どこがどう違うのか。こうした問いはどれも、哲学者や研究者の間でも答え(意見)が色々とできそうな難問です。わたくしもまだ最終的な答えを見つけられていません。

最終的な答えは提示できません。しかし、どんな哲学・倫理学にもあてはまる(とわたくしが考えている)ことなら提示できます。それは、哲学・倫理学が「世界-私-他者」について、その「在り方-生き方-関わり方」をめぐる、じつに多彩な思索を積み重ねてきた、ということです。この広大な思索のなかには、みなさんが知りたいと願うことの一答えではなく—手がかりがきつとあります。みなさん、自分が本当に知りたいと思うことの手がかりを見つける知的な探究を始めてみませんか。

欧米文学



教授
小畑 拓也

20世紀中頃以降のアメリカのSF (science fiction/speculative fiction)の研究を出発点として、文化研究 (cultural studies)の立場から、娯楽として消費されるステレオタイプ化したイメージ(ロボット、異星人、モンスターなど)の分析・再解釈を通じて、差別／排除を正当化しようとする「毒になる物語」への解毒剤を提供することを目指して、試行錯誤を続けています。

「欧米文学概論」・「欧米文学講義」・「比較文学」の講義科目では、「文学」との関わり方を「趣味・消費」から「研究・再生産」へと切り替えてゆく上で必要となる、専門用語の提示・解説に注力しています。演習科目の「欧米文学専門演習」では、情報収集と分析の訓練を外国語資料の読解を通じて積んでもらうことにしています。



英語



教授
高垣 俊之

私は主に2・3年生を対象に英語を教えています。学生の皆さんの中には、大学に入ってから英語を勉強しなければならないのかと溜息をつく人がいるかもしれませんが、しかし、洋の東西を問わず、有名な作家や知識人の多くは外国語学習あるいは外国生活を通して言語観や表現技能を高めていったと思われる節があります。皆さんにも意欲的に英語と格闘してもらい、母語と外国語の言語能力に磨きをかけてもらいたいと願っています。

研究面では、英語の習得と使用に関する諸問題をマルチリンガリズムの枠組みの中で考えています。研究成果としては以下のようなものがあります。

- ・『新装版：カナダの継承語教育—多文化・多言語主義をめざして』(2020) 共訳、明石書店
- ・『英語デトックス—世界は英語だけじゃない』(2016) 分担執筆、くろしお出版
- ・『英語の習得と使用—バイリンガリズムの視点から』(2014) 単著、溪水社



教授
平山 直樹

私の専門分野は英語学で、15世紀イギリスの名家であるパストン家の人々が生きた日常の手紙や法的文書などの英語を研究しています。書き手が自分の考えを表す時に使うI thinkや、相手をお願いする時に使うI pray youが、文の最初、内部、文末で使われる場合に、それぞれどのような意味を持っているかを明らかにするために、手紙の送り手と受け手の社会的な関係や、日常の手紙なのか契約書なのかという文書の形式の違いなどに着目して調べてきました。

授業は教養教育科目の英語を担当しています。TOEIC対策の授業ではテスト対策をするだけでなく、ビジネスや日常の場面で使う英語の基礎力を身につけることを目指します。また、読解演習を中心とした授業では、文構造や談話構造、更には英語と日本語の事態に対する認知方法の違いにも留意して解釈をする

練習を繰り返します。これにより、辞書と読解方略を組み合わせる英文を正しく読み、授業後も自己学習を進められる力を身につけることを目指します。



14-15世紀にパストン家所有の家があったと言われている、英国ノリッジのエilmヒル

おのみち文化スタディ



おのみち文化スタディは、新入生と上級生・教員と一緒に街歩きをして、尾道の歴史と文化を学ぶ教育プログラムです。2024年度は5月11日(土)に尾道散策、6月14日(金)に報告会を実施しました。尾道散策の日は晴天にも恵まれ、6つのグループそれぞれが、海の幸やスイーツを堪能したり、ワイヤーアートや活版印刷を体験するなど、楽しみながら尾道の魅力を学びました。また報告会の日も、グループごとにスライド資料を使いながら10分程度の発表を行い、尾道についての学びを深めました。

*スライドは報告会で使用されたものを転載しました。



松江城



出雲大社

出雲大社「神在祭」
かみありさい

日本文学科専門教育科目の一つで、3年次以降に履修する科目です。授業の目的は、日本文学研究と文芸創作に結びつく実地踏査をおこない、机上の学習では得られない資料収集や調査研究能力を養うことです。また、事前学修と事後学修をとおとして、企画立案能力と報告能力を身につけながら、歴史学・民俗学・日本語学および日本文学等の点からも広く日本文化について学ぶこともねらいとしています。

授業では例年、2泊3日で教員引率型の実地踏査をおこなっていましたが、新型コロナウイルス感染防止期間中は集団での実習は中止となっていました。しかし、コロナ5類移行という時期を迎えたことから、2023年度から日帰りの集団踏査を再開し、2024年度は感染症対策に配慮しつつ、宿泊を伴う実地踏査の再開として、1泊2日の調査を行いました。踏査地を島根県松江・出雲地区に設定し、出雲神話の舞台となった史跡や松江城、小泉八雲ゆかりの地など、山陰地方の豊かな歴史・文学遺産を巡る学修プログラムを展開しました。履修者は事前学修を踏まえ、集団での実地踏査に加え、個人でのフィールドワークも実施し、その成果発表と報告書作成をおこない、報告書を『尾道文学談話会会報』第15号にまとめました。

尾道文学談話会



尾道文学 談話会会報

第
15
号



尾道市立大学 芸術文化学部 日本文学科

尾道文学談話会会報 第15号表紙デザイン
美術学科2024年度卒業生 黒山穂乃香さん

日本文学科を中心とする本学の教員が文学や言葉にかかわるさまざまな話題を提供し、地域の方々と大学の外で語り合う形式の公開講座です。ここでの成果は毎年『尾道文学談話会会報』にまとめられており、会誌の内容はインターネットでもご覧いただけます。



会報第15号はこちら

2025年度・尾道文学談話会 (全6回)

- 第1回 「妖怪カルタの遊びと学び—村上海賊ミュージアム資料より—」
藤井 佐美 (日本文学科教授)
- 第2回 「備後方言のこれまでとこれから」
灰谷 謙二 (日本文学科教授)
- 第3回 「白玉か何ぞ—『伊勢物語』の歌☆物語—」
宮谷 聡美 (日本文学科教授)
- 第4回 「江戸時代のカッパ(河童)たち」
吉田 幸 (日本文学科准教授)
- 第5回 「ことばに反映される創造力—レトリックの思考法—」
高島 彬 (日本文学科講師)
- 第6回 「SFを読むキーワード: エイリアン」
小畑 拓也 (日本文学科教授)

虚構研究会



虚構研究会

虚構研究会は人文学・芸術分野の様々な事象について情報共有・意見交換を行う場です。文字を媒体とした文学ジャンルはもちろん、視覚映像・音声・空間、さらにはそれらが複合するものも含めたあらゆるメディア上の虚構・物語・表現を、研究・考察の対象にしています。

これまでに、参加者が推薦するマンガや小説を取り上げた読書会、海外アニメや映画を分析的に見るための鑑賞会、特定のビデオゲームについて考察する討論会、好きな楽曲を挙げて音楽的な視野を広げてゆく会、ジャンルを問わず自分自身が影響を受けたものについてゆるりと語り合う会などを行ってきました。

人間が認識している世界(現実)は、人間が五感を通して得た情報をすべて人間に把握可能な形に再構成し、書き直した「虚構」です。私たちを取り巻く「現実」という「虚構」を一緒に読み解いてゆきましょう。(小畑 拓也 研究室)

高橋新太郎文庫

近代文学研究者、学習院女子大学元教授・高橋新太郎氏(昭和7~平成15)は、貴重な資料を含む膨大な蔵書を残されました。現在、日本文学科では、資料の整理、資料の展示会開催、データベース化作業に取り組んでいます。

2024年に開催された「オープンキャンパス」での展示



伝承文化研究会



大学周辺のお祭り



村上海賊ミュージアム
特別展示の様子

日本の様々な伝承世界について、文献調査やフィールドワークから研究しています。祭を追いかけて縁起物を探したり、民話の探訪、古文書の活字化やデータベース化なども進めながら、後世に伝える方法を模索中です。くずし字から読み解いた『ばけ物三十六歌仙』の研究成果は『尾道文学談話会会報』第12号に掲載し、所蔵される村上海賊ミュージアムの特別展示や本学でもパネル展示をおこないました。これからも日本の多様な文化を楽しみながら伝えていきます。(藤井佐美研究室)

おのみち 文学三昧

尾道市立大学日本文学科

尾道市立大学日本文学会

おのみち文学三昧は、尾道市立大学日本文学科・尾道市立大学日本文学会共催の文学イベントで、毎年12月に尾道駅前のしまなみ交流館で開催しています。



第二部では、広島県出身の芥川賞作家小山田浩子さんと学生有志による公開トークイベントを企画し、日本文学科の特色の一つでもある〈創作〉の魅力会場全体で共有しました。



昨年度は、第一部の学会大会で、三年生研究発表会発表者の中から選抜された四名に、日本文学科の新任教員一名を加えた五名が、文学とその周辺領域に関する最新の研究成果を発表し、活発な議論が交わされました。

4年生
森 俊介



時は承久の乱後、鎌倉中期。一条実経は左大臣、関白、摂政に昇り詰めるも失脚して十数年後にまた政界復帰、と激動の人生を送りました。そんな老齢の政治家が死ぬ前に、今まで詠んだ和歌を選び、並べ、出来たのが、私家集『円明寺関白集』です。彼はなぜ家集を作ったのでしょうか？ 謎に迫るべく研究発表に取り組みました。

4年生
金藤 花林



志賀直哉『クローディアスの日記』において、典拠である「ハムレット」と作品内の呼称に注目し、そこから見出される『主人公の心の性質』に後の志賀作品生成への道筋があることについて発表しました。発表を通して自身の研究を振り返ることができ、様々なご意見を頂けたことで新しい視点を持つきっかけにもなりました。

4年生
大本 日菜子



尾道市浦崎神楽と松永湾周辺の地域の神楽の起源と継承について、フィールドワークを中心に郷土資料も確認しながら研究発表を行いました。発表を通して、貴重なご指摘、ご意見をいただき大変勉強になりました。地域の神楽の魅力を広めることができる良い機会をいただけて嬉しかったです。

卒業論文の階梯 (2024年度卒業生 延永千佳さんの場合)

タイトル：『とりかへばや物語』の宰相中将の人物像について—色好みの貴公子の面から—

1. 卒業論文の内容 — 平安時代末期の物語『とりかへばや物語』の宰相中将を、色好きな貴公子としての面から考察しました。物語本文の表現に注目する他、他作品の色好みの貴公子とされる人物(光源氏や匂宮など)の描写との比較をしています。また、宰相中将と、『とりかへばや物語』の他の王朝文学作品に対するパロディ的な読みとの関係にも触れています。

2. 完成までの学修の履歴

1年生

必修授業である基礎演習の授業等を通して、研究の方法や論文執筆の土台を学びました。また、興味のある授業は積極的に履修し、知識を広げました。

2年生

3年次のゼミ選択を見据え、中古文学の専門演習を履修しました。専門演習では、自身の調査研究や考察の発表や、他の受講生との質疑応答を通し、考察をより深めたり、多角的な視点を学んだりしました。

3年生

卒業論文で取り上げる題材を決め、週1回開催されるゼミで、他のゼミ生と意見交換しながら、研究を進めました。特に、11月にある中間発表を目標に、研究の方向性や論点を定めていきました。

4年生

10月の中間発表までに、卒業論文の大まかな目次や中身を詰めるため、4年生前半では調査・考察を中心に研究しました。その後は卒業論文を執筆しながら、足りないところの研究も引き続き進めました。ゼミでは、書いたところまでゼミ生同士で目を通し、ブラッシュアップしました。

3. 日本文学を学ぶ意義 — この4年間、日本文学を学び、文学作品やその研究を通して、様々な作品世界や観念に触れてきました。その中で、作品世界に留まらず、自分の周りの他者、更には自分自身を理解し表現する、様々な指標・視点を学びました。その多様なものの見方を養うことが日本文学を学ぶ意義ではないでしょうか。



卒業論文

2024年度卒業論文・卒業制作・修士論文

● 文芸創作領域	<ul style="list-style-type: none"> ● 幸せの引き算 ● 清水にすむ ● 未完 Sandbox・サン深夜の寸劇人生相談 ● さゆりにあらず ● 葦の髄から天井をのぞく 	<ul style="list-style-type: none"> ● 刻刺す時は ● 九夏の桜 ● 予めごす承ください ● 忘れの夏 ● 夏虫水を疑わず
● 日本語学領域	<ul style="list-style-type: none"> ● 七月隆文『100万回生きたきみ』における恋愛要素に関わる表現の研究 ● 広島方言話者における関係性と文脈からみた方言の調整行動についての研究 ● 大阪府方言における否定形式「ヤン」についての研究 ● 岡山県岡山市方言の若年層におけるガ系文末詞「ガン」に関する研究 ● 時代浄瑠璃の文体の研究 —『国姓爺合戦』における下二段活用動詞の形態を中心に— 	
● 日本古典文学領域	<ul style="list-style-type: none"> ● 和泉式部歌の独自性について —自己表現の方法に注目して— ● 中古和歌文学作品における「紅」について ● 『源氏物語』帯木巻「雨夜の品定め」—四人の女性と物語のはじまり— ● 『落窪物語』におけるあこぎの人物像について ● 『とりかへばや物語』宰相中将の人物像について —色好みの貴公子の面から— ● 登場人物の死からみた『大和物語』の独自性 ● 後醍醐天皇の政治と文学 —正中二年七夕御会和歌懐紙を中心に— ● 恋川幸町とその周辺 —『百福物語』と『江戸前噺鯉』を中心に— ● 男色の描かれ方 —容姿・身だしなみ・心持ちを手掛かりに— 	
● 日本近現代文学領域	<ul style="list-style-type: none"> ● 作家の宗教観が文学作品にもたらす影響 —三浦綾子の自伝『道ありき』をもとに— ● 野坂昭如の描く戦争とその受容について —「アメリカひじき」「火垂るの墓」「戦争童話集」を例に— ● 木下龍也 短歌の特徴とその変遷 —個人歌集収録歌の分類から— ● 村田沙耶香『コンビニ人間』論 —特徴的なキャラクターの描かれ方とその背景— ● 生成系 AI によるアニメオープニング楽曲の歌詞解析の試行 —アニメシリーズ『ソードアート・オンライン』を基に— ● 袖月裕子『孤狼の血』論 —暴力団を取り巻く社会背景と暴力団像— ● 加藤武雄『君よ知るや南の国』論 —対立する職業的成功と恋愛— ● (創作)『明暗のサウンドスケープ』 ● 谷崎潤一郎『小さな王国』論 —教育思想と叛逆— 	
● 中国文学領域	<ul style="list-style-type: none"> ● 荀氏『靈鬼志』研究 —鬼王について 	
● 伝承文学領域	<ul style="list-style-type: none"> ● 静岡県伊豆の民話「仙人みかん」の考察 —神秘性と果物の由来— ● マヨイガ譚の発生と伝播 —伝承経緯の考察と文章資料の課題— ● 徳島県祖谷溪の平家落人伝説の研究 —近隣地域との比較を通して— ● 蠟燭をめぐる行為の研究 —息・火との関係に注目して— ● 送り狼の考察 —変遷と受容について— ● 継子話「皿々山」の特徴 —「糠福米福」との比較を中心に— ● 『絵本百物語』赤い魚についての考察 —その由来について— ● 岡山県富時伝説「巡礼狼」の研究 ● 『日本霊異記』からの三途の川の変遷 —冥界説話での道行き— ● 愛媛県に伝わる首なし馬伝承の研究 —信仰における成立背景と役割— 	
● 国語教育学領域	<ul style="list-style-type: none"> ● 国語科教育における「物語創作指導」の研究 ● 高等学校における通級による指導の充実を目指して —インタビュー調査から考える今後のインクルーシブ教育システム— ● 学校図書館を利用した効果的な国語授業の在り方について ● 高等学校国語科における探究的学習課題の研究 —「古典探究」の場合— ● 大学入学試験の国語が問うている学力 —大学入試センター試験から大学入学共通テストの変遷を踏まえて— 	
● 欧米文学・比較文学領域	<ul style="list-style-type: none"> ● 筒井康隆「虚人たち」における語り手についての分析と考察 —物語の構造と主題をテキストから明かす— ● 小説『床下の小人たち』と映画『借りぐらしのアリエッティ』の比較 —登場人物や小人たちの道具を中心に— ● 少女向けアニメーションにおけるジェンダー/セクシュアリティ表象 —『美少女戦士セーラームーン』と『少女革命ウテナ』の異性装キャラクターを中心に— 	
● 2024年度修士論文	<ul style="list-style-type: none"> ● 中学校における「読むこと」と「書くこと」の関連指導 	



確かな造形力
表現を磨く。

表現する意欲
感覚を開放する。

メディアの有効利用
美しく伝達する。



美術学科長
中村 譲

本学が開学し美術学科ができて24年が経ちます。時代の流れとともに美の価値観や表現の内容も多少の変化があり、その時々々に相応しいカリキュラムや指導態勢を整えてきました。現在では作品制作だけにとどまらず、自身の活動を発信する能力、芸術を通して地域や社会との関わりを持つことも重要視されています。学生にとっては積極的に周囲の人とつながり、今までにない新しいことに取り組んだりする必要もあるでしょう。

本来、大学では各々の勉強を通して専門の知識・技術を深めることは勿論のこと、学生同志が集い、いろいろな価値観や手法を知って理解し、刺激し合いながら自身を高めていく場であると思います。またその様な環境こそが学生時代に重要なことではないでしょうか。昨今コロナ禍を経験し大学に通うことが困難な学生が増えたとも聞きます。しかし学生の皆さんには、なるべく大学に通い、あるいは街に出て、何か行事やワークショップやその他のことでも積極的に参加していただきたいと思います。その経験は総合的な人間力を養うことになるでしょう。未知の自分の可能性を信じて社会に出て継続して美術に携わって行ける、たくましい人材になってもらえたらと願っています。



学科紹介動画はこちら



選択コース(日本画コース・油画コース・デザインコース)

1
年
次

デッサン基礎実習・彫刻実習・構成実習(平面・立体)
総合基礎実習(日本画・油画・デザイン)

1年次後期にコース選択
2年次にコース確定

	日本画コース	油画コース	デザインコース
2 年 次	課題制作 自由制作 スケッチ旅行 動物スケッチ 人体デッサン	フィールドワーク オムニバス授業 ゼミ 自主制作 進級制作	各領域から課題を出題 グラフィックデザイン アドバタイジング アニメーション イラストレーション 映像デザイン 造形デザイン クラフトデザイン
3 年 次	課題制作 自由制作 人体デッサン	オムニバス授業 ゼミ 自主制作	専門領域の課題 領域間のコラボレーション課題
	古美術研究演習		
4 年 次	自由制作	進級制作	地域プレゼンテーション (展示発表会)
	課題制作 自由制作 人体デッサン 卒業制作	自主制作 研究会 ゼミ 卒業制作	自主研究制作 卒業制作

大
学
院

専門領域の制作および研究
(より専門的な制作や研究を行う機関として大学院が設置されています)

美術学科の入学者の受け入れの方針(アドミッション・ポリシー) 教育の理念・目的と求める学生像

美術学科の教育理念は、美術における専門家として持続的に創作活動に携わり、地域や社会の文化・芸術に寄与する人材を育成することにあります。

個々の学生の美に寄せる豊かな感性を尊重しながら、実技教育を通して専門的な知識・技術を獲得させること、また、学生が相互に切磋琢磨する機会を通して、芸術文化に関する幅広い視野を身につけさせることを目的とします。その上で、作家やデザイナーとして、あるいは美術教員や学芸員等として、持続的に美術に携わることのできる人材の育成を目指しています。

このような教育理念・目的に基づき、高等学校までの学習を通して培った理解力と思考力、美術の表現力を前提とした上で、美術学科は次のような人を求めています。

- ・豊かな発想や色感を持ち、構成力、描写力などの基礎的な造形力を持つ人
- ・本学で学修を進めるために必要な基本的な知識、理解力を持つ人
- ・自らの問題意識にしたがって考え、客観的な視点を持つ意欲のある人
- ・自らの感覚や思考を、美術表現や言葉によって他者に伝える意欲のある人
- ・主体性を持って学ぶ姿勢を持ち、多様な人々と協働して学ぶ意欲のある人
- ・将来的なビジョンを持ち、自らの創造性を高める意欲のある人

専攻を選択できるコース制

1年次は、基礎実技を重視して基本的な造形能力を養います。全員が共通課題として、デッサン基礎実習、彫刻実習と3つのコース課題(構成実習/日本画・油画・デザイン)を体験します。その後、各自志望コースの課題(総合基礎実習/日本画・油画・デザイン)を選択し、自己の資質と方向性を吟味します。2年次からは3つのコース(日本画・油画・デザイン)に分かれ、1年次で学んだ基礎力を踏まえて、それぞれの分野の知識や技術の修得に力を注ぎます。

美術学科では、美術における専門家として持続的な創作活動に携わり、地域や社会の文化・芸術に寄与する人材の輩出を目標としています。このことを踏まえ、所定卒業単位の修得と卒業制作に加え、以下の学修成果を達成した学生に対して「学士(美術)」を授与します。

- ・美術に関連する基本的な素養を身につけ、専門分野の基礎的な知識や技術を修得し、感性を養いながら、それらを自己表現に積極的に活用することができる。
- ・広い視野で物事を捉え、課題を発見し、その解決方法を模索した上で、表現の可能性を探究することができる。
- ・美術を学んだことにより身につけた表現力や創造性を、継続的な創作活動を通して社会に発信することができる。

尾道から外部へと発信

美術学科では、尾道という「場」で制作活動を行うことの可能性を最大限に活かすことを模索しています。

大学のある久山田水源地近くの静謐な環境は、個に集中し制作に打ち込むのに適しています。

また、大学近隣の豊かな自然や尾道の街並みは、多くのインスピレーションを与えてくれることでしょう。実際に、その豊かな自然環境や風景を活かした制作や、尾道の街中を実践の場とする展覧会、イベント参加等の活動、産学連携のプロジェクトや市民団体とのコラボレーション等も活発化してきています。

今後、これらの活動が一層充実し、ここでなければ創れない独自の価値を外部に発信していくことを目標としています。

充実した制作環境

美術学科には、日本画、油画、デザインそれぞれの領域の制作に適したアトリエがあります。学生たちは潤沢なスペースでじっくりと専門の制作に取り組むことができます。

それ以外に、大人数での実習に適した大空間を持つ石膏室や、各種工房施設があります（CG、写真、彫刻、金工、木工、塗装、陶芸、版画）。各工房ではそれぞれの素材についての専門的な技術を学ぶことができます。また、学生個々の自主制作でコースの垣根を越えて工房施設を活用することができます。



CG実習室

iMac 40台を常設した実習室です。レーザープリンター、大判プロッター、3Dプリンター、製本機、レーザーカッターなどを設置。グラフィックデザインを制作したり、映像編集することに特化した充実した設備です。



彫刻実習室

2つの教室と屋根付きテラスに加え、広々とした屋外制作スペースがあります。屋内では彫塑や造形制作を、屋外では石彫などを行います。自由素材の研究の場としての利用も可能です。



金工実習室

金工技法の彫金、鍛金、鋳金それぞれの制作を行う設備が整っています。西日本の美術系大学では珍しいブロンズ、およびアルミニウム鋳造のための溶鉱炉を備えています。金属素材をベースとした造形制作に適した環境を備えた工房環境です。



木工実習室

大型木材加工用の機材が揃っている機械室と、作業スペースで構成されています。器、家具、オブジェ、絵画のためのパネルや額作りなど、木質素材をベースとした多目的な利用が可能です。



写真スタジオ

4Kビデオカメラやデジタル一眼カメラ、照明設備などが揃った撮影スタジオ。デジタルに対応した機材を導入し、撮影技術を学びます。制作した作品を撮影することもできるなど、多様な利用が可能な工房です。



塗装実習室

各種スプレー塗装に対応した大型水洗ブース、乾燥炉はもとより、漆塗りのための塗部屋、漆室を新たに備え、塗装環境をさらに充実させています。



陶芸実習室

陶芸用電気釜2基、電動ろくろ10台を備えており、器からオブジェまで、幅広い制作が可能です。



版画実習室

銅版画、木版画、リトグラフ、シルクスクリーンの4版種すべてに対応可能な充実した工房です。特に大型銅版画用プレス機は、西日本の美術系大学でも最大級の機材を設置しています。



施設の様子を

Google ストリートビューでご覧になれます



日本画コースは、基本的な造形感覚、材料技法を修得し、現代の作家として個性豊かに創造し表現できることを目指しています。これからの作家活動や美術に携わる者として、最も重要な核となる内容の教育を行います。

日本画実習Ⅰ(2年次)

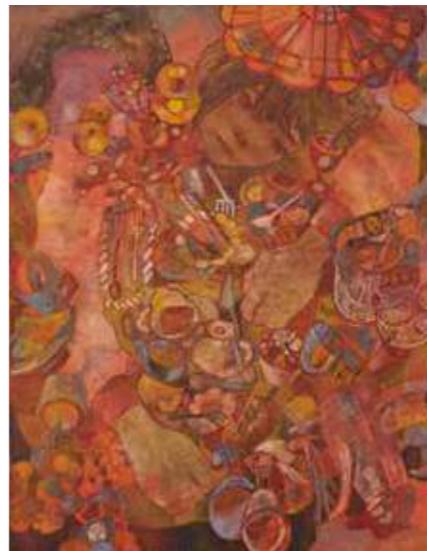
植物、静物、動物、風景、人物等を対象として幅広く課題を設定し、日本画材料の特性を学び、個性を活かしながら表現力を育成します。自らの絵画観をもとに自由な発想で画面に向かう意識を育てます。また箔や裏打ち技法の特別講習を行い、表現の可能性を学びます。

日本画実習Ⅱ(3年次)

個々の自由なテーマでの制作に取り組み、個性的な表現世界の発展を目指します。古典作品の模写を課して、色彩や空間に対する認識を一層深めます。また古美術研究演習では、事前学習を踏まえ京都・奈良を訪れます。

日本画実習Ⅲ(4年次)

今まで培った表現を前提に自由なテーマをより主観的に咀嚼し、研究制作を続け、より高度な創造表現を目指します。また直接作品に触れることを目的として美術館などを訪れ、美の本質に根ざした表現を模索させ感性を育てます。4年間の研究成果として卒業制作展を地域社会に向けて発表します。



上野ひろ 4年次人物制作
麻紙、岩絵具、膠 116.7×91cm



松下由佳 〈異郷〉 4年次卒業制作 麻紙、岩絵具、膠、箔 181.8×227.3cm



桑柚希 3年次風景制作
麻紙、岩絵具、膠 116.7×72.7cm



桑村芽依璃 3年次自由制作
麻紙、岩絵具、膠 116.7×91cm



高林実穂 3年次自由制作
麻紙、岩絵具、膠 116.7×80.3cm



佐藤美咲 4年次自由制作 麻紙、岩絵具、膠 162×162cm



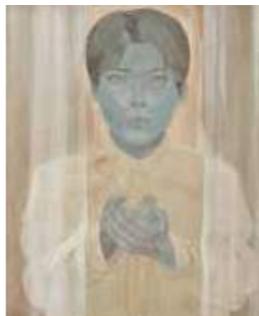
高蒼治 1年次ユリ制作
麻紙、岩絵具、膠 65.2×53cm



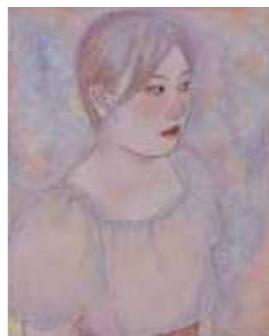
齋藤小雪 1年次ユリ制作
麻紙、岩絵具、膠 65.2×53cm



橋田百菜 4年次卒業制作自画像
麻紙、岩絵具、膠 65.2×53cm



田所三和 2年次絹本制作
絵絹、岩絵具、膠 65.2×53cm



板垣真子 2年次絹本制作
絵絹、岩絵具、膠 65.2×53cm



石川菜摘 2年次自由制作 麻紙、岩絵具、膠 80.3×116.7cm



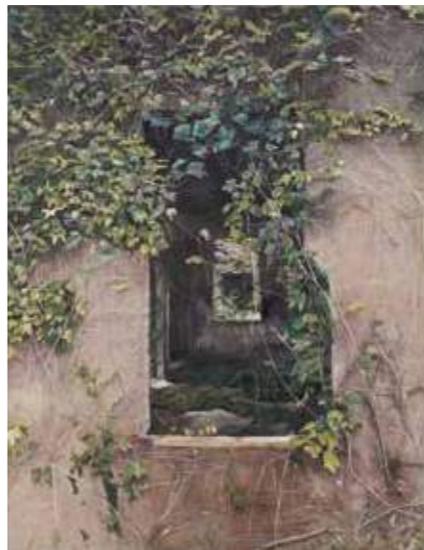
森雅治 3年次古典模写制作
美濃紙、岩絵具、膠 23×23.6cm



中野治佳 3年次人物制作
麻紙、岩絵具、膠 116.7×91cm



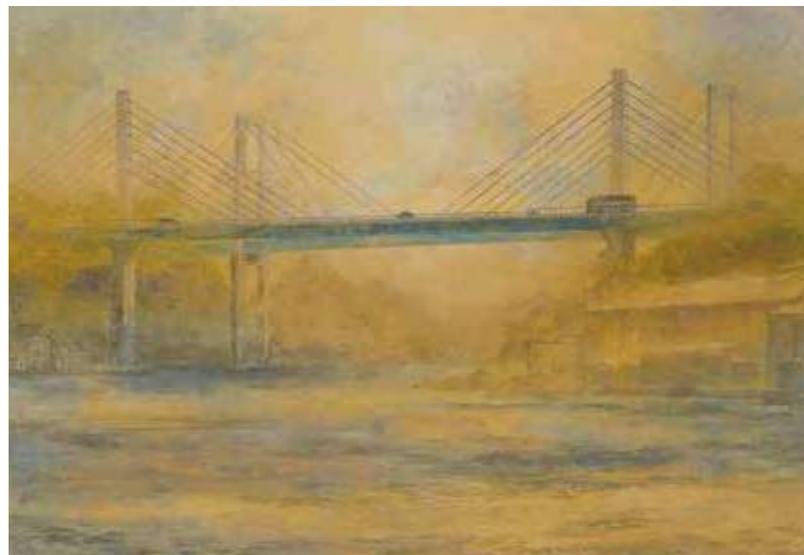
竹村花菜 2年次動物制作
麻紙、岩絵具、膠、箔 116.7×91cm



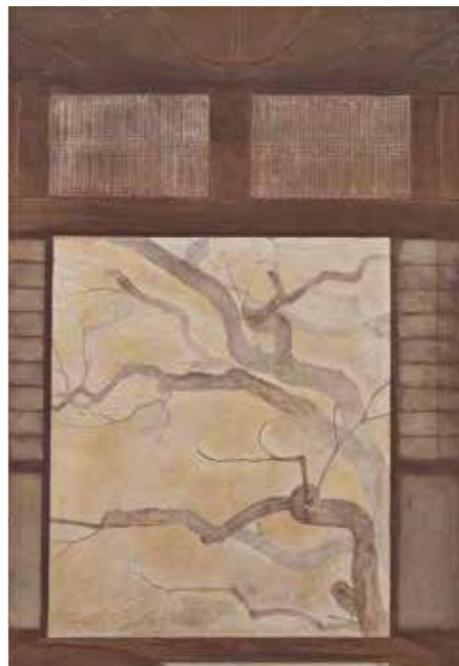
西川和佳奈 2年次風景制作
麻紙、岩絵具、膠 116.7×91cm



田中美結希 2年次人物制作
麻紙、岩絵具、膠 116.7×91cm



児玉萌々果 3年次自由制作 麻紙、岩絵具、膠 80.3×116.7cm



田上結芽 2年次風景制作
麻紙、岩絵具、膠 116.7×80.3cm



松本さと 1年次剥製制作
麻紙、岩絵具、膠 91×72.7cm



中西結命子 2年次静物制作
麻紙、岩絵具、膠 91×72.7cm



高岡由羽 2年次静物制作 麻紙、岩絵具、膠 72.7×91cm



大学院美術研究科日本画専攻2年
武田 乃梨子

私は絵画を通して、動物や人物をメインのモチーフに、静けさと重みのある独自の世界観を作りあげることに取り組んでいます。

絵画という数ミリの厚さの中で、その世界の奥行きをどこまで他者に伝えられるのか。肌に触れる温度、纏う湿度、微かな空気の流れ、静止した平面から鑑賞者の感覚に触れ、絵画の中にある空間を探らせる表現を探求しています。学部では技術面を集中的に取り組んできましたが、大学院進学後は鑑賞されることを前提とした絵画作りを意識し始めました。自身の世界観を絵画として表現するだけでなく、モチーフや画面構成、色調を通じて、鑑賞者の普遍的な感覚や経験を喚起し、空間をイメージさせる絵作りを心がけています。

また修士課程では、学部とは異なり本格的に作家として取り組む機会が増えました。研究会や演習、自主活動等の経験を通して、学生から一人の作家として意識が変わり始めたように感じます。より専門的な授業を受ける中で、技術的な面の成長とともに、自身の制作との向き合い方や今後の進路の選択肢も広がったように実感しています。



〈香箱・幸箱〉
116.7×91cm
2025
後期自由制作

猫の背中は、心地のよいにおいがします。草の匂いや土の匂い、少しの獣臭さが混じりあった自然の香りは私を少し幸せにしてくれます。

〈穏やかな情熱〉
116.7×116.7cm
2024
前期自由制作

力強さと野心を持ちつつも、穏やかな温かさを持っていただけるように。自身の抱負を絵に映した作品です。泥臭くも美しく踏み出せていたらと思います。



〈Moment〉
112.0×145.5cm
2024
後期自由制作

尾道で過ごした日々は次第に懐かしさを帯び、穏やかな街の流れさえも思い返すと切り取った瞬間のように感じます。斑らで褪せる記憶の中で、自身の中にある原点はいつでも鮮明に留めたいと願います。





油画コースは、絵画表現を軸に、各自が創作と生きることの可能性を主体的に追求していく姿勢を培うことを目標としています。

個々の制作の場を起点に、多様な学びや対話機会を作り出すことで、自己の興味・関心を模索し、課題を立て、自ら取り組む姿勢を養うと同時に、制作の場を共有することによって相互刺激の場を創り出します。

油画実習Ⅰ（2年次）

個々の学生が自身の資質を発掘し、表現の可能性を見出す機会として、各担当教員の視座を反映した多彩な実習やゼミ、および自主制作を並行して行なっていきます。また、同級生や他学年、教員、ゲストスピーカーとの意見交換を通じ、自身の考えを自覚的に発展させていく場も作り出します。

油画実習Ⅱ（3年次）

3年次では自身の表現内容を模索すると同時に、個々の表現にふさわしい形式、描画材料も実験しながら、制作を行っていきます。後期最後の進級制作ではその試みを大学美術館で展示します。また、古美術研究は作品鑑賞体験を自身の制作の糧とする機会になります。

油画実習Ⅲ・卒業制作（4年次）

4年次はこれまでの自主制作で見つけた課題を踏まえて、それぞれのリアリティを存分に追求していく時間となります。その成果は卒業制作として尾道市立美術館で開催される卒業制作展で展示されます。



馬庭匠 〈Wayback Machine〉 キャンバス、紙、油彩、木炭 サイズ可変



岩田千豊 〈if〉 卒業制作 紙、鉛筆、墨 1750×4580mm



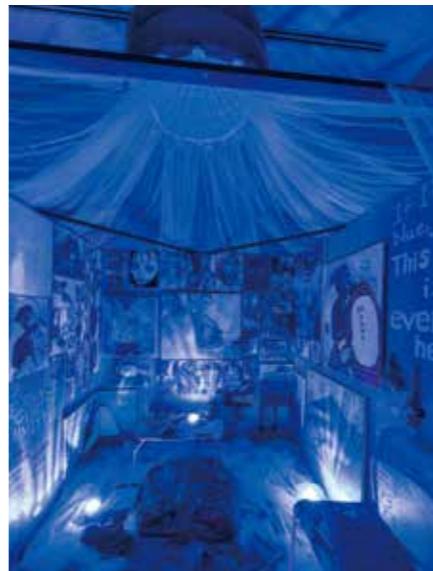
遠山奈実子 〈how sad〉 卒業制作
布、油彩、透明水彩、カラーペン、色鉛筆 サイズ可変



小川裕美 〈染〉 油彩、キャンバス 1940×1120mm
〈癡〉 木材、油彩 980×265×85mm



谷本万莉奈 〈記録〉 修了制作 ミクストメディア



大政風 〈Blue even heaven.〉 修了制作
ミクストメディア



中部安梨 〈SymmyS〉
3Dプリント 620×640mm



Zoe NAKAHARA 〈搾取の井戸〉
人工芝、造花、化学肥料、ガム、セメント、
LED 1020×1020×500mm



上田俊 〈ラバーダック・デバッグ〉 卒業制作
パネル、アクリル、油彩、木炭 2440×2840mm



羽生なつき 〈2024〉 3年次自主制作 220×250×27、210×150×28、200×200×30、190×190×30mm 白陶土、絵の具



篠原夏美 2年次観葉植物課題 油彩、キャンバス 165×1250mm



島田愛子 1年次自主制作
キャンバス、油彩 1167×910mm



今東瑠莉 1年次自主制作
キャンバス、油彩 500×550mm



中村美月 1年次構成実習
ミクストメディア 各100×100mm



池田希樺 1年次自主制作
木枠、毛糸 550×420mm



有川愛華 1年次自画像課題
イラストボード、色鉛筆
550×420mm



生藤瑞季 2年次自主制作
油彩、キャンバス 652×503mm



濱田奏 1年次自画像課題
イラストボード、クレヨン
543×380mm



美術学科油画コース4年
大下 和

私は主に女の子のアニメキャラクターのイメージを用いて造形表現を展開させています。描く女の子のことは「美少女」と呼んでいて、作品の中に広がる空想の世界は私を受け入れてくれる場所として存在しています。

表現手段としては主に紙やデジタル上でドローイングを行っています。最近の活動としては、学生や一般の学芸員、アーティストと交流し、作品制作の思考プロセスや技法について考察・発表していく「pink de tea time」という学外のプログラムに参加し、自己表現の可能性を模索しました。

私は自分が好きな表現に向き合うことが苦手でした。やりたいことがわからないまま、手探りで制作していた時期もありましたが、先生や仲間と制作について対話を重ねるうちに、少しずつ描きたい対象に向き合えるようになりました。経験豊富な先生方や、大学の環境の助けを借りながら、今後も自分に素直に表現研究を深めていきたいです。

次の目標として活動の幅をさらに広げようと思っています。グッズ展開や作品販売などにも挑戦しながら引き続き自分だけの表現の形を探求していきたいです。



Pink de Tea Time
2024/2025 成果発表展
における展示風景
アートギャラリーミヤウチ

本展覧会では学部1～3年生の間で制作したものを展示しました。私が多様な方法で表現してきた作品が一度に集まった時、表現したいものの核のようなものが見られるかもしれません。日々思い描く美少女とその世界について、鑑賞者と共に考えられればと思います。



日常的に描く紙へのドローイングとデジタルドローイング
2022-2025
油絵の具、アクリルガッシュ、
キャンバス、紙、映像、シール
など



おそロシア革命
「せかいよサケナよ。」
CDジャケットデザイン

デザインコースでは、各研究室の専門領域を基本としながらも、興味のあることは、領域を越えた指導を受けることが可能なカリキュラム編成となっています。これにより幅広い視野によるデザインの視点から表現できる能力を培うことができます。



デザイン実習Ⅰ（2年次）

2年次前期は選択課題に取り組み、自分の興味関心がどの分野にあるかを見極める期間とします。2年次後期より専門領域に分かれて基礎を学びます。

- ・広告やパッケージデザインを軸としたグラフィック表現の実践的研究
- ・イラストレーションの展開、アニメーションによる映像デザインの研究
- ・モーショングラフィック、実写などの映像デザインの研究
- ・各種素材を使った造形表現、空間造形表現などの研究
- ・木工、漆芸（塗装）を主とした器、家具などの自然素材によるクラフトデザインの研究

デザイン実習Ⅱ（3年次）

2年次で学んだ基礎をもとに各領域の課題に取り組み、さらに各領域が連携したコラボレーション課題で視野を広げ表現力を身につけます。後期に取り組む地域プレゼンテーション課題では3年次のまとめとして大学美術館にて展示、しまなみ交流館では発表を行います。

デザイン実習Ⅲ・卒業制作（4年次）

デザイン実習Ⅲでは自身で自由なテーマを設定し制作を行います。卒業制作では4年間の集大成として、その成果を尾道市立美術館にて展示・発表します。



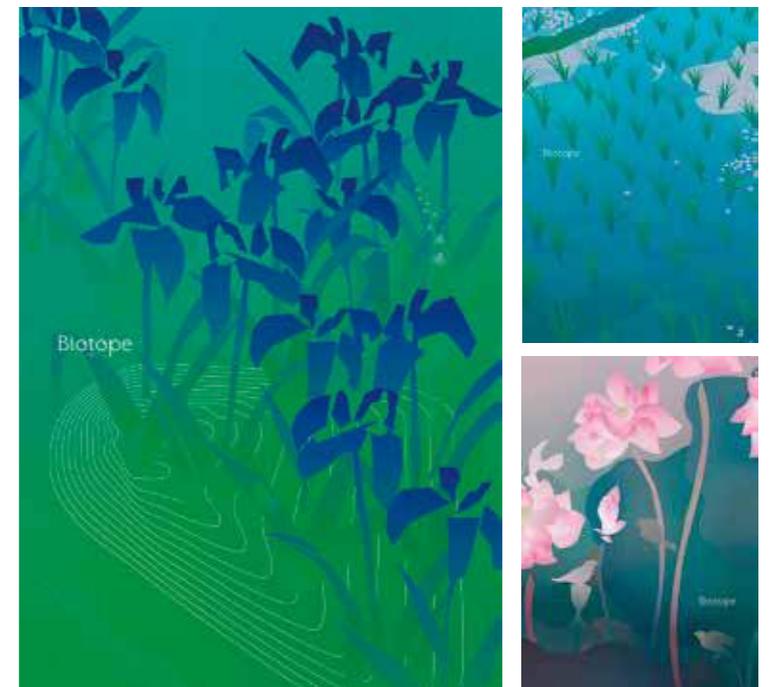
藤原咲朱 〈出身地ポスター課題〉 2年次デザイン実習Ⅰ



饗庭茉莉子 〈ねこ福神〉 4年次卒業制作 立体



松崎菜月 〈LE PARADIS〉 4年次卒業制作 ギフト



小林大純 〈Biotope〉 4年次卒業制作 ポスター



青木志織 〈耽読空間〉 4年次卒業制作 立体

辻田千紗子 〈あいなー神戸の里山ー〉
3年次地域プレゼンテーション花田詩穂 〈インテリアエレメント課題〉
3年次デザイン実習II

玉田真里夏 〈コミュニケーションロゴ課題〉 3年次デザイン実習II



村上桃花 〈コミュニケーションロゴ立体課題〉 3年次デザイン実習II



田中善 〈コミュニケーションロゴ立体課題〉 3年次デザイン実習II



村上桃花 〈onogo〉 3年次地域プレゼンテーション

北村春菜 〈オミチ 七佛めぐり -いやしの旅-〉
3年次地域プレゼンテーション松本未希 〈3文字コミュニケーション課題〉
2年次デザイン実習I

大場 愛菜 〈パン皿とスプーン〉 2年次デザイン実習I

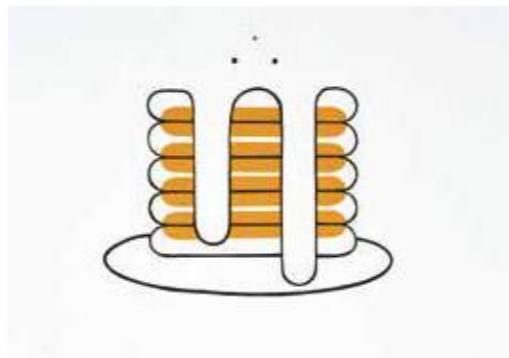
奥田真生 〈これまでとこれから〉
3年次地域プレゼンテーション



政田紗希(左)、梅本翔陸(右) 〈ランプシェード課題〉 1年次構成実習



高濱翔伍(左2つ)、政田紗希(右2つ) 〈おどろき盤〉 1年次デザイン基礎実習



川瀬朱里 〈総合基礎実習〉 1年次総合基礎実習



梅本翔陸 〈ハンガー課題〉 1年次構成実習



IGNATEVA ULIANA 〈ロゴ課題〉 1年次構成実習



美術学科デザインコース3年

高橋 成士

私はもともと絵を描くことが好きでしたが、デザインのように目的に応じた伝え方を考える機会はありませんでした。そんな中で、デザインには“模範解答”や“最適解”のようなものがあるように感じ、それを探りながら形にしていく過程が自分に合っていると思いデザインコースを選びました。2年次にはグラフィック・アドバタイジング領域を選択し、デザインを通じて人に特定の印象や感覚を与えられる面白さを実感し、さらに深く学びたいと思うようになりました。

印象に残っているのは、「ギフト」をテーマにしたパッケージデザインの課題です。私はお香のパッケージを制作しましたが、デザインの自由度の高さや、どこにテーマの要素を取り入れるかを考える面白さに気づき、パッケージデザインの奥深さを実感しました。選択肢が多いからこそ、自分の考えを整理しながら形にしていくプロセスがとても印象的でした。

また、定期的に行われるミーティングや講評では他の人の作品を見ることで新たな視点を得たり、制作の意図を聞くことで、自分とは異なるアプローチに気づくことができました。ミーティングでは同じ領域の人と制作段階の作品共有や意見交換ができ、先生方からもアドバイスをいただけます。自分の作品についてもさまざまな意見をもらい、それを取り入れながら制作を進めることで、毎回新しい発見がありました。デザインは一人で完結するものではなく、多くの視点を踏まえてより良い形にしていくものと改めて実感しています。

今後は、これまで学んできたデザインの考え方を活かしながら、自分の好きなことや個性を反映させた制作に挑戦し、表現の幅を広げていきたいと考えています。



〈連動課題〉 2年次デザイン実習I



〈連動課題〉 2年次デザイン実習I



〈ギフト課題〉 2年次デザイン実習I

美術学科教員はキャンパス内で創作・研究を行っています。

教員の研究室は美術学科棟の学生アトリエスペースの、廊下をはさんだ向かい側にあり、学生は多彩な専門領域で活動している教員の創作・研究現場を日常的に訪れることができます。

また、コース制をとっていることから、多くの創作・研究が共存していますが、各専門領域の垣根が低く、異なる領域の学生・教員間の対話が頻繁に行われているところも本学の美術学科の大きな特徴と言えるでしょう。



教授(日本画コース)

中村 譲

1964年 香川県高松市生まれ
 1989年 東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業
 1991年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程日本画専攻修了
 1993年 東京藝術大学大学院美術研究科後期博士課程
 絵画日本画専攻単位取得退学
 1994年 東京藝術大学日本画科非常勤講師(～2001年)
 [公募展]
 1994年 再興第79回「院展」初入選/東京都美術館
 1995年 第50回「春の院展」初入選/日本橋三越本店
 2001年 第56回「春の院展」奨励賞(以後2007,08受賞)
 2003年 再興第88回「院展」奨励賞(以後2004受賞)
 2006年 再興第91回「院展」日本美術院賞(大観賞)
 (以後2008年受賞、同足立美術館賞)
 2013年 第68回「春の院展」春の足立美術館賞
 [個展、グループ展]
 1994年 「有芽の会」展 法務大臣賞/有楽町西武
 2001年 「更生保護」(法務省保護局月刊誌)
 担当月表紙絵個展/ナカジマアート/銀座
 2007年 中村譲日本画展「Favorite scene」高松天満屋
 (以後百貨店開催、2010,2012,2014,2019,2022,2023,2024)
 2017年 香川県文化芸術選奨表彰
 2022年 小林和作賞
 現在 日本美術院同人、香川県文化芸術振興審議委員



〈雲予諸島懐想(村上海賊)〉紙本彩色 180×225cm 2024



教授(日本画コース)

鈴木 恵麻

1997年 東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業
 1999年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程日本画専攻修了
 [画歴]
 1999年 第54回「春の院展」初入選
 2001年 「有芽の会」全国更生保護婦人連盟会長賞
 2002年 「有芽の会」法務大臣賞
 再興第87回「院展」初入選
 2004年 第59回「春の院展」奨励賞
 (以後2016、2018、2020、2021、2024、2025受賞)
 再興第92回「院展」奨励賞
 (以後2009、2019、2020、2021、2022、2023受賞)
 2009年 再興第94回「院展」天心記念茨城賞
 2018年 第73回「春の院展」春季展賞
 日本美術院奨学金
 [個展、グループ展]
 2004年 個展「レスポワール展」/銀座スルガ台画廊
 2009年 個展 EMA作品展—鈴木恵麻作品展—/そごう横浜(2011年)
 2013年 個展「更生保護」
 (法務省保護局月刊誌)担当月表紙絵個展/ナカジマアート
 2021年 個展「鈴木恵麻展」/尾道市立大学美術館
 箱根芦ノ湖成川美術館コレクション展/茨城天心記念五浦美術館
 セレネ美術館開館30年・宇奈月温泉開湯100年記念「日本画の
 新星たち展」/セレネ美術館
 現在 日本美術院 特待



〈くせん〉紙本彩色 211.4×166.5cm 2024



講師(日本画コース)

山梨 千果子

2005年 尾道市立大学芸術文化学部美術学科卒業
 2007年 尾道市立大学大学院美術研究科修士課程(日本画)修了
 2011年 尾道市立大学MOU尾道市立大学美術館 スタッフ
 2013年 尾道市立大学芸術文化学部美術学科 助手(～'18年)
 [受賞・展覧会歴]
 2005年 第7回広島県岡山県大学美術系卒業制作選抜展(ふくやま美術館/広島)
 2007年 第9回広島県岡山県大学美術系卒業制作選抜展特別賞
 (ふくやま美術館/広島)
 修了制作「ナツしたく」・修了模写「法隆寺金堂第十一壁画(部分)模写」
 大学賞上賞
 第62回春の院展「涼音 すずおと」初入選(日本橋三越/東京・広島ほか巡回)
 2008年 現代の中国画と日本画展(グループ展)(ふくやま美術館/広島)
 HiBi 2008(グループ展)
 (MOU尾道市立大学美術館/尾道/'10、'12、'14年)
 2009年 再興第99回院展「聞こえるよ」初入選
 (東京都美術館/東京・広島ほか巡回)
 In Focus 展(グループ展)(MOU尾道市立大学美術館/尾道)
 2010年 揺籃展(グループ展)(MOU尾道市立大学美術館/尾道/'15、'18年)
 2014年 ツナガルケシキ(グループ展)(大三島美術館/愛媛)
 2016年 第4回郷さくら美術館桜花賞展(郷さくら美術館/東京)
 2017年 再興第102院展「なつのおと」奨励賞
 (東京都美術館/東京・広島ほか巡回)
 はなの日(個展)(かわうそ画廊/東京)
 2018年 第73回春の院展「みえる みられる」奨励賞
 (日本橋三越/東京・広島ほか巡回)
 2021年 尾道市立大学日本画展(グループ展)(小津和紙ギャラリー/東京)
 2022年 第77回春の院展「節季」奨励賞(日本橋三越/東京・広島ほか巡回)
 現在 日本美術院 院友



〈ぐわめき〉麻紙、岩絵具、箔、膠 160×210cm 2024



教授(油画コース)

小野 環

1973年 北海道函館市生まれ
 1996年 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
 1998年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程油画専攻修了
 1999年 東京藝術大学油画科非常勤講師(～2001年)
 現在 AIR Onomichi代表、NPO法人尾道空き家再生プロジェクト副代表理事

【個展】

2000年 「キツネ作戦」/フタバ画廊/東京
 2002年 「小野環展」/appel/東京
 2005年 「gardens」/ギャラリーそわか/京都
 2008年 「gardens 植木鉢の冒険」/ふくやま美術館/福山
 2010年 「足下の辺境」/尾道市立大学美術館/尾道
 2013年 「ユートピアの迷子石」/Utopiana/ジュネーブ※
 2021年 「Re-edit」/光明寺會館/尾道
 2025年 「百蝙蝠」/itiSETOUCHI/福山

【グループ展】

2004年 VOCA展/上野の森美術館/東京
 2007年 AIR Onomichi/尾道山手地区/尾道※(2011年※)
 2008年 tina.b プラハ国際現代芸術祭2008/プラハ市※
 2012年 UTOPIA ~何処にもない場所~/百島/尾道※(2013,14年)
 2017年 dr/op Beyond Boundaries/グッドマンアートセンター/シンガポール
 2018年 「複数形の世界のはじまりに」/東京都美術館/東京
 2019年 ONLY CONNECT OSAKA/クリエイティブセンター大阪/大阪
 2021年 第24回岡本太郎現代美術賞展 特別賞/川崎市岡本太郎美術館/川崎
 2022年 「いにしよによる一断片たちの囁きに耳を」/瀬戸内海歴史民俗資料館/香川
 (※作家三上清仁とのユニット)



〈再編 スタンダード のぞみが浜住宅〉 百科事典 2021



准教授(油画コース)

橋野 仁史

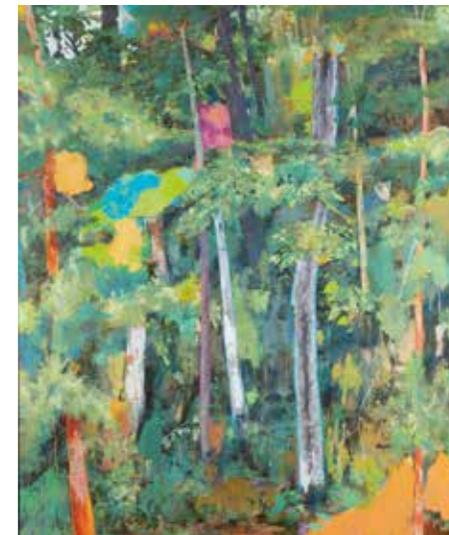
1982年 熊本県生まれ
 2007年 尾道市立大学大学院美術研究科修士課程(油画)修了
 尾道市立大学芸術文化学部美術学科 助手(～'17年)
 尾道市立大学芸術文化学部美術学科 助教(～'18年)
 2018年 尾道市立大学芸術文化学部美術学科 講師(～'22年)

【主な展覧会】

2007年 第81回国展/以後毎年
 2008年 第82回国展 絵画部奨励賞

尾道からの「3人展」/アートガーデン/岡山
 2009年 国展 受賞作家展/井上画廊/東京
 2013年 Gg展/ふくやま美術館/福山/以後毎年
 2014年 第88回国展 会友賞、準会員推挙
 2015年 国展 受賞作家展/銀座アートホール/東京
 KKT/ギャラリー向日葵/東京/以後毎年

2017年 個展 橋野仁史絵画展-Fog-/福山天満屋/福山/'19年
 2018年 Gg2展/福山天満屋/福山/以後毎年
 2019年 再考 人間と自然/広島県立美術館/広島
 2021年 中曾智子・橋野仁史2人展-風薫る-/GALLERY森・hako/福山
 個展 橋野仁史絵画展-光景-/福山天満屋/福山/
 2022年 meet a new/福山天満屋/福山/'23年、'24年



〈UNTITLED〉 油彩、キャンバス 194×162cm 2024



教授(油画コース)

稲川 豊

1974年 東京生まれ
 1997年 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
 2004年 CHELSEA COLLEGE OF ART AND DESIGN,
 ロンドン, MA FINE ART 修了

2007-09年 文化庁新進芸術家海外留学制度2年派遣/ロンドン/イギリス
 【個展】

2007年 “Yutaka Inagawa Solo show”/New Art Center/ニューヨーク
 2008年 “Nonplace overlay”/Bodhi Gallery/ロンドン
 2009年 “Sensory Cocktails”/Gallery Zandari/ソウル・韓国
 “Crazytokyo”/Galerie Sutry, Coye-la-Forêt/フランス

2014～15年 “The invasion of Cyberspace”/Unit 24 Gallery/ロンドン
 2015年 OTAK JEPUN | Yutaka Inagawa | Lorong Kekabu /クアラルンプール
 2022年 符と想う | eASY mECHANISM /MOU 尾道市立大学美術館 /尾道
 2023年 “Fluxosphere” /UUH OOH /香港
 2023年 “Speak Spindle つむ・くち”(2023) /Comma Space /シンガポール

【グループ展】

2007年 “Trajectories”/The Agency/ロンドン
 2007年 “The 8th SHINSAIMDANG Art Festival”/Gangueng Museum/韓国
 2008年 “Cosmopolis”/Pipy Houldsworth Gallery/ロンドン
 2017年 Floating Urban Slime /Sublime /アートギャラリーミヤウチ/広島
 2018年 I Say Yesterday, You Hear Tomorrow. Visions from Japan /Gallerie delle Prigioni /トレヴィーゾ/イタリア
 2019年 ONLY CONNECT OSAKA /クリエイティブセンター大阪/大阪
 2019年 Another Pair of Eyes (企画・出品) /Duddell's /香港



インスタレーション・ビュー 符と想う | eASY mECHANISM /MOU 尾道市立大学美術館 2022



准教授(油画コース)

西村 有未

1989年 東京都生まれ
 2014年 東京造形大学造形学部美術学科絵画専攻 卒業
 2016年 京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻(油画) 修了
 2019年 京都市立芸術大学大学院美術研究科博士(後期)課程美術専攻研究領域油画
 修了・博士(美術)学位取得

【個展】

2012年 「毛わらと油」美術出版社ビューイングスペース(東京)
 2013年 「TWS-Emerging2013: 例えは祖父まで、もしくは私まで。こんもり出現」
 TWS 本郷(東京)

2022年 「図形的登場人物と雪娘 シーズン2」FINCH ARTS(京都)
 2022年 「犬、石、物、語り(上巻)」HARMAS GALLERY(東京)
 2023年 「呼水(図形的登場人物たち)」Ritsuki Fujisaki Gallery(東京)
 「犬石物語(I still live there)」FINCH ARTS(京都)

2024年 「岸む音 / 際の上 Murmuring Shores / On the Brink」
 MOU 尾道市立大学美術館(尾道)

【グループ展】

2010年 「現役美大生の現代美術展-Produced by X氏」Kaikai Kiki gallery,
 Hidari Zingaro(東京)

2016年 「第3回CAF 賞入選作品展」3331 Arts Chiyoda(東京)
 2021年 「絵画の見かた reprise」/K Contemporary(東京)
 2021年 「Encounters in Parallel」ANB Tokyo(東京)
 2021年 「猫とマチエール」MtK Contemporary Art(京都)
 2022年 「Kyoto Art for Tomorrow 2022-京都府新鋭選抜展-」京都文化博物館(京都)
 2022年 「或る絵肌-物語るマチエール-」日本橋三越本店本館6階美術館(東京)

【コレクション】

山梨学院大学、高橋龍太郎コレクション、KANKURO UESHIMA COLLECTION

【ワークショップ】

2019年 練馬区立美術館

【賞ほか】

三菱商事アートゲートプログラム2013 奨学生、第3回CAF賞保坂健二朗賞

〈犬石物語り(I still live there)2〉 70×160cm
oil and oil bar and acrylic on canvas 2023



教授(デザインコース)

桜田 知文

1960年 広島県広島市生まれ
 1984年 東京藝術大学美術学部工芸科卒業
 1986年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程鍍金専攻修了
 [制作歴・受賞歴]
 1987年 第3回現代九州彫刻展 入選(石橋美術館)
 1991年 広島パークビル前に野外彫刻設置
 1992年 第30回日本現代工芸美術中国会展 広島市長賞受賞
 1993年 洞爺村国際彫刻ビエンナーレ 作品賞上(’97年も賞上)
 1995年 第34回日本現代工芸美術展 現代工芸大賞受賞
 1997年 さかいでArtグランプリ'97 秀作賞受賞(坂出市民美術館)
 1998年 第1回佐野ルネッサンス鍍金展 入選(第2回も入選)
 2000年 第40回日本現代工芸美術展 現代工芸本会員40回記念賞受賞
 2004年 第43回日本現代工芸美術展 現代工芸本会員賞受賞
 2005年 尾道市小中学校芸術祭 グランプリトロフィー制作
 2009年 八千代の丘美術館 第8期入館
 2010年 東尾道彫刻公園に野外彫刻設置
 2012年 第44回日展 特選受賞
 2016年 東広島市立美術館 作品収蔵
 2020年 桜田知文作品展 -こころのままに- (美術館あーとあい・きさ)
 2022年 第9回日展 特選受賞
 現在 日展準会員、現代工芸美術家協会評議員



〈いのち(めばえ)〉アルミニウム・真鍮
 H97×W25×D25cm 2024

准教授(デザインコース)

伊藤 麻子

2005年 愛知県立芸術大学 美術学部 デザイン工芸科 卒業
 株式会社GKグラフィックス勤務(～2008)
 2011年 東邦高等学校 美術科 非常勤講師(～2012)
 2012年 大垣女子短期大学 デザイン美術学科 講師(～2017)
 [活動歴]
 2005年～2008年
 (デザイン制作会社勤務中の実務)
 果汁飲料 PETボトル パッケージデザイン
 缶コーヒー パッケージデザイン
 紅茶ギフト パッケージデザイン
 化粧品 パッケージデザイン
 文具パッケージデザイン 他
 2009年～
 「skin sweets」パッケージデザイン
 展示会「二人ノ図鑑展」(2014, 表参道)
 展示会「感覚のかたち」(2019, デザイン教員展)
 緑茶商品パッケージデザイン他
 グラフィックデザイナーとしてデザイン業務に携わりつつ、
 真鍮による立体造形表現も思索している



〈市之瀬の里 ブランディングデザイン〉茶袋 2021



〈Shimanami Water リデザイン〉ラベル 2021



准教授(デザインコース)

林 宏

1967年 大阪生まれ
 1994年 東京藝術大学美術学部工芸科 卒業
 1996年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程漆芸専攻 修了
 2020年 尾道市立大学芸術文化学部美術学科 准教授
 [活動歴]
 2005年 日本文化財漆協会 常任理事
 ナチュラルマテリアルプロジェクト 循環型自然素材の開発及び研究
 2011年 漆芸を支える道具の調査研究
 2013年 作品収蔵 東京藝術大学 フィラデルフィア美術館
 [展覧会歴]
 2012年 東京藝術大学創立125周年記念事業「漆芸 軌跡と未来」
 招待出品(東京藝術大学)
 ナチュラルマテリアルプロジェクト(六本木ル・ペイン)
 器奏天回茶展(うおがし銘茶 築地新店)
 日本のいろ展2012(松岡山東慶寺白蓮舎)
 2013年 個展 林宏 漆の器展(栃木 アルゴノート)
 japanin vari [Natural material projects] (フィンランド ヘルシンキ)
 2014年 吉木呂の会展(新宿 伊勢丹)
 漆芸二人展(瑞玉ギャラリー 東京)
 2015年 草木と漆の器展(代官山 無垢里)
 日本のいろ 展(松岡山東慶寺ギャラリー)
 2016年 草木と漆の器展(代官山 無垢里)
 2017年 吉木呂の会展(松岡山東慶寺ギャラリー)
 2018年 陶と漆の器展(代官山無垢里)
 2019年 感覚のかたち展(MOU尾道市立大学美術館)
 陶と漆の器展(日本橋三越)
 2022年 はじまりのかたち展(MOU尾道市立大学美術館)



〈耳付漆皿〉W320×D285×H15
 ブラックチェリー、漆 2019

Hayashi hiroschi urushi design
<https://hayashihiroshi.net>

尾道市立大学 デザインコース クラフトデザイン
<https://onomichi-craftdesign.myportfolio.com>

准教授(デザインコース)

黒田 教裕

1987年 宮崎県生まれ
 2011年 武蔵野美術大学造形学部映像学科卒業
 2014年 武蔵野美術大学大学院造形研究科
 デザイン専攻映像コース退学
 2014～15年 武蔵野美術大学造形学部映像学科 非常勤講師
 [活動歴]
 2014年 「Media Ambition Tokyo 2014」
 六本木ヒルズ52F 東京シティービュー
 2015年 「New Creators Competition 2015」
 静岡クリエイター支援センター CCC
 2016年 「2016 CHANGWON ASIA ART FESTIVAL」 韓国・昌原市
 2019年 「続々 三澤 通」ギンザ・グラフィック・ギャラリー(映像編集)
 「松島オーブンスタジオ」岡山県倉敷市 松島分校美術館
 (公開滞在制作)
 「まにわ映像フェスティバル2019 勝山スクリーン・フィールド」
 岡山県真庭市
 「感覚のかたち」デザイン教員展 尾道市立大学美術館
 2022年 漆 田代明樹男・映像 黒田教裕「物質と記憶」のトレモロ
 三原市芸術文化センターポロロ



〈光風 — Quiet Shine〉映像 20分ループ UHD30p 2023



講師(デザインコース)

西原 美彩

1991年 広島県広島市生まれ
 2014年 広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科卒業
 2016年 広島市立大学大学院芸術学研究科造形計画研究修士課程修了
 広島放送株式会社勤務
 2018年 広島市立大学芸術学部
 映像メディア造形研究室 非常勤助教

【活動歴】

2014年 短編アニメーション「男と青虫」
 第2回新県美展(広島県立美術館) 優秀賞
 2015年 短編アニメーション「二十億光年のくしゃみ」
 ICAF2015 上映
 2016年 短編アニメーション「そぞろ」
 ICAF2016 上映
 2022年 短編アニメーション「鬼、布と塩」
 第9回新千歳空港国際アニメーション映画祭 北洋銀行賞受賞
 第31回CGアニメコンテスト 入賞
 第24回DigiCon6JAPAN 奨励賞
 日本アニメーション協会入会
 2023年 幻想の神楽 西原美彩展 -鬼、布と塩- アニメーションとその周辺
 第18回吉祥寺アニメーション映画祭 ジブリ美術館賞
 広島文化新人賞 受賞



〈八つ花のための試作〉アニメーション 15秒 2024



教授(日本美術史・博物館学)

市川 彰

1971年 愛知県生まれ
 1995年 京都大学文学部美学美術史学専攻卒業
 2001年 京都大学大学院文学研究科博士後期課程(美学美術史学専攻)単位取得退学
 2000～03年 萬野美術館学芸員
 2004～07年 京都文化博物館総務課主事
 2007～12年 京都文化博物館学芸課学芸員
 【論文等】

1997年 絵描きの玉手箱 伊藤若冲の鶏
 『茶道雑誌』第61巻第1号 河原書店
 1999年 若冲画に示されたもの-「動植絵」以前の三件の鶴を主題とする着色表現をめぐる-
 『研究紀要』第20号、京都大学文学部美学美術史学研究室
 2007年 若冲画に示されたもの2 -《初期作品》「雪梅雄鶏図」をめぐる-
 京都文化博物館紀要『朱雀』第19集
 2014年 名所図会に記された京都の「名宝」(一)
 尾道市立大学芸術文化学部 紀要 第13号

【展覧会】

2008年 永樂即全『源氏物語五十四帖』と十七代永樂善五郎展
 京都文化博物館企画展
 2008年 『読む、見る、遊ぶ 源氏物語の世界～浮世絵から源氏意匠まで～』展
 京都文化博物館特別展



准教授(西洋美術史・美学)

西嶋 亜美

北海道旭川市出身
 2006年 京都大学文学部人文学科卒業
 2009年 京都大学大学院文学研究科修士課程修了・博士後期課程進学
 2010～2012年 パリ・ソルボンヌ大学美術史考古学研究所招待研究員
 2013年 京都大学大学院文学研究科博士後期課程研究指導認定退学
 京都大学博士(文学)

【研究歴】

専門はフランス近代美術史で、画家ドラクロワやオリエンタリズムについて研究しています。

- ・『ドラクロワの物語画と文学』三元社、2025年
- ・『ドラクロワ作《キリストの埋葬(墓のキリスト)》(ボストン美術館)-新たな宗教主題表現の模索の成果として-』『京都美術史学』第5号、2024年、1-36頁
- ・『ウジェーヌ・ドラクロワの物語画と文学』京都大学大学院文学研究科課程博士学位論文、2016年
- ・「ドラクロワの「モロッコ旅行記」試訳」『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第16号、2017年、69-86頁
- ・「ドラクロワ「ブッサン論Ⅰ、Ⅱ」(1853年)試訳」『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第21号、2022年、67-80頁
- ・「19世紀中葉のパリで描かれた同時代の恋愛イメージ-ジュールペ作《田園の恋人》とワルツの図像」
 伊藤公雄・杉本淑彦編『ヴィジュアル・カルチャーの中の親密圏』京大出版会、刊行予定



助手(日本画コース)

村松 航汰

1999年 広島県生まれ
2021年 大学卒業制作 大学買い上げ
第10回美術新人賞デビュー2022 入選
2022年 第20回アートギャラリーホーム 入選
第77回「春の院展」初入選[同]24入選
再興第107回「院展」初入選[同]23,24入選
「尾道市立大学日本画選抜展 一明日の会」(福山天満屋/広島) [23]
2023年 個展「村松航汰 日本画展」(東広島芸術文化ホールくらら/広島)
尾道市立大学大学院美術研究科修士課程(日本画)修了
個展「村松航汰 日本画展」(ギャラリー杉/秋田)
「第31回チャリティー・アート展」(ギャラリー杉/秋田) [24]
「冬の風景展」(鈴画廊/東京) [24]
2024年 「気更来会」(岡山天満屋/岡山) [25]
「花くらべ」(Gallery SPACE 甍語る/広島)
個展「村松航汰 日本画展 ~大崎下島の光~」(MAF/広島)
「尾道市立大学 日本画展」(小津ギャラリー/東京)
2025年 個展「村松航汰 日本画展」(ギャラリー杉/秋田)
現在 日本美術院 院友



〈下山の歌〉 紙本彩色 170×215cm 2024



助手(油画コース)

名座 昌美

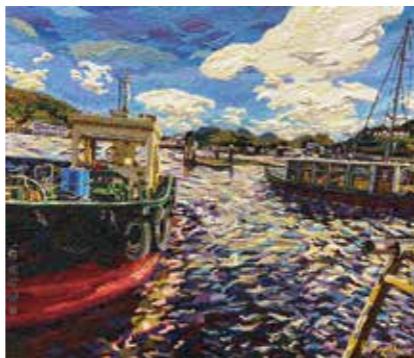
1997年 岡山県生まれ
2019年 ONLY CONNECT 企画補助/クリエイティブセンター大阪/大阪
2023年 尾道市立大学大学院美術研究科修士課程(油画)修了
現在 尾道市立大学 油画コース助手
制作歴、展覧会歴
2017年 「MYO」/かしく/岡山市
2021年 「キリトル-社会的摩擦から生じる〇〇-」/ Gallery Cafe ULTRA /尾道市
「初期微動」/おのみち歴史博物館/尾道市
2024年 「花くらべ」/ Gallery SPACE 甍語る/福山市
「LUFF/ ラフ」/ Offline 集会所 Space /尾道市
『本とアートと「ひとやすみ」~ Book & Art show ~』/
まちなか交流館Bank /尾道市
2025年 「夢の断片 Fragment Dream」/屋外展示/尾道市

「夢の断片 Fragment Dream」展示風景 平面 水彩画
屋外展示 2025

助手(デザインコース)

小西 美幸

1997年 香川県生まれ
2019年 2018年度美術学科卒業・修了制作展 大学買い上げ
2020年 令和元年度 小林和作奨励賞 受賞
2020・ZERO展 0号展 入選
「CROSS OVER Vol.25」(Yao Alternative Space/台湾・台中)
広島銀行尾道支店にて作品展示/尾道市
「Vigor 2021-GALLERY ART POINT 推薦作家美大選抜展」
(GALLERY ART POINT/東京)
2021年 奥野ビルギャラリーズアート展 入選
尾道市立大学大学院美術研究科修士課程(油画)修了
尾道市役所にて作品展示/尾道市
「しまなみ海道・秋の音楽休暇村2021」にて舞台背景の絵画制作/尾道市
2022年 第96回国展絵画部企画展示「若手作家の挑戦状~新しい眼一」
(国立新美術館/東京都)
2025年 第21回絵のまち尾道四季展 秀作

〈揺れる波、浮かぶ船、重ねた時〉 キャンバスに油彩
606×727mm 2024

赤木 範陸

テンペラ画技法演習
横浜国立大学 教授

秋山 隆

彫刻
木彫家

足立恵理子

比較芸術論
早稲田大学 非常勤講師

荒木 泰恵

古美術研究演習
研究者

池田 佳穂

絵画総合演習
インディペンデントキュレーター

石多未知行

デザイン総合演習(大学院)
一般財団法人 プロジェクション
マッピング協会理事

今氏 亮二

情報機能論
有限会社ホットタイプ工房 代表取締役

岩井 治樹

美術解剖学
鹿児島大学 准教授

宇高健太郎

日本画材料技法演習(大学院)
文化財保存修復学会 会員
膠文化研究会 運営委員会

太田 啓介

デザイン学特講(大学院)
(株)オリエンタルコンサルタンツ 技師

大野 直樹

図法及び製図(助手)
アーティスト

小田野尚之

日本画研究AⅠ、AⅡ、BⅠ、BⅡ(大学院)
日本美術院同人

加藤 芳夫

情報機能論
元サントリー食品インターナショナル(株)
シニアクリエイティブディレクター

亀岡 知子

デザイン学特講(大学院)
株式会社りそなホールディングス 弁護士

神邊 篤史

人間工学概論
名古屋経済大学 准教授

久保 博雅

情報処理演習
静岡英和学院大学 講師

倉持 充希

芸術論特講Ⅱ(大学院)
神戸学院大学 准教授

坂梨 好香

版画制作演習(助手)
美術家

佐古 百美

情報機能論
絵本作家 イラストレーター

白木 彰

デザイン論
グラフィックデザイナー
愛知県立芸術大学 名誉教授

菅原 智子

壁画技法演習
美術家

杉井 隼人

彫刻(助手)
美術家

大悟法淳一

編集とデザイン
株式会社こぼうデザイン事務所 代表

高橋早紀子

東洋美術史Ⅰ、Ⅱ
京都産業大学 准教授

武雄 文子

版画制作演習
アーティスト

田代 昭夫

塗装法演習
漆芸家

多田羅景太

デザイン史Ⅰ、Ⅱ
京都工芸繊維大学 助教

田部 健次

金工演習、デザイン実習Ⅰ(銀金)
金工作家

玉木 明

情報機能論
日本郵便株式会社 切手デザイナー

筒井 忠仁

古美術研究演習
京都大学 准教授

苔名 悠

東洋美術史Ⅱ、古美術研究演習
佛教大学 講師

富岡 采花

芸術論特講Ⅰ(大学院)
東京国立博物館 アソシエイトフェロー

中曾 智子

デザイン実習Ⅰ(陶芸技法)
陶芸家

並木 秀俊

日本画実習Ⅰ(箔押し、砂子、切金技法)
日本美術院特待、截金作家

西川真理子

写真(映像)演習(助手)
デザイナー

野田 尚之

写真(映像)演習、情報機能論、
デザイン実習Ⅰ
シネマトグラファー

檜皮 一彦

絵画総合演習
アーティスト

深谷 訓子

芸術文化論
京都市立芸術大学 准教授

福井 一尊

金工演習
鳥根県立大学人間文化学部 准教授

藤田 紗衣

版画制作演習
美術家

藤田 重信

編集とデザイン
フォントワークス株式会社
フォントデザイナー

松岡 剛

空間造形論
広島市現代美術館 主任学芸員

松本 祐助

木工演習、実習技術指導員(木工)
家具作家

真野 洋介

デザイン学特講(大学院)
東京工業大学大学院社会理工学研究科
准教授

村岡貴美男

日本画材料技法演習(大学院)
日本美術院同人、女子美術大学 教授

村上 由記

金工演習(助手)
造形作家

弥中 敏和

情報機能論
株式会社 GK デザイン総研広島 代表取締役

吉田 真菜

塗装法演習
漆芸作家

山崎 曜

デザイン実習Ⅰ、
デザイン総合演習(大学院)
製本家

山田 祐子

文化財保存学概論、日本画実習Ⅰ(裏打ち)
文化財修復技術者

山本 晶大

木工演習(助手)
美術家

山本 基

空間造形論
美術家

ロバート・プラット

絵画総合演習
九州産業大学芸術メディア学部 教授

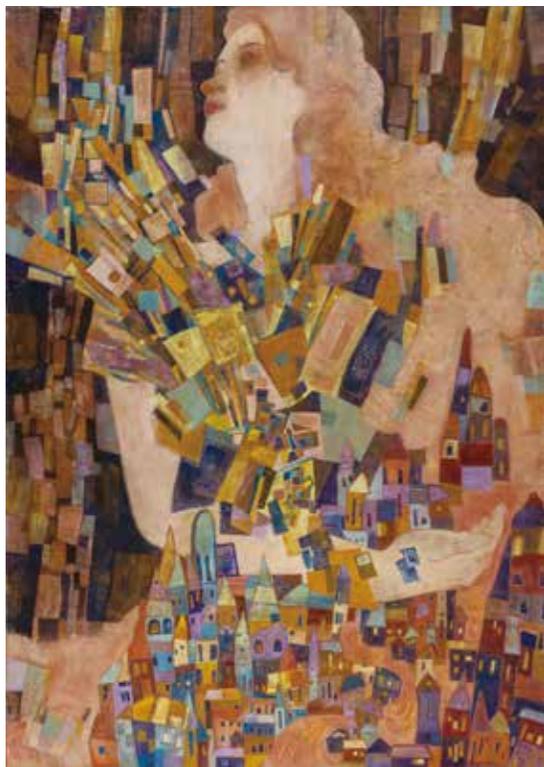
渡邊 義孝

建築環境論、空間造形論、図法及び製図
一級建築士、風組・渡邊設計室 主宰

美術学科では、卒業・修了制作展を開催しています。
学部4年間、大学院2年間の集大成となる展覧会です。

学生時代の集大成としての卒業制作はとても重要なものですが、卒業制作はアトリエで制作して終わりではありません。

美術学科では、毎年、学部4年間、大学院2年間の制作・研究の成果を発表する機会として尾道市立美術館と尾道市立大学美術館で卒業修了制作展を開催しています。学生たちは展覧会の計画から広報活動、図録制作、展覧会運営、終了後の次世代への引き継ぎという一連の活動をカリキュラムの一環として経験することになります。例えば、毎年自分たちでカタログを制作し、関係方面に配布すると同時に、展覧会を訪れる方々に販売しています。このような展覧会の成り立ちを実際に経験することが、卒業後の活動の糧となることに期待しています。



日本画コース卒業・修了制作展優秀作品
上野ひろ 〈無数の星へ〉 卒業制作
麻紙、岩絵具、膠 227.3×162cm



油画コース卒業・修了制作展優秀作品
岡田 麻里子 〈雑記〉 修了制作 メディウム、アクリル



デザインコース卒業・修了制作展優秀作品
黒山 穂乃果 〈ブックデザイン〉 4年次卒業制作 紙、布

美術学科は今年度で24年目を迎え、多くの卒業生たちが専門業界で活躍しています。

そんな卒業生3名から近況をレポートしてもらいました。

卒業生はどのような活動をしているのでしょうか。学部卒業後大学院に進学し、さらに専門分野での制作を重ね、作家を志向する人がコンスタントにいます。

絵画系(日本画、油画)の卒業生の中には創作活動を継続するためにアルバイトをしながら生活している卒業生も毎年一定数いますが、近年増加しているのが、中学、高等学校の美術の非常勤講師です。中には複数の学校を掛け持ちで勤務している卒業生もいます。

デザイン系では、専門のスキルを活かして、広告代理店やメーカー、デザイン制作会社、映像制作会社、放送局、ゲーム制作会社などへの就職の他、イラストレーターやアニメーターとして制作を続けている卒業生もいます。



2020年 大学院美術研究科 絵画研究分野 日本画修了 指田 葉月

2020年 尾道市立大学大学院美術研究科(日本画)修了
京都市を拠点に作家活動中

【展覧会・受賞歴】

2018年 再興第103回院展 初入選(深谷の街)[同'24年]

2019年 第18回福知山市 佐藤太清賞公募美術展 入選

第74回春の院展 初入選(東風)[同'23, '24年]

第63回尾道市美術展 大賞 尾道市長賞

2020年 個展「5時の憧憬と祈り」(Gallery TK2/東京)

2021年 尾道市立大学 日本画展 小津ギャラリー [同'24年]

2022年 個展-「記憶の灯-5時の憧憬と祈り-」(Gallery TK2/東京)

2024年 一京都・院展俊英作家グループ展-京 TSUNAGU未来(京都

高島屋/京都)

現在 日本美術院研究会員

大学院修了後は美術館(廿日市)に就職しました。その後、帰郷して現在は博物館(京都市)にて企画広報(広報物の作成や博物館運営に関わる広報)として勤めています。社会人でも長く作家活動を続けたいと考えて、制作時間と暮らしの両立が叶う仕事を模索し続けています。

いまの私が感じるのは、制作を続けるには周りの理解が欠かせないということです。私は幸いなことに、働きながらも院展への出品や作家活動を続けることが出来ていますが、本当に時間が足りません制作時間の確保や仕事との両立は想像よりも厳しいと考えてください。しかしながら何事にも真剣に取り組むことで道が続いていくと思います。一緒に頑張りましょう。

在学中は何事も将来の自分の糧になると考えて、教職員免許と学芸員資格を取得しました。日本画制作では院展に初入選できたことや、アートイベントにも積極的に参加して学生生活を充実して楽しんだと思います。思い返すと恵まれた環境で過ごせた大切なひとときでした。ここで出会った友人や、先生方は一生の宝だと思います。

学生の皆さんへ、歩み続ければどんな道も歩めます。表現者としていつまでも作家活動を続けてほしいと思います。



〈日日は好日〉



〈君憶う光芒〉



〈夕星を結んで〉



2014年 大学院美術研究科 絵画研究分野 油画修了 杉井 隼人

1988年 生まれ
2014年 尾道市立大学大学院 美術研究科修了
2019年 尾道市立大学彫刻実習助手 着任

【展示歴】

2015年 I氏賞選考作品展(グループ展 @岡山県天神山文化プラザ 岡山)

「ナイゾーム」(パフォーマンス @ハライソコーヒー 尾道)

「Temple Planet live」(パフォーマンス @シネマ尾道)

「島の江と牛のせ馬のせ」(グループ展 @Gallery ie 大阪)

「dr/op」(グループ展 @光明寺會館 尾道)

2017年 「ONLY CONNECT Beyond Boundaries」

(グループ展 @Goodman Arts Centre シンガポール)

2018年 「静界」(グループ展 @大新美術館 台湾)

Temple Planet 4DX(パフォーマンス @浄泉寺 尾道)

2019年 「ONLY CONNECT OSAKA」(グループ展 @Creative Centre Osaka 大阪)

2021年 「SPONGE HOUSE」(グループ展 @尾道歴史博物館 尾道)

2023年 「つぎはぎの音」(グループ展 @光明寺會館 尾道)

大学で必要なのは学び方を学ぶこと。知識や技法を知ること、学ぶということは違う。学ぶということが、自分の中で何が起ることなのかを知っておけば、どこへいっても、何を見ても学びになる。すぐに結果や生産性を要求されがちな今の世の中、自分の学び方を知っておくことは、周りに流されずに済む。その点において尾道市立大学は自分にとって都合が良かった。自分の好きだと思うものを批判したり、興味のないと思っていた作風や技法にあえて挑戦したり、思いつきのくだらないことでもよく教授たちに話を持っていった。それでも教授たちは話を聞いてくれ、彼らなりの考えを教えてくれた。卒業した今でも尾道に残り、作家の真似事をして暮らしている。作品を展示したり、人を集めて言論を交わす場を設ける活動などを行っている。尾道にもまた、私の話を聴き、作ったものを見て感想を述べてくれる人たちがいるからだ。また大学の彫刻実習の助手にも携わっていて、新入生に実習を通して自分というものがどうやって学んでいるのかを観察するように伝えている。大きなお世話かもしれないが。



2018年 デザインコース卒業 山口 祐佳

2018年 尾道市立大学芸術文化学部美術学科 デザインコース卒業
2018年 株式会社東北新社にプロダクションマネージャーとして入社



Google 合同会社
「Google Pixel 9Pro あなたの旅が、もっと広がる。」

尾大では映像を学び、卒業後は映像制作会社でプロダクションマネージャーとしてTVCM等の制作に携わっています。予算やスケジュールの管理が主な仕事なので、自分で手を動かしてモノを作ることには減りましたが、撮影手法を考えたり、作品を介してコミュニケーションを取ったりという行為は学生時代と変わっておらず、地続きになっているなど日々感じています。正直辛いと思うことも多いですが、携わった作品への周囲のリアクションを目にすると、素直に嬉しいなあと思える仕事です。

高校生のみなさん、いろんな人と話して、いろんなことを経験してください! それらが制作のヒントになるのはもちろん、自分以外の視点に気付き、知識や経験を身につけることで、制作や仕事に限らず、人生の選択肢が増えると思っています。愉快的な学生生活を過ごし、卒業から7年経った今でも私を歓迎してくれる人がいる尾道は、第二の故郷と言っても過言ではないほど大好きな街です。

まずは目いっぱい楽しんでください!



日本民間放送連盟
「違法だよ!あげるくん」あげすぎさん篇②



CMキャラクターの声優もやりました!
収録の様子



尾道市立大学美術館

地域総合センター

尾道市立大学附属図書館

情報処理研究センター

教職支援センター

国際交流センター

医務室・学生相談室

キャリアサポートセンター

2025-2026

Museum of Onomichi City University

MOU

2008年、尾道市立大学美術学科教育・研究プロジェクトとして、MOU尾道市立大学美術館における展示企画をスタートしました。以来、当館では本学美術学科・研究科学生、卒業生及び教員を中心に大学における教育・研究成果を様々な角度から発表してきました。



大学院 進級制作展



In Focus15 - 卒業生の現在 -



Curriculum - 授業作品展 -



アーティストトーク



ワークショップ



尾道市立大学美術館
朝平 敬香



岸む音/際の上 Murmuring Shores / On the Brink / アーティストトーク

2025年度のスケジュール

7月開催の「Curriculum - 授業作品展 -」では、現在の大学のカリキュラムを網羅的に紹介。その後、9月に卒業生の活動に焦点を当てる企画「In Focus (インフォーカス)」では、それぞれの領域で活発に創作活動を展開している瀬戸口祐佳、近藤優紀、船津さくらの作品を紹介。10月には愛知県立芸術大学、広島市立大学、本学の日本画合同企画「三大学合同 日本画授業作品展」を開催。11月はデザインコース教授、桜田知文の退任展を開催。本学着任時からの作品を展示します。他にも、授業と連動した3企画を開催。例年通り大学院2年生が院1年次の制作成果を発表する「進級制作展」のほか、油画コース3年次「進級制作展」、デザインコース3年次「地域プレゼンテーション課題 展示会」では、展覧会の一連の流れや展示作業についても学生が主体的に取り組みます。年度末には油画修了生である住井里帆、名座昌美による卒業生自主企画展「しんじょく」を開催。

Schedule	
尾道市立大学美術館「所蔵作品展」 3/15(土) - 4/6(日) 休館日 水・木曜日(祝日除く) 本学美術学科学生・教員・卒業生による所蔵作品の展示。	3
尾道市立大学 大学院美術研究科「進級制作展」 5/3(土) - 6/1(日) 休館日 水・木曜日 大学院美術研究科2年生が院1年次の制作成果を発表する「進級制作展」。	5
Curriculum - 授業作品展 - 7/12(土) - 8/11(月-日) 休館日 水・木曜日 1年次から3年次までの日本画・油画・デザインコースの授業作品を展示し、本学の美術教育の現状を伝える。	7
In Focus 16 - 卒業生の現在 - 9/6(土) - 10/5(日) 休館日 水・木曜日 本学卒業・修了し、各自で活躍している卒業生がそれぞれの分野(日本画、油画、デザイン)で制作した作品を展示し、展覧会の一連の流れや展示作業についても学生が主体的に取り組みます。	9
愛知・広島・尾道 三大学日本画学生作品展 10/18(土) - 11/3(月-日) 休館日 水・木曜日 本学・愛知県立芸術大学、広島市立大学、尾道市立大学が合同企画による日本画授業作品展。	10
桜田知文 退任展「このころのまにに」 11/15(土) - 12/14(日) 休館日 水・木曜日 本学デザインコース教授であり、本学のデザイン教育に貢献した桜田知文先生の退任展です。本学に在任し、展覧会制作した作品を中心に展示いたします。	11
第13回 高校生絵のまら尾道西學展 12/20(土) - 1/11(日) 休館日 水・木曜日 本学美術学科(12/29-1/3) 尾道市立大学と尾道市立高等学校との連携で開催されます。市内各所で同時開催し、尾道市立大学美術科を中心とした作品の展示を行います。	12
美術学科油画コース3年次「進級制作展」 1/17(土) - 1/25(日) 休館日 水・木曜日 2021年からの授業の成果として、油画修了生が制作している卒業制作作品を展示する卒業制作展です。	1
美術学科デザイン3年次「地域プレゼンテーション課題」展示・発表会 1/30(土) - 2/1(日) 休館日 水・木曜日 本学デザインコース3年次生による地域課題解決のための課題解決発表会、プレゼンテーション発表会です。	2
第22回 卒業制作展・第20回 修了制作展 2/5(土) - 2/15(日) 休館日 水・木曜日 本学の卒業制作展、卒業生・修了生の作品を展示します。本学卒業生による卒業制作展、修了生による修了制作展を開催いたします。	3
卒業生自主企画展「しんじょく」 3/20(土-日) - 4/12(日) 休館日 水・木曜日 2021-2023年度に本学油画コースを修了した卒業生、修了生による自主企画展です。	4

尾道市は商都として約850年もの長い歴史を有し、古代から現在に至るまで様々な文化を育んできたまちです。旧市街地を歩くと、あらゆる時代が混ざり合った不思議な魅力のあるまちであると感じることができます。この地を何度も訪れる観光客が多い理由は、「まだすべてを見ていないのではないか」とか「何度も来ているはずなのに、ここは来たことがない」など、市街地や斜面地の路地が複雑に絡まったラビリンスに魅せられているからなのかもしれません。新たな店が不思議な場所に突然登場するのも、また、時を経るとその店が次第に尾道の風景として馴染んでくるのも、このまちの持っている歴史の融合感覚といえます。

そのようなまちにある尾道市立大学の理念の一つに地域貢献があります。地域社会との連携は開学以来取り組んできた本学の大きな特徴といえるでしょう。そのなかで、学生と教員の長期間の取り組みで花開いたプロジェクトも少しずつ増えてまいりました。このような地域貢献活動の経験は、卒業後の活躍の場においても多大な成果を生み出すことにつながっています。ここ地域総合センターでは、多様なプロジェクトに安心して取り組めるようサポートを進めています。



地域総合センター
高垣 美晴



尾道学入門



教養講座



尾道文学談話会 広報物



経済情報学部公開講演会 広報物

2024年度受託研究・受託事業(抜粋)

令和7年尾道市成人式記念品 ポストカードデザイン制作

研究期間：2024年6月～9月
担当教員：伊藤麻子(美術学科准教授)
依頼元：尾道市教育委員会
参加学生：3名



美術学科4年 村上桃花

まちかどフードパントリー 看板デザイン制作業務

研究期間：2024年8月～10月
担当教員：伊藤麻子(美術学科准教授)
依頼元：尾道市社会福祉協議会
参加学生：1名



美術学科3年 高橋成士

因島土生商店街シャッターデザイン制作業務

研究期間：2024年6月～7月
担当教員：西原美彩(美術学科講師)、
伊藤麻子(美術学科准教授)

依頼元：土生町商店街連合会
参加学生：2名



美術学科4年
梅野壮真



美術学科4年
原田夏希

似顔絵制作業務

(しまなみ海道来島海峡サービスエリア、
大浜パーキングエリア)

研究期間：2024年11月2日、2025年3月20日
担当教員：桜田知文(美術学科教授)
依頼元：JB/ハイウェイサービス株式会社しまなみ営業部
参加学生：各日3名



美術学科4年 大下和/卒業生 Ng Tang Yuet
美術研究科1年 松下由佳/2年 藤川愛

他8件

受託研究4件 受託事業8件 計12件

2024年度 開催講座(主催)

尾道学入門公開授業(全7回)

5月～7月開催
講師：小川長、幸野昌賢、豊田雅子、真野洋介、大谷悠、
藤沢毅、林良司(すべて外部招聘講師)

尾道文学談話会(全6回)

4月～9月
講師：芸術文化学部日本文学科教員

教養講座(全3回)

10月2日、16日、30日開催
第1回 南郷毅(経済情報学科教授)
「安心してインターネットを楽しむために～情報セキュリティの基本～」
第2回 高島彬(日本文学科講師)
「ヒトを知るための言語学：認知言語学と言語相対論」
第3回 山梨千果子(美術学科講師)
「古典模写 ～うつしてまなぶ～」

教養講座スペシャル(全2回)

10月12日開催
第1回 吉田幸(日本文学科准教授)
「研究って面白い！～私の研究履歴をとおして～」
第2回 小野環(美術学科教授)
「『絵』から『場所』へ～これまでの実践を辿る～」

2024年度 開催講座(協力)

美術学科公開講座

「ウルシ塗りの箸とスズ鍍物の箸置きを作ろう！」
8月24日開催
講師：桜田知文(美術学科教授)・林宏(美術学科准教授)

経済情報学部公開講演会

「為替レートと日本経済の構造変化」
10月25日開催
講師：豊田利久(外部招聘講師)

経済情報学部森本研究室公開ゼミ

「尾道の歴史的遺産と集客～学生のアイデアから～」
12月22日開催
講師：森本幾子(経済情報学科教授)・森本ゼミ学生

第22回地域プレゼンテーション「デザイン×私のまち」

展示会 2025年2月22日～2月25日開催
発表会 2025年3月1日開催
芸術文化学部美術学科デザインコース3年生

尾道市立大学コンピュータ公開講座

「統計ソフトgretlでお手軽経済分析をやってみよう。」
2025年3月1日開催
講師：堀江進也(経済情報学科教授)

本学附属図書館は、久山田水源地のほとりにあって眺望にすぐれ、また山を背にして読書や学修に好ましい静謐な雰囲気を得ています。

附属図書館では、本学の各学部学科の学生の学修や教員の研究に対応できるよう、図書・雑誌・新聞・視聴覚資料・古文書・電子ジャーナル・データベースなどの資料があり、各種メディアの利用により、学修・研究・就職活動等に活用されています。学術分野だけでなく、小説や趣味に関する本などもあり、多く利用されています。

また、希望図書リクエストサービスや、文献複写・借用図書申請など、Webを使って手軽に申し込みできるシステムを備えています。調べもの相談などのレファレンスサービスも随時受け付けており、これらは多くの学生に活用されています。他の図書館等が所蔵する雑誌論文が必要になった場合など、遠慮なく受付で尋ねてください。

思索のための理想的な空間を大いに利用して本を読み、情報を収集し、学修や研究を進めて行ってもらいたいと願っています。また、研究・自主学修に限らず、「憩いの場」としても附属図書館を役立てていただきたいと思います。

現在、新館建設をおこなっています。(2026年10月開館予定)



尾道市立大学附属図書館

岡田 匠亮

尾道市立大学附属図書館

桑名 未来



高橋玄洋記念室

本学の前身、尾道短期大学一期生で、NHK連続テレビ小説「蘭子ひとり」(視聴率55.2%を記録)など多数の人気番組を手がけた脚本家・高橋玄洋氏の著作、脚本、映像、絵画、書、焼き物、書簡、写真など約870点余りの貴重な資料を展示しています。



下垣内文庫

近世地方俳諧の研究者である下垣内和人氏から寄贈を受けた計約3100点の近世俳諧資料です。これらの資料は、下垣内氏が長い年月をかけてこつこつと集められた、江戸時代から明治時代にかけての俳諧資料であり、地方俳諧の資料としてこれだけ大部に揃えることは難しく、たいへん貴重なものです。



一枚摺・可菴夏興「夕蟬や」



一枚摺・梅室秋興「夕かぜは」



一枚摺・三石七回忌追善「梅にわれ」



松本幸四郎・市川高麗蔵口上



一枚摺・羅風夏興「螢火の」



外観



書庫内



1階フロア



美術閲覧室
(マンガコーナーが設置されています)



尾道関連資料コーナー

尾道関連資料コーナー

尾道ゆかりの資料や、本学教員の著作、本学卒業生・在学生の著作などを収集し、自由に閲覧できるコーナーを設置しています。

また、その他に英語多読コーナー、仕事関連コーナー、展示スペースなどもあり、活用されています。

情報処理研究センターは、コンピュータや通信ネットワークなどから構成される尾道市立大学の情報システムを効率的に管理・運営し、教育・研究・教務の情報技術による高度化を推進するための機関です。

2023年10月の情報システム更改では、ノートパソコンやスマートフォンを携行する学生のため、キャンパス内のWi-Fi拡充、メールシステム等のセキュリティ強化、利便性向上を図りました。

また、進化し続ける情報社会に対応したセンターを目指しており、地域貢献と研究活動の推進などを目的として、コンピュータ公開講座や情報科学研究会なども開催しています。



第36回 情報科学研究会 (2024年度)



情報処理研究センター
田上 憲二

設備・サービス一覧

●情報設備

サーバ: 4台 (仮想サーバ: 37台)
貸出用ノート PC: Windows PC、MacBook
パソコン対応教室: 中講義室 (225 座席) 1、小講義室 (120 座席) 2

●提供サービス

SINET への接続による高速インターネット通信の提供
ポータルサイト (授業情報等の連絡、履修登録など)
学生証 (IC カード) による、図書、オンデマンド印刷システムの利用
Wi-Fi (学内 115 箇所にアクセスポイントを設置)
オンデマンド印刷 (10 台設置)、クラウドメールサービス
学外からの VPN 接続、Microsoft Office、ウイルス対策ソフトの配布
情報システム利用マニュアルの提供

●人的サービス等

専門性に優れた上級生・大学院生をシステム運用補助員に採用し、学生の質問等にすぐ答えられる体制をとっています。時間外でも、平日は翠明館の自習室を午後 10 時まで開放し、予習・復習の便宜を図っています (休日 (土日祝) は午後 8 時 30 分まで利用できます)。

2024年度 情報処理研究センター主催行事

●情報セキュリティ講習会 (対面)

2024年12月9日 (1) 10:40 ~ 11:10 (2) 11:20 ~ 11:50
教職員向け: 「情報セキュリティ講習会」
南郷 毅 (経済情報学部 教授)
2024年12月12日 13:10 ~ 14:40
学生向け: 「情報モラル編 + 日常のセキュリティ編の一部」
南郷 毅 (経済情報学部 教授)

●コンピュータ公開講座 (対面)

2025年3月1日 13:00 ~ 15:00
「統計ソフト gretl でお手軽経済分析をやってみよう。」
堀江 進也 (経済情報学部 教授)



教職支援センターは、教員を目指す学生を支援する機関です。運営委員を担当する各学科教員が教職課程全般のガイダンス、授業の履修方法や計画の指導、介護等体験や教育実習等の指導を行っています。また、例えば「自分は教員に向いているのだろうか」というような相談にも応じています。キャリアサポートセンターとの連携も行っており、公立学校の教員採用試験、私立学校教員公募、臨時的任用教員や非常勤講師の募集情報等の発信も行っています。

C棟1階にある教職支援センターのブースでは、教科書、教育新聞、教員採用試験情報誌、参考書、問題集等を整えています。教員採用試験対策に各自が取り組めるようにオンライン学修教材も導入しています。模擬授業や教育実習授業で教材作成が必要となったときに活用できる用具も取り揃えています。

本学で取得することのできる教員免許状は以下の通りです。

- [経済情報学部 経済情報学科]
高等学校教諭一種免許状 (情報)
高等学校教諭一種免許状 (商業)
- [芸術文化学部 日本文学科]
中学校教諭一種免許状 (国語)
高等学校教諭一種免許状 (国語)
- [芸術文化学部 美術学科]
中学校教諭一種免許状 (美術)
高等学校教諭一種免許状 (美術)

*なお、商業、国語、美術については、上記の一種免許状を取得した上で、本学大学院各研究科を修了し、所定の単位を修得した場合はそれぞれに応じた専修免許状を取得することができます。

国際交流センターは尾道市立大学における国際化を推進するため2011年に創設され、教職員13名で運営されています。主な業務は、学生の海外語学研修参加に対するサポート、外国人留学生の迎え入れや海外協定校との共同研究体制の構築などです。

また、海外の大学との学術交流も意欲的に行っています。これまでに、中国、台湾、ベトナムの大学計11校と交流協定を締結しました。

さらに、日本人学生と外国人留学生が相互に友情を育むための様々な異文化交流イベントの企画・運営や、外国人留学生が日本の生活習慣や環境に順応し、充実した留学生生活を営めるよう、授業や日常生活に対する支援をしています。

このように様々な活動を通して、尾道市立大学をグローバル志向の学生が在籍する国際的教育機関に発展させたいと思っています。



国際交流センター

KOBAYASHI Dawn

担当科目：「総合英語Ⅰ」「総合英語Ⅱ」「海外語学実践Ⅰ」「海外語学実践Ⅱ」

研究題目：教育心理学、自己効力感、コミュニケーション能力、パフォーマンスを用いた英語学習

指導目標：授業で学生がコミュニケーション能力を身に付け、留学や国際的な活動に関心を持つことを目標にしています。



国際交流センター

KLOEPFER Thomas

担当科目：「総合英語Ⅰ」「総合英語Ⅱ」

研究題目：環境経済学

指導目標：今後社会に出る際に、英語でのコミュニケーションが役立つことを知ってもらい、積極的に学が楽しさを感じてもらえるような授業を志しています。

国際交流センター

辰己 真由美



To future and current international students, welcome to Onomichi City University! International Office provides services such as helping with study abroad procedures and advising international students about study and life in Japan. Please take advantage of these services. Also, we hold various cultural activities and events throughout the year to promote cultural exchange between international students, Japanese students, and the local community.

We are looking forward to meeting you!

希望交換留学或已派遣到本校的各位留学生，尾道市立大学欢迎你！本中心负责提供办理有关留学的各种手续，及在日学习生活的指导和咨询等服务。请大家积极利用。此外，每年在校内外举办各种各样的文化交流活动，促进留学生与日本学生，本地区居民的文化交流。期待大家积极参与！

海外留学体験談

PSU(ポートランド州立大学)短期語学研修

経済情報学科3年

山岡 哲也

ポートランド州立大学での短期留学では、英語のコミュニケーションとアメリカの文化について学校やホームステイでの生活を通して学びました。学校の授業では、実践的な英会話を教わると共に様々なフィールドワークを行なって現地の人々の文化や考えを知ることができました。放課後は大学周辺の色々な場所を観光し、ショッピングを楽しみました。また、NBAの試合観戦や山でのハイキングなどのプログラムがあり、これらの活動を通して他の大学から来た日本人留学生や、ポートランド州立大学の人と親交を深めることができました。ホームステイでは、日常生活の中でのホストファミリーとのコミュニケーションを通して英語力を向上させることができました。私のホームステイ先は、アメリカだけでなくインドやサウジアラビア、中国など様々な国の出身の人たちが一緒に暮らしていたので、多様な文化や価値観を学ぶことができました。

今回の短期留学では、このように多くの貴重な経験をして自分自身の視野を広げることができました。



国際交流イベント



台湾 国立嘉義大学との合同カンファレンス



国際交流センター講演会



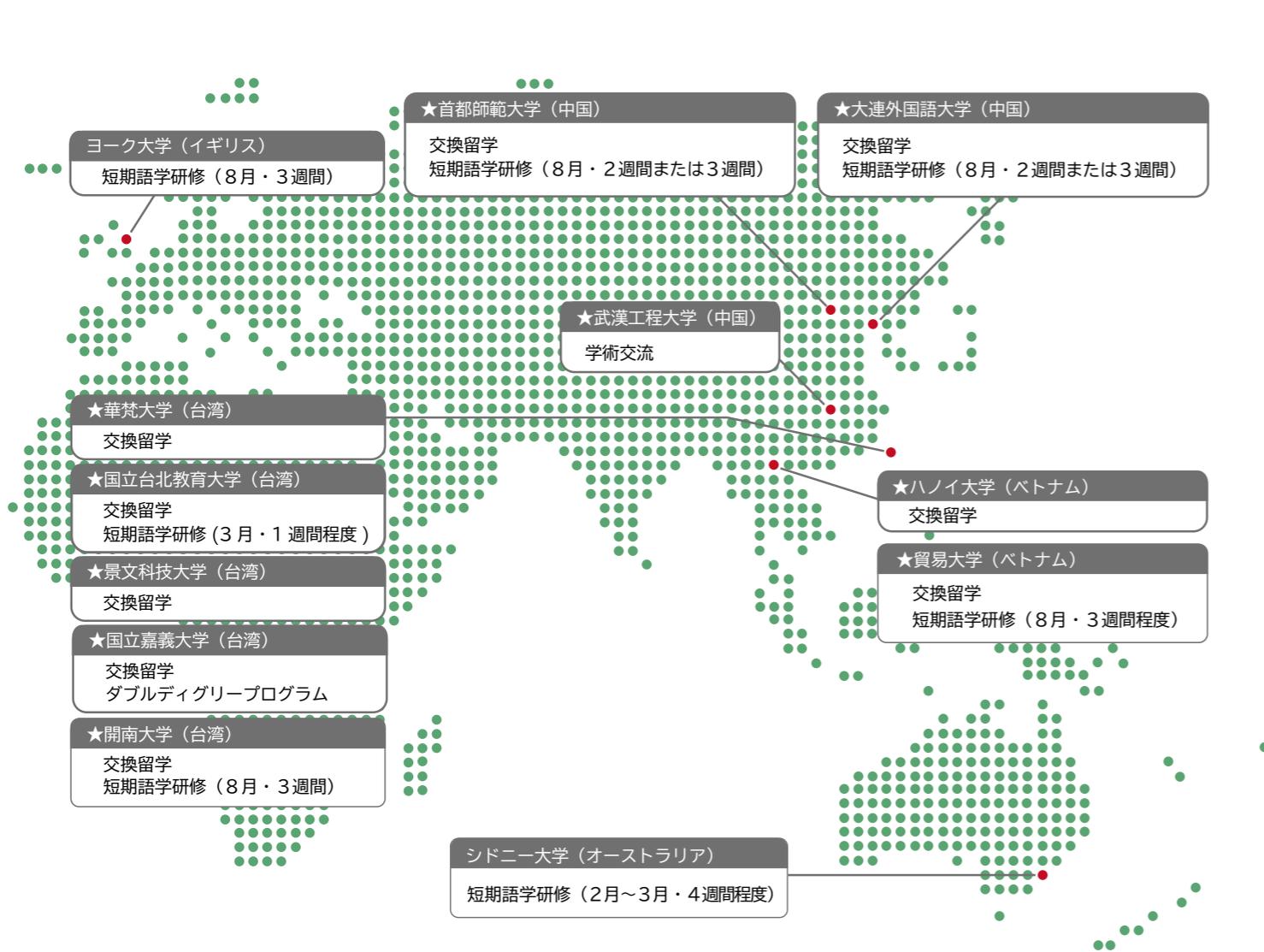
留学生歓迎会



One day trip (国際交流のための1日研修)



卒業予定留学生による報告会
及び地域の方々との交流会



★・・・海外協定校

★ハワイ大学マウイカレッジ
短期語学研修 (2月～3月・3週間程度)

協定校等における海外短期語学研修

本学では、協定を結んでいる海外の大学をはじめとして、短期の語学研修に参加できる制度を用意しています。渡航に必要な知識や理解を深めるため引率教員と事前学習を実施し、帰国後には事後学習や報告会を開催するなど、安全で実りのある研修になるようサポート体制を充実させています。また、本学後援会が研修費用の助成を行う制度も用意しています。

訪問先での研修プログラムは大学ごとに異なりますが、語学の学習のほか、文化体験や地元企業への訪問、さらには休日に景勝地を訪れるツアーが用意されている等、どのプログラムも工夫が凝らされています。外国語の習得のみを目的としたものではなく、ホストファミリーや現地の学生、市民などの様々な人々との交流を通じ、国際的な視野を持つグローバルな人材育成を目指した内容となっているのが特徴です。



尾道市立大学では教職員が連携して学生のみなさんのサポートにあたります。連携の拠点となるのが、医務室と学生相談室です。医務室では心身の健康をサポートする健康相談と障がいがある学生や困りごとがある学生の修学サポートの活動を行っています。充実した学生生活が送れるよう、学生のみなさんを応援しています。

医務室 専門スタッフ(看護師・障がい学生支援コーディネーター)が在室しています。

●健康相談

病気やケガ、様々な不安やストレスについてお話を伺います。



●修学サポート

障がいがある学生、困りごとがある学生の大学生活をサポートします。



学生相談室

心理カウンセラー(公認心理師・臨床心理士)によるカウンセリングを行います。学生本人やご家族からの相談に応じます。



関係学生団体「おののだいピアサポ」が学生の視点でピア・サポート活動を展開しています。



新入生対象履修相談会



おのまる

5つの柱による進路支援

●キャリアサポートセンター

キャリアサポートセンターでは、求人情報、企業情報、企業説明会の情報など「就職活動に関する情報」や、進学や資格取得など「進路全般に関する情報」を提供しています。学生の進路相談に応じるスタッフが常駐し、進路相談のほかに履歴書やエントリーシートの添削、面接指導など進路に関することなら何でも相談に応じています。また、キャリアカウンセラーによるカウンセリングも定期的実施しています。

●キャリアサポートセンター運営委員会

キャリアサポートセンター運営委員会では、定期的に就職ガイダンス、セミナーを開催することにより、学生の就職に対する意識の高揚を図るとともに、円滑な就職活動を行うことができるよう支援しています。また、地元企業ガイダンスや学内個別企業説明会、業界研究会を開催し、学生の就職活動がより具体的になるよう支援をしています。

●課外講座による実践的指導

全学年を対象に課外講座を開講することにより、学生の進路選択、就職活動の一助となるようなサポートを行っています。

・公務員受験対策講座（2・3年生向け）

「教養分野コース」、「専門分野コース」（行政系）をラインナップし、幅広い採用試験に対応できる講座となっています。

・簿記検定対策講座

日本商工会議所簿記検定合格の支援をしています。

・情報技術資格対策講座

MOS・Word、MOS・Excel、の講座を開講しています。

●教職員による積極支援

全教職員が、チューター制をはじめとする少人数教育によりきめ細やかな指導を行うとともに、求人開拓や関係強化のための企業訪問を実施して、積極的に支援しています。

●キャリア教育

授業科目として、1年生向け「キャリア形成入門」と、2～4年生向け「キャリア形成演習」「ビジネスキャリア入門」を開講しています。「キャリア形成入門」では、卒業後の社会的自立に向けて、自分らしい生き方や働き方を考え、主体的に取り組む姿勢を身につけます。「キャリア形成演習」では、実際の企業・団体での経営課題にチームで取り組み、プレゼンテーション資料を作成し発表することで、就業力や社会人基礎力を身につけます。「ビジネスキャリア入門」では、学生が社会や職業に対する理解を深めることを目的として、企業研究をはじめとする実践的なグループワークと、外部講師による働き方に関する講話を通じた学びを提供します。これにより、職業観や就業意識の形成を促し、将来の職業選択に資する基盤を築くことを目指します。



キャリアサポートセンター 講師

八木 力俊

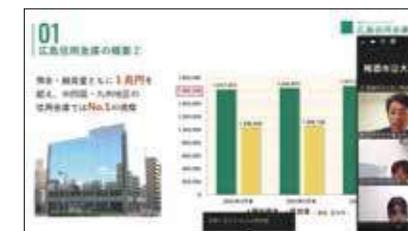
担当科目：「キャリア形成入門」、「キャリア形成演習」、「ビジネスキャリア入門」

研究テーマ：「組織開発」、「インターナル・マーケティング」、「キャリア形成」

進路支援の取り組み

進路選択は学生の人生に大きな影響を与える重要なことです。

キャリアサポートセンターでは、学生がやりたい仕事に就き、いかに自己実現できるかを基本とし、一人一人に合わせた適切な進路指導をします。近年、就労意識が低いままで入社したり、入社後にミスマッチが発覚したり、若者の早期離職が社会問題となっています。本学では社会人基礎力を育成するカリキュラムを取り込んだガイダンスやセミナーを開催し、就職活動を円滑に行うための知識や技術の習得だけでなく、卒業後も自己の資質を向上させ職業的に自立が図れる能力の育成をしています。教職員が一体となり、就職相談、求人開拓、情報提供を通して学生の進路選択を万全のサポート体制で支援していきます。



①インターンシップ

受入先企業と本学の合意で進める独自のインターンシップを行っています。2024年度は53名の学生が参加し、実習を無事終えることができました。三省合意で定義された内容に基づく就業体験を推奨し、企業との共同による「パーパス（企業の存在価値）を中心とした内的キャリア（やりがい）のマッチングを図るインターンシップ」を目指して、プログラム内容の充実を図ってまいります。また、事前学習、事後学習、報告会を組み合わせた通年のプログラムを通じて、学生の専門研究分野に関する認識を高めるだけでなく、職業観・職業意識を育成し、適切な職業選択を促進します。

②学内企業説明会

7月に業界研究会をオンラインで開催しました。オンラインならではの特性を生かして、幅広い地域・業界の企業に参加いただいています。

この業界研究会は、本学学生にとって企業の採用担当者との貴重な面談の機会となっており、就職活動への意欲醸成につながっています。また地元の企業を招いた対面形式での業界研究会も開催し、幅広く情報を収集できる機会を学生に提供しています。

③就職ガイダンス・業界セミナー・各種実践講座

主に3年生を対象に「就職ガイダンス」を開講しています。就職活動を円滑に行うための知識や技術の習得だけでなく、社会人基礎力を育成できるカリキュラムとなっており、卒業後も自己の資質を向上させ職業的に自立が図れる能力を育成する内容となっています。また、2年生、3年生を対象に企業の担当者を招いて、学内業界セミナーを開催しています。学生の職業観や勤労観の育成を図り、学生が産業や職業に関する知識や理解を深めるよい機会となっています。その他実践力を身に付けるためにSPI（筆記試験）対策講座や自己分析・エントリーシート作成講座、面接対策講座などを実施しています。

④就職・進路相談

キャリアサポートセンター職員や専門のキャリアカウンセラーによる進路相談を始め、エントリーシートや履歴書添削、面接練習を含む個別相談・指導を行っています。

⑤市内企業との連携

尾道市内の企業と学生との情報交換を目的として、市内企業を対象としたイベントやガイダンスを開催しています。3年生のみならず全学年を対象とし、学生に地元企業を紹介するだけの場ではなく、様々な業種・職種などを深く学習していく業界・企業研究という側面も持たせています。

就職状況

2024年度卒業生の就職率(就職希望者のうち、就職し得たもの)は98.5%(前年度96.9%)、内定者数は269名(前年度250名)となっています。

学科別の状況は、次のようになっています。

	卒業生	就職希望者	就職者	就職率
経済情報学科	217	201	199	99.0%(前年度98.0%)
日本文学科	56	48	47	97.9%(前年度91.7%)
美術学科	53	24	23	95.8%(前年度96.0%)
合計	326	273	269	98.5%(前年度96.9%)

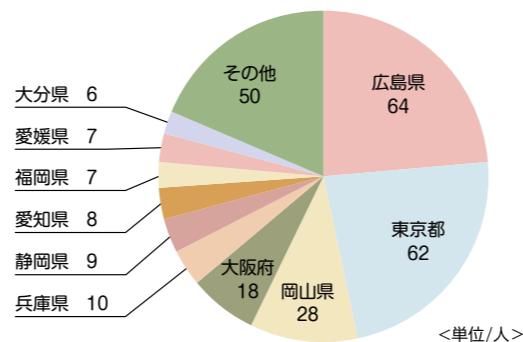
経済情報学科 99.0%

日本文学科 97.9%

美術学科 95.8%

(1) 地域別動向

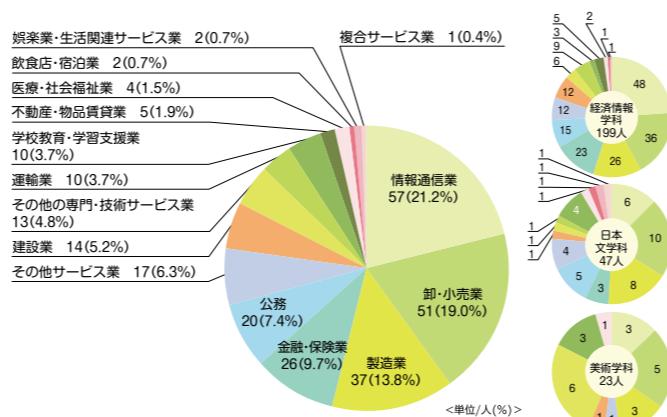
就職先を地域別にみると、115名が広島県・岡山県等の中国四国地域へ就職をしており、全体の42.8%(前年度38.8%)を占めています。また、大都市圏への就職者数については東京都62名(前年度67名)、大阪府18名(前年度33名)と、全体の29.7%(前年度40.0%)を占めています。これは、尾道市を含む中国・四国各地域の発展に貢献できる人材を輩出するだけでなく、大都市圏でも活躍できる人材を育成するという就職支援の方針として取り組んできた結果です。



(2) 業種別動向

業種別の就職先では、情報通信業(21.2%)、卸・小売業(19.0%)、製造業(13.8%)、金融・保険業(9.7%)で約6割を占めています。

学科別にみると、経済情報学科は、情報通信業、卸・小売業、製造業、金融・保険業が上位を占めています。日本文学科は、卸・小売業や製造業、情報通信業の他、公務、学校教育・学習支援業が上位を占めています。美術学科は、卸・小売業の他、グラフィックデザイナーなど自らの専門性を活かした分野への進出が見られます。



主な就職先 (過去3年間の就職先から抜粋)

〔株式会社〕等省略、順不同

経済情報学部 経済情報学科

- 建設業 積水ハウス 一条工務店
- 製造業 シャープ リコージャパン アイリスオーヤマ コロナ 三菱電機ビルソリューションズ パナソニックソーラーシステム製造 プレス工業 黒崎播磨 サンワサプライ ダイキョーニシカワ YKK AP 古河電池 荏原工業 補助工業 サタケ 三協立山 シギヤ精機製作所 指月電機製作所 上村工業 荻野工業 タカラスタンダード 浜松ホトニクス クリナップ フィガロ技研 丸善製菓 アンデルセン
- 電気・ガス・熱供給・水道業 広島ガス つばめガス 中電工 四電工 九電工 JFEプラントエンジニアリング
- 情報通信業 富士通Japan ANAシステムズ 大塚商会 日立ソリューションズ西日本 トコムCS中国 両備システムズ 富士通四国インフォテック NTTデータ九州 富士通Japanソリューションズ九州 ハイイレコン ネクストビジョン シーイーシー マーブル
- 運輸業 日本航空 西日本旅客鉄道 近畿日本鉄道 中部スカイサポート 中国バス
- 卸・小売業 ニトリ 良品計画 大創産業 ホシザキ中国 ハローズ 山田養蜂場 食協 山崎金属 ヤマエ久野 トラスコ中山 シンギ
- 金融・保険業 ゆうちょ銀行 第一生命保険 オリエントコーポレーション 広島銀行 中国銀行 トマト銀行 山陰合同銀行 愛媛銀行 伊予銀行 阿波銀行 徳島大正銀行 百十四銀行 十八親和銀行 静岡銀行 清水銀行 セブン銀行 広銀証券 しまなみ信用金庫 広島信用金庫 呉信用金庫 広島県信用組合 広島県中小企業共済協同組合 徳島県信用保証協会
- 不動産・物品賃貸業 三井住友トラスト不動産 長谷工リアルエステート 穴吹工務店 アーキテクトデベロッパー エスリード建物管理 大和リース 大東建託リジシング 大東建託パートナーズ カチタス
- 専門・技術サービス業 KPMG 税理士法人 税理士法人ゆびすい 山口フィナンシャルグループ メンバーズ 総合オリコム社
- 飲食サービス業・宿泊業・生活関連サービス業・娯楽 星野リゾート・マネジメント アバホテル ドートルコーヒー TBCグループ ミュゼプラチナム スペースエム 物語コーポレーション きらく 西日本リネンサプライ
- 教育・学習支援業 四谷大塚 福山大学 兵庫県内公立高等学校
- 医療・福祉 日本赤十字社 広島市社会福祉事業団
- 複合サービス業 福山市農業協同組合 三原市農業協同組合 晴れの国岡山農業協同組合 JA岡山市 山口県農業協同組合 JA淡路日の出 JA大分
- その他のサービス業 日本年金機構 ジェイアール西日本ウェルネット 三原商工会議所 マツダエース
- 公務 国税専門官 尾道市 福山市 広島市 広島県 香川県 京都府 大分県 静岡県 富山県 京都市 浅口市 真庭市 出雲市 倉吉市 山口市 岩国市 八幡浜市 三豊市 美馬市 淡路市 福知山市 加賀市 松坂市 安芸太田町 和気町 土庄町 大淀町 吉賀町 徳島県(警察事務) 兵庫県警 東京消防庁 京都市消防局 四国中央市消防本部 多度津町消防本部 自衛隊一般曹候補生

芸術文化学部 日本文学科

- 建設業 ナカタ・マック・コーポレーション
- 製造業 広島化成 アンデルセン 協同プレス トッピンググラフィックコミュニケーションズ グラフィック プリントバック 永野総業 マルケー食品
- 情報通信業 サメディアジョン CIC 尚文出版 徳島新聞社 フラッグ 日本ナレッジ 西鉄情報システム パラミックス琉球 メディコム
- 運輸業 岡山土地倉庫 日本郵便
- 卸・小売業 関包スチール ダイドー フジデン メガネトップ ザグザグ やしまグループ プレハビマわり キクチメガネ 福山三菱自動車販売 ハローズ
- 金融・保険業 広島信用金庫 しまなみ信用金庫 第一生命保険 明治安田生命保険 広島県信用保証協会
- 不動産・物品賃貸業 ニッポンレンタカーアーバンネット レント タカハシ
- 専門・技術サービス業 山口フィナンシャルグループ アイ・ケイ・ケイホールディングス 松屋フーズホールディングス シンユニティグループ
- 飲食サービス業・宿泊業・生活関連サービス業・娯楽 共立メンテナンス 但馬屋旅館
- 教育・学習支援業 公立中学校教員(広島県・愛媛県・群馬県・福井県・宮崎県・長崎県・福岡市・神戸市) 私立学校教員(英真学園 英真学園高等学校・尾道学園 尾道中・高等学校・明星学園 浦和学院高等学校) 学校事務(琉球大学)
- 医療・福祉 大阪市民病院機構 オールケア・グループ
- 複合サービス業 広島市農業協同組合
- その他のサービス業 社会保険診療報酬支払基金 全日警
- 公務 尾道市 福山市 世羅町 甲州市 広島県(警察事務) 京都府(学校事務) 浅口市 日向市 なら歴史芸術文化村

芸術文化学部 美術学科

- 建設業 一条工務店
- 製造業 あじかん 赤穂化成 タカラトミー 大阪印刷 キャステム
- 情報通信業 バルテス イートレックライズ マープリングプランニング スピッカート アバンテック グラйд クリーク・アンド・リバー社
- 卸・小売業 宮地電機 ハローズ キャン ほほ日 アミーゴ イズミ
- 不動産・物品賃貸業 ティーケービー
- 専門・技術サービス業 キタムラ 中国四国博報堂 デジマガラフ TCD キーワードマーケティング チトセアート アイディーエイ アドブレン 東京映像美術
- 飲食サービス業・宿泊業・生活関連サービス業・娯楽 C-United ローズガーデン 鞆スコレ・コーポレーション
- 教育・学習支援業 広島県内公立高等学校 岡山県内公立中学校 山口県内公立中学校 大分県内公立中学校 高松工芸高等学校 徳島県立名西高等学校
- 医療・福祉 創樹会
- その他のサービス業 尾道空き家再生プロジェクト イマジカデジタルスケープ 第一技研
- 公務 陸上自衛隊



ダイキョーニシカワ株式会社

経済情報学科
飯山 隼也

出身校：
島根県立松江商業高等学校

私は就職活動を通じて自己分析の大切さを実感しました。就活では自分の長所短所、学生時代に力を入れてきたことなど、自分自身について質問されます。その質問に答える上で重要になるのは今の自分を作り上げてきた様々な“体験”と“経験”です。これらを話の構成に入れて学んだこと身につけたこと、仕事での再現性などを伝えると説得力が高まり、深みを持たせることができます。そのため、自己分析はおろそかにせず時間をかけて過去の自分を振り返ってみてください。自己分析をする際は今までの体験や経験、得た学びを書き出してまとめてみる良いでしょう。経験や学びを深掘りしていくと自分の長所短所にもたどり着くと思います。また、周りの人視点からの自分について教えてもらえると新しい発見やより良い自己分析に繋がります。

大学では高校よりも自由度が高まるので色々なことに試行錯誤しながら挑戦してみてください。その経験や学びが就活にも生きてくるはずです。

最後に、私が企業の人事の方から言われて印象に残っている言葉は「就職活動はお見合いのようなもの」です。大企業や給料の高い企業が必ずしも良いとは限りません。自分の価値観に合い、力を発揮できる企業に就職するのが一番良いと思います。また、最終的に入社できるのは基本的に1社だけです。内定の多さや就活の終わる早さなどを周りの人と比較して焦らず、自分のペースで自分自身が納得して進路を決められるように頑張ってください。応援しています。



広島市役所

経済情報学科
藤原 灯

出身校：
広島県立安古市高等学校

私は公務員と民間両立して就活を行いました。民間の就活が始まるまでは希望の自治体の出題率が高い分野を中心に、少しずつですが勉強していました。民間就活が解禁されてからは、3、4月は民間就活に力を入れ、内定を頂いた後に本格的に公務員試験勉強をしていました。公務員と民間を両立して就活を行うのは身体的にも精神的にもしんどい所がありましたが、両者比較したうえで納得できる選択ができたので結果としてよかったと思います。

また、私が公務員試験に合格できたのは、効率を重視して勉強したことと公務員試験の二次対策に力を入れたからだと思います。公務員試験は幅広い教科の知識が求められますが、自治体によって出題率や配点比率が違います。全ての教科を完璧にすることはできませんし、基本的に6～7割点数を取れば一次試験は受かる自治体が多いので、苦手な教科には手を付けず、出題率の高い分野に力を入れて勉強しました。そして勉強と同時に二次対策にも力を入れていました。志望理由やガクチカ、自己PRを一次試験に通って焦って作成したのでは十分なものができなと考えたので、民間就活に力を入れている時期に実際に民間企業の面接を通して何度も練り直していました。

公務員試験のプロセスは長期間にわたり、試験勉強も楽しいものではありませんが、振り返ると公務員試験を受けてよかったと感じています。皆様が自分にとって納得のできる選択ができるよう祈っています。



株式会社トッパン グラフィックコミュニケーションズ

日本文学科
平井 麻縁

出身校：
広島市立基町高等学校

自己分析は、物語の登場人物を造形することに似ています。例えば、「優しい主人公」を作るとして、「なぜ主人公は優しくなったのか」という背景になる出来事を考えます。自己分析もこれと同じで、自分という人物をわかりやすく説明するために、説明の根拠となる出来事を思い出し、言語化する作業です。

就職活動では、入りたい企業に合わせて自分を作るのではなく、自分を理解した上で仕事をしている姿が想像できる企業を探すことが最も重要だと感じました。よく、自己分析と企業分析はどちらを先にやるべきか?という質問やそれに対する回答を見かけますが、私自身としては、「自分がやりやすい方から始める」というのが最適解だと思います。企業分析を先に始めたとして、気になった企業の理念や募集要項などを調べたり、説明会に参加したりした後、なんでも良いので感想を書き出してみます。その企業に対して面白い・つまらないと感じたら、なぜそう思ったのかを考えれば、それは自己分析になります。反対に、自己分析をする中で、自分が今まで経験してきた出来事から、好きなこと・向いていることをベースに企業を選択していけば、それは企業分析になります。

大学では、自分が興味のある分野について学び、研究できます。その中で自分の好きなもの、得意なことを見つければ、大学卒業後の進路も見えてくると思います。

そのために、キャンパスライフを全力で楽しんでください!



株式会社あじかん

美術学科
岩田 千豊

出身校：
広島県立高陽高等学校

就職活動を通して私が大切にしていたことは、「等身大で勝負すること」と「行動すること」です。

私は大学生活の大半を制作に費やしてきたため、サークルや長期インターンといった“目立った経験”がなく、エントリーシートや面接で何を伝えればよいか悩んでいました。しかし、選考を重ねる中で、企業が重視するのは経験の華やかさではなく、「その経験を通じて何を学び、どう考え、行動したか」を自分の言葉で伝えることだと気づきました。そこで、制作の中での課題や工夫を振り返り、素直に伝えることを意識した結果、自然と自信を持って話せるようになりました。

また、就職活動を始めた当初は志望業界や職種が明確ではなかったため、幅広く行動することに努めました。気になる企業があればインターンや説明会に参加し、社員の方に直接話を聞くことで仕事内容や価値観への理解を深めました。今はネットでも情報が得られますが、実際に足を運ぶことで、企業の雰囲気や社風を肌で感じ、「自分に合っているか」を直感的に判断する材料にもなりました。こうした行動を重ねる中で、企業選びの軸も明確になり、自信を持って選考に臨めるようになりました。

最後に、就職活動中は不安になることもあると思います。私もそうでしたが、振り返ると、不安の多くは「行動できていない自分」から生まれていたと思います。情報が足りない、分からないと感じたときこそ、一歩踏み出すことが大切です。説明会に参加する、先輩に話を聞いてみる、そうした行動の積み重ねが自信になり、不安を少しずつ希望に変えてくれるはずです。焦らず、自分のペースで頑張ってください。

21世紀と共に歩む尾道市立大学は、時代の要請に対応し、物事により創造的に立ち向かえる優れた創造性や判断力、それに裏付けられた専門的知識・能力や高い見識などの育成に特化した、実践的な教育を行う大学院修士課程を設置しました。学部教育で培われた専門的素養のある人材を、よりレベルを高めた学修と研究への取組により、高度の能力を有する専門的職業人や研究者等へ鍛え上げると同時に、広く時代と地域の要請に応えられる人材を育成する研究拠点を目指します。

経済情報研究科 経済情報専攻 (修士課程)

入学定員 8名
修業年限 2年
学 位 修士(経済情報)

経済と企業活動のグローバル化と少子高齢化、さらに情報化社会の到来等により、学修しなければならない事柄の高度化、専門化や多岐化が進んでいます。一方では学際的な研究が必要であり、そのことが大学院教育に新しい課題を提供しています。まず、大学院経済情報研究科(修士課程)は、経済・経営・情報科学という本来は異なった3分野の連携による高度な専門教育を提供し、学際的な研究を可能にしています。しかも、地域企業の経営者・就業者、地域行政担当者、および商業科教員等の社会人のためのリカレント教育や、情報処理能力に優れた人材の養成や税理士志望者の受入れ等の要請にも応えることを目指しています。すなわち、学問的裏づけがあり、かつ実践的問題解決能力をも備えた人材の育成が、本研究科の教育の狙いとなっています。なお、資格取得等に関しては、修士学位取得者に対する教職課程専修免許状(商業)と、税理士試験における「修士学位による試験科目免除」制度があります。商業に関する教科の修得等、一定の基準を満たせば、資格取得が可能となっています。

日本文学研究科 日本文学専攻 (修士課程)

入学定員 6名
修業年限 2年
学 位 修士(日本文学)

日本文学研究科の教育目標は、日本語、日本文学、日本の芸術文化を深く理解し、その理解のもとに国際的な感覚を身につけ、異文化を共有できる人、また、そうした能力により、社会活動や文化活動に指導的役割を果たし、社会の発展に寄与する人材を育成することにあります。

具体的には、日本文学・日本語学・漢文学等に関する深い学識と高度な研究方法を修得し、豊かな人間性と高い倫理観をもち、本研究科で身につけた学識と研究能力を生かせる人です。

そのために、日本の文学と言語文化を総合的に捉える視点を養い、基幹科目として日本文学、日本語学、漢文学に関する深い学識と高度な研究方法を修得します。言語文化の探究と創造に取り組むため、専門科目として、日本古典文学、近代文学、日本語学に加え、周辺領域である、言語学、国語教育学、米文学、比較文学、地域文学、文芸創作の特論をおいています。より広範な社会との連携のなかで言語文化の探究と創造に取り組むために、語学実践、英語学、哲学・倫理学の特論を関連科目としておいています。

美術研究科 美術専攻 (修士課程)

絵画研究分野(日本画・油画)、デザイン研究分野
入学定員 12名
修業年限 2年
学 位 修士(美術)

美術研究科では持続する創作活動を行うことができるよう、学部と大学院修士課程とを合わせた6年間のカリキュラムを一貫化し、高度な創作能力を育成するための体系的な教育を行っています。

授業科目は、芸術に関する幅広い視野と識見を養うため芸術の理論・歴史等を教授し、実技と演習によって構成される研究分野開設科目と合わせて美術の理論と実践の有機的な連携を図っています。

絵画研究分野

日本画と油画に関する制作・研究を行います。

- ・日本画では古典作品の表現、技術および材料の理解と造形感覚を修得させ、各自の個性的な創作力の育成を図ります。
- ・油画では、創作活動の充実を図るため各自のテーマを踏まえ、独自の絵画表現を追求し、また必要となる技法や素材の研究を促します。

デザイン研究分野

広い視野と柔軟な観察力をもって多岐にわたるデザインの領域を理解できるように、6人の専門領域の指導教員から多様な価値観を学び、さらに外部講師による講義、演習を体験し、各自の研究を多角的な視点から考察し、研究します。

Production Onomichi City University Committee of public relations
Chief Editor FUJIKAWA Yoshikazu (Professor: Department of Japanese Literature)
Art Direction ITO Asako (Associate professor : Department of Art & Design)
Editorial Design ONO Tamaki (Professor: Department of Art & Design)
Editor ONO Tamaki (Professor: Department of Art & Design)
OKAMOTO Shunsuke
(Associate professor: Department of Economics, Management & Information Science)
WAKAMATSU Kenji (Clerical Staff: Planning & Public Relations section)
MURAKAMI Norihiko (Clerical Staff: Planning & Public Relations section)

Campusmap Design HATA Yuina (Alumna, Department of Art & Design)
Accessmap Design FUJIHARA Saaya (Alumna, Department of Art & Design)
Print ART PRINTING co., ltd

©Onomichi City University 2025

尾道市立大学



久山田水源地

久山田町

尾道市立大学

〒722-8506 広島県尾道市久山田町1600番地2
TEL: 0848-22-8311 FAX: 0848-22-5460
E-mail: jimukyok@onomichi-u.ac.jp

交通アクセス

- ・JR山陽本線「尾道駅」バスターミナル3番のりばより
「尾道市立大学行」または「陽光台」
バスで約30~40分
「尾道市立大学」下車
- ・JR山陽新幹線「新尾道駅」バスターミナル3番のりばより
「尾道市立大学行」または「陽光台」
バスで約30分
「尾道市立大学」下車

こざかなくスポーツパークびんご



至尾道 IC

新尾道駅

尾道市立大学 周辺マップ

around map of Onomichi City University

栗原町

メイト

門田トンネル

門田町

平原 IC

平原

千光寺頂上展望台

千光寺

西園寺

MOU

尾道市立大学美術館

尾道大橋 IC

天寧寺

尾道市立美術館

なかた美術館

持光寺

尾道市役所モニュメント

至福山

至福山西 IC

尾道駅

吉浦町

イオン

U2

JR山陽本線

至広島



向島

沿革

1946年	3月	尾道市立女子専門学校設置許可
1950年	3月	学制改革により、尾道短期大学に改称
1998年	3月	尾道大学基本計画(案)
1998年	10月	尾道大学設置準備委員会の発足
2000年	12月	尾道大学設置認可
2001年	4月	尾道大学開学
2005年	4月	尾道大学大学院設置
2012年	4月	公立大学法人化を契機に「尾道市立大学」へ名称変更

尾道市立大学を設置する尾道市は、

千年を越える社寺に見られるように、

古くから瀬戸内の要衝として経済的にも発展し、

すぐれた芸術文化の伝統ある都市です。

半世紀余り前、まだ高等教育機関が少なかった時期に、

いち早く市立の女子専門学校を創設し、

それが学校制度の改革ですぐに短期大学に転換しました。

2001年4月、時代の要請に対応して短期大学を改組転換し、

四年制大学を開学しました。

さらに、2005年4月に、大学院修士課程を設置しました。

2012年4月には、公立大学法人化し、

大学名称を尾道市立大学に変更しました。

<https://www.onomichi-u.ac.jp/>